はやめぐり
for fusion_place

対応製品バージョン：9.0

第 3.0 版：2014 年 10 月 8 日
第 4.0 版：2017 年 9 月 20 日
第 4.1 版：2018 年 6 月 15 日
第 4.2 版：2019 年 3 月 4 日
第 4.3 版：2019 年 12 月 20 日

Copyright © 2019- fusions corporation

fusion_place は、株式会社フュージョンズの商標です。

Oracle, Java は、米国 Oracle Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。 Microsoft, Windows, Windows Vista, Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他のブランド名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

このチュートリアルの著作権は株式会社フュージョンズおよびその供給者に帰属します。著作権者が発行した文書による許可がない限り、個人的な使用目的以外でこのチュートリアルの一部または全部をいかなる形式または方法でも（転写、記録、情報検索システムへの利用などの電子的または機械的な方法を含む）複製または転載することを禁じます。

警告: このチュートリアルに含まれる情報はすべて、予告なしに変更されることがあります。株式会社フュージョンズは、このチュートリアルの誤りに対して責任を負いません。また、このチュートリアルの提供、実行または使用に関して生じた損害に対しても責任を負いません。

株式会社フュージョンズ
（本店所在地：東京都港区）

文書名：	fusion_place はやめぐり
文書バージョン：	4.3.0
公開日：	2019 年 12 月 20 日

Copyright © 2019- fusions corporation

目次

はじめに 1
はやめぐりを始める前に 1
うまくいかない時には 1
作成するシステムの概要 2
モデルケースのご説明 3
1 Excel-Link を使用する 4
1.1 Excel-Link でシートにデータを取得する 4
2 Excel-Link で予算データを入力する 7
2.1 店舗別予算を入力する 7
2.2 予算を集計して確認する 9
2.3 月次報告帳票に予算値を表示する 10
3 Excel-Link ピボット検索を使う 11
3.1 検索条件を指定し、ピボット検索を実行する 11
4 ディメンションと元帳を設定する 15
4.1 新しいアプリケーションを作成する 15
4.2 期間表を選択する 18
4.3 シナリオを登録する 20
4.4 会計年度を登録する 22
4.5 「店舗」ディメンションを設定する 23
4.6 「商品部門」ディメンションを設定する 31
4.7 「勘定科目」ディメンションを設定する 33
4.8 ディメンションメンバの登録と管理について 35
4.9 「店舗・商品部門別利益」元帳を作成する 36
5 実績データを取込む 39
6 Excel-Link で月次報告資料を作成する 40
6.1 シートのレイアウトを確認する 40
6.2 シートに Excel-Link 用の設定を加える 42
7 Excel-Link で予算入力表を作成する 54
7.1 予算入力のための Excel-Link の設定方法を確認する 54
7.2 予算データの入力 55
7.3 （参考）実績データ取込み用ファイルの Excel-Link の設定 56
8 簡易版フォームを使用する 57
8.1 簡易版フォームで予算データを入力する 57
8.2 簡易版フォームで予実データを表示する 63
8.3 表示したフォームを Excel に出力する 64

Copyright © 2019- fusions corporation

9　簡易版フォームを作成する 65
9.1　フォームリストを作成する 65
9.2　年間予算入力フォームを作成する 67
9.3　売上高・総利益集計表フォームを作成する 71
10　fusion_place をさらにご活用いただくために 81
11　より高度な機能のご紹介 83
11.1　事前準備 85
11.2　ご紹介機能① 高度なインポート 86
11.3　ご紹介機能② レイアウト設定 89
11.4　ご紹介機能③ 計算結果の保存、チェック 91
11.5　ご紹介機能④ ドリルダウン 96

Copyright © 2019- fusions corporation

はじめに

fusion_place の世界へようこそ。

この「はやめぐり」は、fusion_place ユーザの方を対象に、アプリケーションの作成と Excel および簡易版フォームによるデータ入出力をご理解いただけるよう作成したチュートリアルです。

このチュートリアルを行えば、fusion_place を皆さまの業務に具体的にどのように適用できるのかイメージが湧いてくると思います。また、ここでは説明しきれない fusion_place の高度な機能を、ユーザマニュアルを読みながら活用していくための準備ができたことになります。

はやめぐりを始める前に

はやめぐりを始める前に、ユーザマニュアルの「fusion_place をセットアップする」をご参考に、お手もとのコンピュータに、fusion_place をセットアップしておいて下さい。

対象バージョン：fusion_place 9.0

ユーザマニュアルは、fusion_place のインストーラと同じ圧縮ファイルに収められている fusion_place-usermanual.chm というファイルをダブルクリックすれば表示できます。

fusion_place が存在しない環境に fusion_place を新規インストールした場合は、はやめぐりで使用する「SAMPLE1」「DEMO」アプリケーションが作成されます。

既に fusion_place のデータベースが存在する環境にインストールした場合は、2 つのアプリケーションは作成されません。この「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルの「SAMPLE1.fpbackup」「DEMO.fpbackup」アプリケーションバックアップファイルから、アプリケーションを作成してください。

作成方法はユーザマニュアルの以下の箇所をご覧下さい

⇒「操作の手引き」－「01.マネージャ」－「10.設計」－「01. アプリケーションを作成し、基本情報を設定する」

－「01.【設　】アプリケーションを新しく作成する」

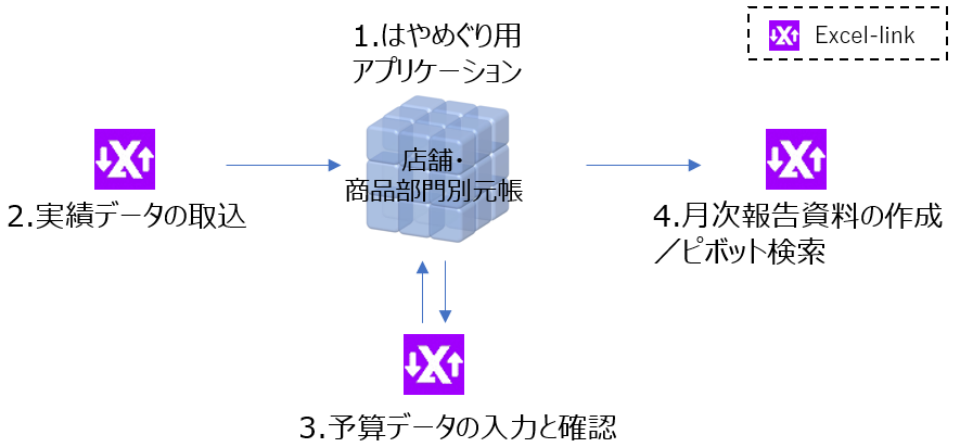
うまくいかない時には

はやめぐりの途中で、どう設定すれば良いかわからなくなった時や、正しく設定したつもりなのにシステム処理がうまくいかない時には、fusion_place のインストールに伴って自動作成されるアプリケーション「SAMPLE1」をご覧下さい。SAMPLE1 の設定内容は、このチュートリアルで作成するアプリケーションと全く同じです（アプリケーションラベルを除く）。また、インストーラに同梱されている SAMPLE1.xlsx は、このチュートリアルで使用する「はやめぐり_ひな形.xlsx」の完成版です（シート上の接続先アプリケーションラベルセルの内容は”SAMPLE1”となっています）。これも合わせてご参照下さい。

Copyright © 2019- fusions corporation

作成するシステムの概要

下図は、この「はやめぐり」の第 7 章までで作成するシステムの全体像です。



1. 図の中央部分　－　まず、はやめぐり用のアプリケーションを作成し、その中に、店舗・商品部門別の売上高や粗利・経費のデータを納める箱として「元帳」をひとつ作成します。
2. 図の左側部分　－　実績データは、会計システムからデータファイルとして提供されたものを「Excel-Link」を用いて元帳に書き込みます。
3. 図の下側部分　－　各店舗の予算を Excel シートに入力し、「Excel-Link」を用いて元帳に書き込みます。入力するだけではなく予算値の集計結果を同じ Excel シートで確認することもできるようにします。
4. 図の右側部分　－　月次報告資料も Excel シートとして作成します。「Excel-Link」を用いて、fusion_place の元帳のデータをもとに、さまざまなレイアウトのシートを作成します。また、検索条件を指定してピボットテーブル形式でデータを分析することもできます。

fusion_place の「アプリケーション」とは、特定の業務目的を実現するための設定・データの集まりです。設計者は任意のアプリケーションを設けることができます。例としては、以下のようなものがあるでしょう：

・部門予算管理アプリケーション
・月次損益報告アプリケーション
・製品群別採算管理アプリケーション

システム内のデータは、アプリケーションごとに区分されます（「ライセンス」と「ユーザアカウント」に関するデータは、この例外として、全アプリケーション共通です）。

8 章・9 章ではもうひとつのデータ入出力機能である「フォーム」を利用して頂きます。フォームを用いたシステム全体像は、後程ご紹介します。

Copyright © 2019- fusions corporation

モデルケースのご説明

「はやめぐり」では、想像上のひとつの企業を題材として用います。この企業、株式会社ルバイヤートは、和洋の食器とグラスウェア（ガラス製の食器・調度類）を販売しており、六本木・代官山・横浜・京都に店舗を持っています。

あなたはこの会社の営業統括部に所属しています。営業統括部はその名の通り営業活動の全般を統括しており、その中であなたは、とくに、営業部門全体の経営管理を担当しています。

「経営管理」業務には、各店舗の売上や利益について、（1）予算を取りまとめること、（2）実績を把握して予算に対する達成状況を分析すること、（3）当月までの実績を踏まえて年間の売上と利益を予測すること、が含まれています。また店舗別という視点だけではなく、和食器・洋食器・グラスウェアという商品部門別の分析も重要です。

今回は上記（1）と（2）の業務、すなわち予算編成と予算実績管理を、店舗と商品部門、２つの切り口にもとづいて行うための仕組みを構築しましょう。

Copyright © 2019- fusions corporation

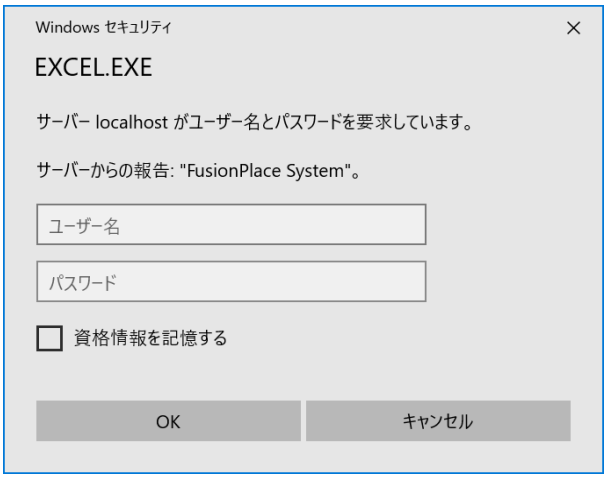
1 Excel-Link を使用する

この「はやめぐり」で作っていくシステムの完成形が、サンプルとしてすでに用意されています。fusion_place のインストール時に自動作成される「サンプルアプリケーション」という名称のアプリケーションがそうです。ここでは、まずは、それを用いて Excel のレポートや入力表を使ってみましょう。「Excel-Link」では、fusion_place のデータを Excel シートの任意の範囲に貼り付けて、報告資料を簡単に作成することができます。

1.1 Excel-Link でシートにデータを取得する

「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルの「SAMPLE1.xlsx」という Excel ファイルを開き、「月次予算実績対比表」シートを選択して下さい。メニューから[fusions]-[データ取得]を選んでください。

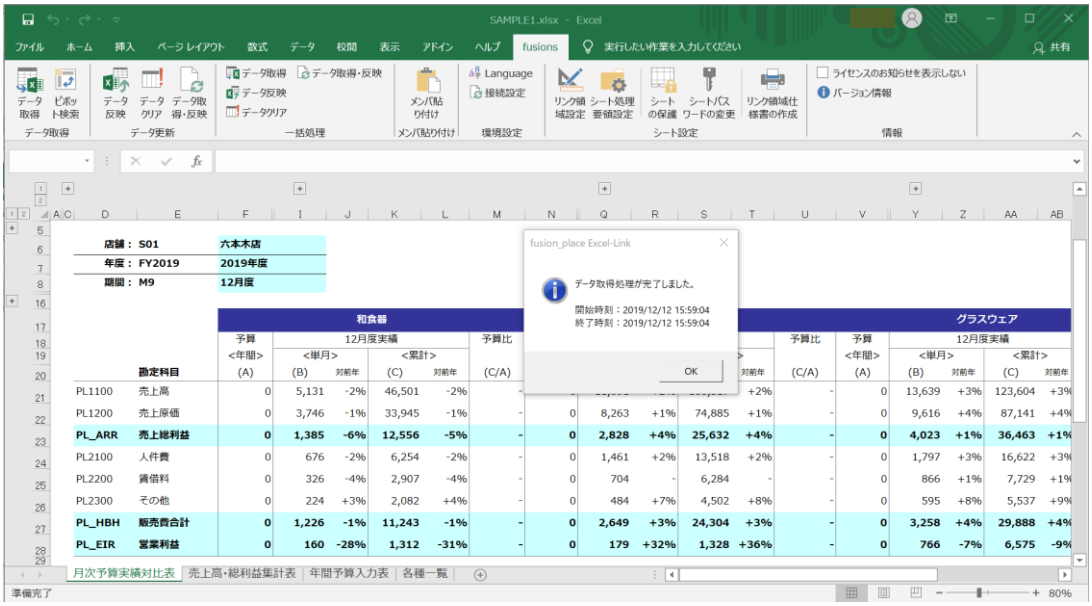
ユーザ名とパスワードの入力を促されますので、下図のように入力して、OK ボタンをクリックして下さい。Windows のバージョンにより、画面の見かけが異なる場合やメッセージが英語で表示される場合がありますが、気にする必要はありません。



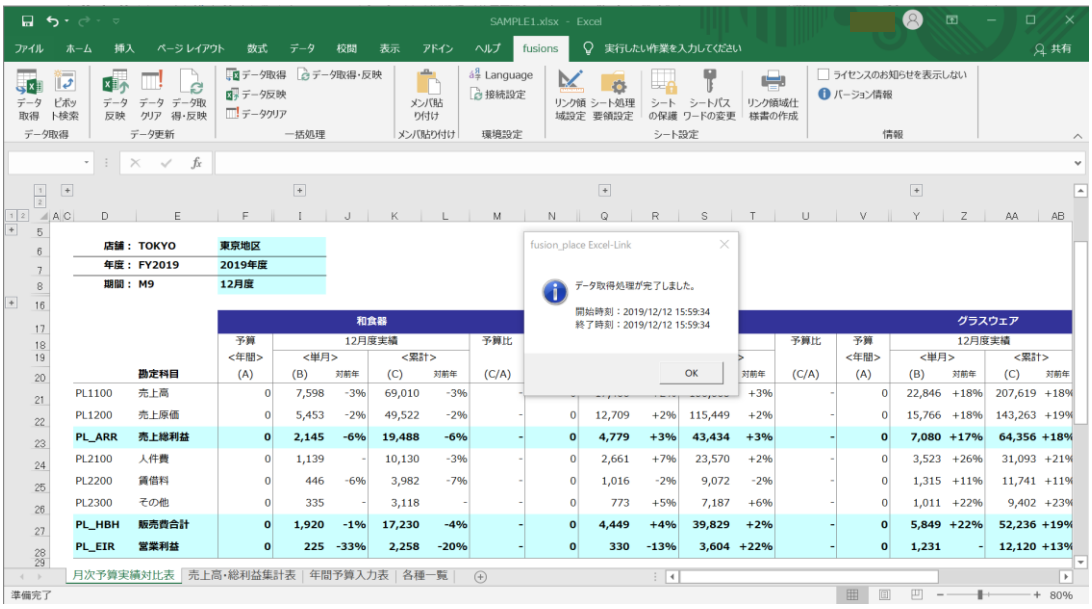
ユーザアカウント	パスワード
admin	admin

大文字と小文字が区別されます

シートにデータを取得することができます。

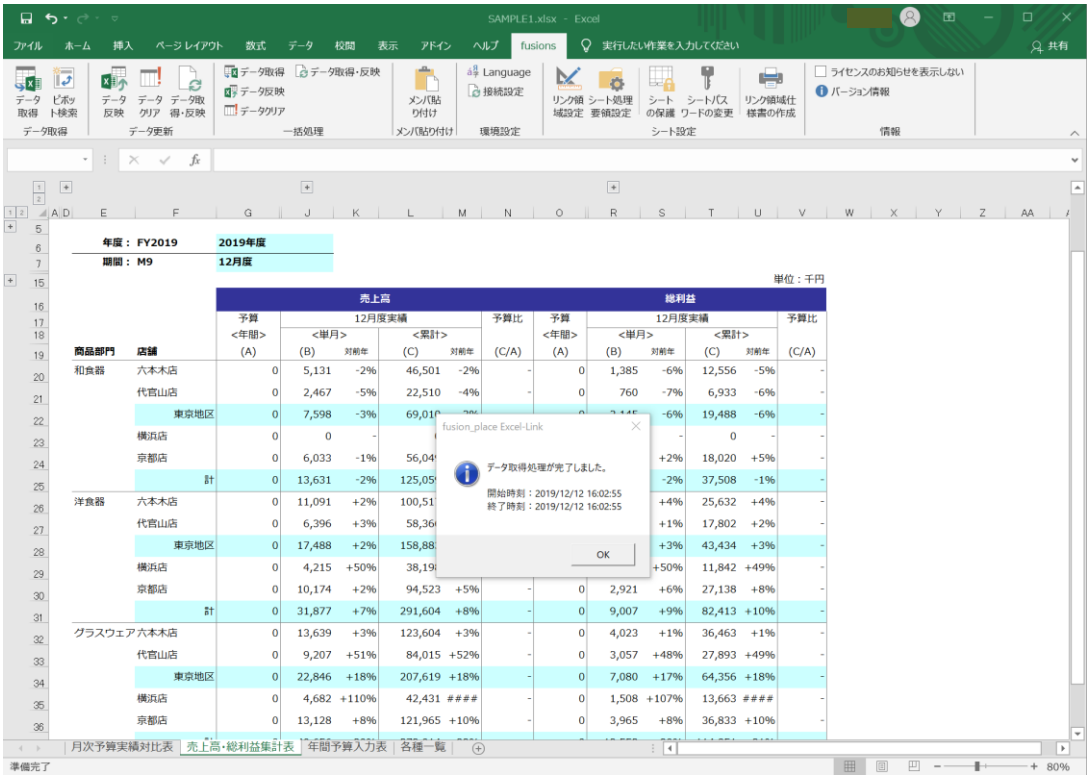


続いて、店舗欄のセル（E6）をクリックすると、セルの右に▼ボタンが現れます。そのボタンをクリックすると店舗コードの一覧が表示されますので（これは、Excel-Link ではなく Excel そのものの機能です）、「TOKYO」を選んで下さい。再び、メニューから「データ取得」を実行すると、東京地区の合計表が表示されます。



Excel-Link を利用すると、fusion_place のデータを、Excel で作成した報告資料に、このように簡単に貼り付けることができます。

次に「売上高・総利益集計表」シートを表示してみて下さい。同様にメニューから[fusions]-[データ取得]を選ぶとデータを取得することができます。



経営管理報告資料には、このシートと月次予算実績対比表シートのように「元データは同じだが表示の仕方が異なる」資料が多数含まれるのが普通です。これらの資料を作成するためには、通常、同じ数値（たとえば「六本木店の和食器の売上高」）を複数のシートに入力することを強いられます。Excel-Link を用いると、このような二重入力は不要となります。

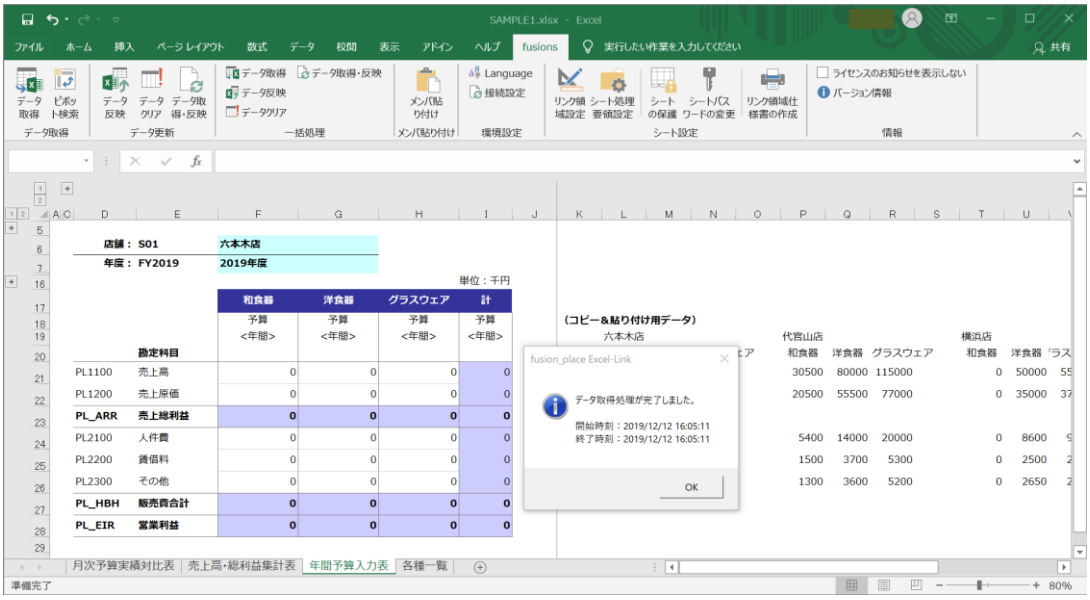
2　Excel-Link で予算データを入力する

前のステップで見たシートには「予算」欄がありましたが、予算値は表示されていませんでした。株式会社ルバイヤートでは、従来、予算値は月次報告資料の Excel シートに都度入力されていました。

同じ予算値を複数のシートに何度も入力するのは面倒ですし間違いのもとです。そこで、この新システムでは、ひとつのシートに予算値を入力すると、それが他のすべてのシートに反映される仕組みにしましょう。

2.1　店舗別予算を入力する

「SAMPLE1.xlsx」ファイルの「年間予算入力表」シートを表示し、「データ取得」を実行して下さい。まだ予算値は入力されていませんので下図のようにすべてのセルにゼロが表示されます。fusion_place で入力不可能なセルは色を付けて表示されます（シートを保護していれば、これらのセルは自動的にロックされ、Excel シート上でも入力不可になります）。

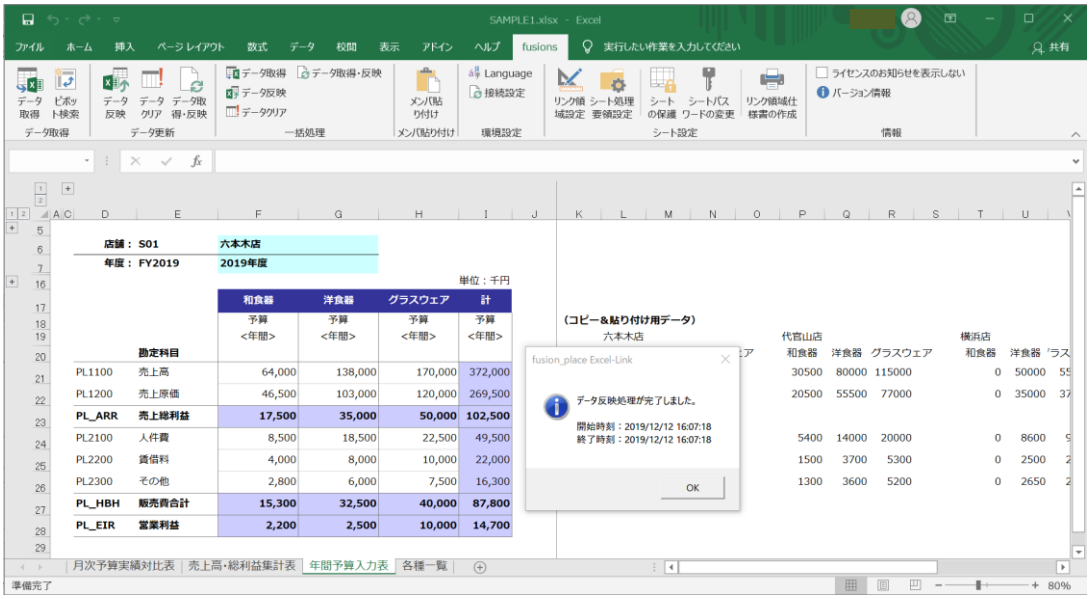


入力欄に値を入力してみましょう。表の右側（K 列以降の領域）に店別の予算データを用意しています。六本木店のデータを F 列から H 列に「値貼り付け」してください。貼り付けが終わった後のシートは下図のような状態です：

店舗： S01		六本木店			
年度： FY2019		2019年度			
					単位：千円
		和食器	洋食器	グラスウェア	計
		予算 <年間>	予算 <年間>	予算 <年間>	予算 <年間>
	勘定科目				
PL1100	売上高	64,000	138,000	170,000	0
PL1200	売上原価	46,500	103,000	120,000	0
PL_ARR	**売上総利益**				**0**
PL2100	人件費	8,500	18,500	22,500	0
PL2200	賃借料	4,000	8,000	10,000	0
PL2300	その他	2,800	6,000	7,500	0
PL_HBH	**販売費合計**	**0**	**0**	**0**	**0**
PL_EIR	**営業利益**	**0**	**0**	**0**	**0**

月次予算実績対比表 | 売上高･総利益集計表 | 年間予算入力表 | 各種一覧

それではこのデータを fusion_place の元帳に反映（保存）しましょう。メニューから[fusions]-[データ反映]を実行して下さい。「データ反映処理が完了しました」というメッセージが表示され、画面上では下図のように、fusion_place が計算した集計項目の値も表示されます：



他の店舗（代官山・横浜・京都）についても同様にして、予算をデータベースに反映しましょう。店舗欄 E6 で各店舗のコード（S02, S03, S04）を選択して、データ取得→予算値の「値の貼り付け」→データ反映を繰り返して下さい。

2.2　予算を集計して確認する

各店舗の予算データが fusion_place のデータベースに保存されれば、その集計結果を確認するのも簡単です。

「年間予算入力表」シートの店舗欄 E6 で「TENPO_KEI」を選択した上で、メニューから[fusions]-[データ取得]を実行して下さい。下図のように予算の全店舗合計値が表示されます。

店舗：TENPO_KEI　店舗合計
年度：FY2019　2019年度

単位：千円

	勘定科目	和食器 予算 <年間>	洋食器 予算 <年間>	グラスウェア 予算 <年間>	計 予算 <年間>
PL1100	売上高	169,500	398,000	505,000	1,072,500
PL1200	売上原価	118,000	286,000	349,000	753,000
PL_ARR	**売上総利益**	**51,500**	**112,000**	**156,000**	**319,500**
PL2100	人件費	23,900	58,600	74,600	157,100
PL2200	賃借料	10,100	22,000	28,100	60,200
PL2300	その他	7,700	18,250	23,400	49,350
PL_HBH	**販売費合計**	**41,700**	**98,850**	**126,100**	**266,650**
PL_EIR	**営業利益**	**9,800**	**13,150**	**29,900**	**52,850**

月次予算実績対比表 | 売上高・総利益集計表 | 年間予算入力表 | 各種一覧

店舗合計予算は集計結果であって、直接、編集することはできないことを表すため、全セルが着色表示されています。データ取得時に着色されたセルは、シートを保護すれば、実際に編集不能となります。

同様にして東京地区の合計予算を表示することもできますので、試してみて下さい。

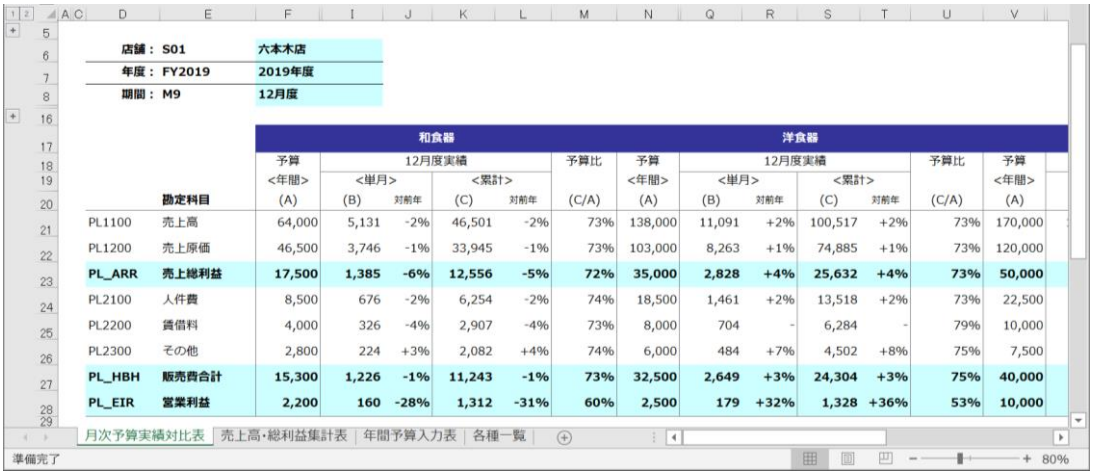
> 予算編成の場面では予算値を集計組織に入力したい場合や、集計勘定に入力したい場合がありえます。初期設定では適用されていませんが、fusion_place ではこういった「集計レベル」の組織や勘定科目などの項目に入力できる機能も用意しています。詳細については、ユーザマニュアルの、以下の箇所をご覧下さい
>
> ⇒ 「fusion_place のしくみ」－「08.元帳」－「04.【設・管】元帳セル値の入力と集計」

実務では、このような Excel-Link 設定済みのシートを各部署に配布し、それを回収して元帳に反映すれば、以上のように即座にデータを集計することができます。fusion_place ではさらに、シートの配布やデータ収集のためのワークフローを構築する機能も備えています（premium と cloud のみの機能になります）。

2.3　月次報告帳票に予算値を表示する

最後に、月次報告帳票（月次予算実績対比表と売上高・総利益集計表）の各シートを表示して、メニューから[fusions]-[データ取得]を実行し、予算を帳票に表示しましょう。

【月次予算実績対比表シート】



店舗：S01　六本木店
年度：FY2019　2019年度
期間：M9　12月度

		和食器						洋食器						
		予算	12月度実績				予算比	予算	12月度実績				予算比	予算
		<年間>	<単月>		<累計>			<年間>	<単月>		<累計>			<年間>
	勘定科目	(A)	(B)	対前年	(C)	対前年	(C/A)	(A)	(B)	対前年	(C)	対前年	(C/A)	(A)
PL1100	売上高	64,000	5,131	-2%	46,501	-2%	73%	138,000	11,091	+2%	100,517	+2%	73%	170,000
PL1200	売上原価	46,500	3,746	-1%	33,945	-1%	73%	103,000	8,263	+1%	74,885	+1%	73%	120,000
PL_ARR	**売上総利益**	**17,500**	**1,385**	**-6%**	**12,556**	**-5%**	**72%**	**35,000**	**2,828**	**+4%**	**25,632**	**+4%**	**73%**	**50,000**
PL2100	人件費	8,500	676	-2%	6,254	-2%	74%	18,500	1,461	+2%	13,518	+2%	73%	22,500
PL2200	賃借料	4,000	326	-4%	2,907	-4%	73%	8,000	704	-	6,284	-	79%	10,000
PL2300	その他	2,800	224	+3%	2,082	+4%	74%	6,000	484	+7%	4,502	+8%	75%	7,500
PL_HBH	**販売費合計**	**15,300**	**1,226**	**-1%**	**11,243**	**-1%**	**73%**	**32,500**	**2,649**	**+3%**	**24,304**	**+3%**	**75%**	**40,000**
PL_EIR	**営業利益**	**2,200**	**160**	**-28%**	**1,312**	**-31%**	**60%**	**2,500**	**179**	**+32%**	**1,328**	**+36%**	**53%**	**10,000**

【売上高・総利益集計表シート】

年度：FY2019　2019年度
期間：M9　12月度

単位：千円

		売上高						総利益					
		予算	12月度実績				予算比	予算	12月度実績				予算比
		<年間>	<単月>		<累計>			<年間>	<単月>		<累計>		
商品部門	店舗	(A)	(B)	対前年	(C)	対前年	(C/A)	(A)	(B)	対前年	(C)	対前年	(C/A)
和食器	六本木店	64,000	5,131	-2%	46,501	-2%	73%	17,500	1,385	-6%	12,556	-5%	72%
	代官山店	30,500	2,467	-5%	22,510	-4%	74%	10,000	760	-7%	6,933	-6%	69%
	東京地区	94,500	7,598	-3%	69,010	-3%	73%	27,500	2,145	-6%	19,488	-6%	71%
	横浜店	0	0	-	0	-	-	0	0	-	0	-	-
	京都店	75,000	6,033	-1%	56,049	+1%	75%	24,000	1,940	+2%	18,020	+5%	75%
	計	169,500	13,631	-2%	125,059	-1%	74%	51,500	4,085	-2%	37,508	-1%	73%
洋食器	六本木店	138,000	11,091	+2%	100,517	+2%	73%	35,000	2,828	+4%	25,632	+4%	73%
	代官山店	80,000	6,396	+3%	58,366	+4%	73%	24,500	1,951	+1%	17,802	+2%	73%
	東京地区	218,000	17,488	+2%	158,883	+3%	73%	59,500	4,779	+3%	43,434	+3%	73%

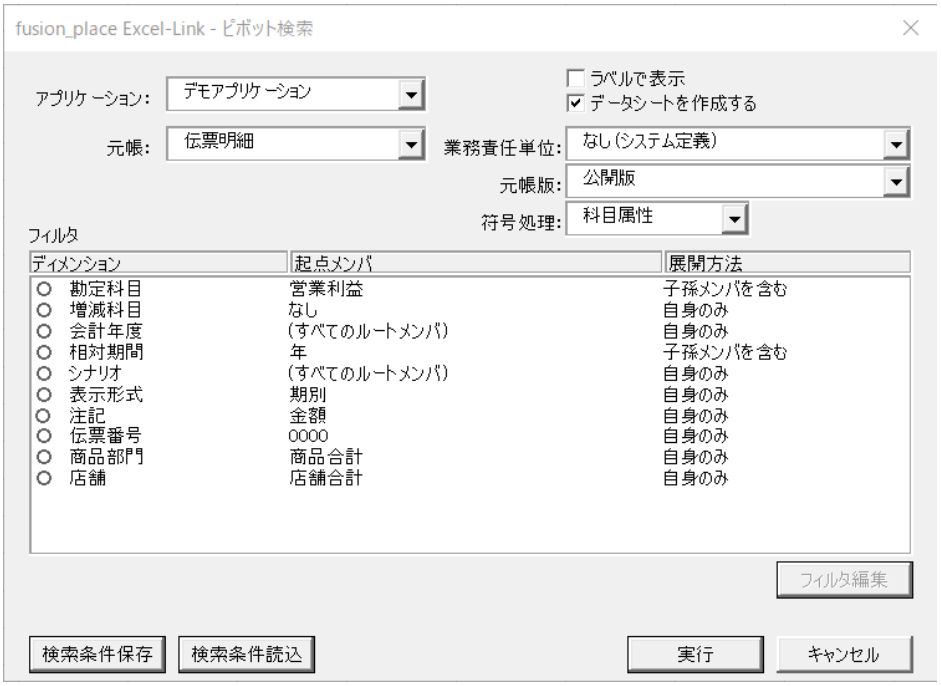
このように、ひとつのシートで入力したデータを、すべてのシートで共有することができます。ここで使ったブック（Excel ファイル）はひとつだけでしたが、ブックが複数あっても、同様に、データを共有することができます。

3　Excel-Link ピボット検索を使う

データベースに保持されているデータは、Excel-Link の「ピボット検索」機能を用いて自在に検索することができます。実績データを検索してみましょう。

3.1　検索条件を指定し、ピボット検索を実行する

Microsoft Excel を起動し、メニューから[fusions]-[ピボット検索]を選んで下さい。下図のような、「ピボット検索」画面が表示されます。



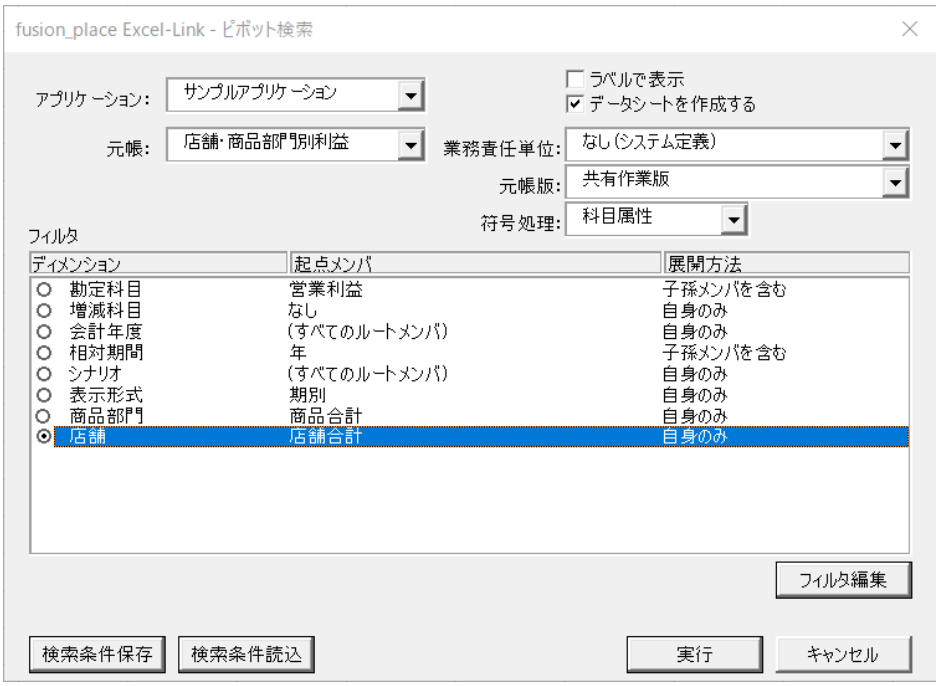
この画面で、検索条件を指定して下さい：

項目	指定内容
アプリケーション	「サンプルアプリケーション」を選択して下さい（**初期提案値と異なります**のでご注意ください）。
元帳	「店舗・商品部門別利益」を選択して下さい（初期提案値のままです）。
業務責任単位	「なし（システム定義）」のみ選択可能です（初期提案値のままです）。
元帳版	**「共有作業版」**を選択して下さい（**初期提案値と異なります**のでご注意ください）
符号処理	「科目属性」を選択して下さい（初期提案値のままです）。

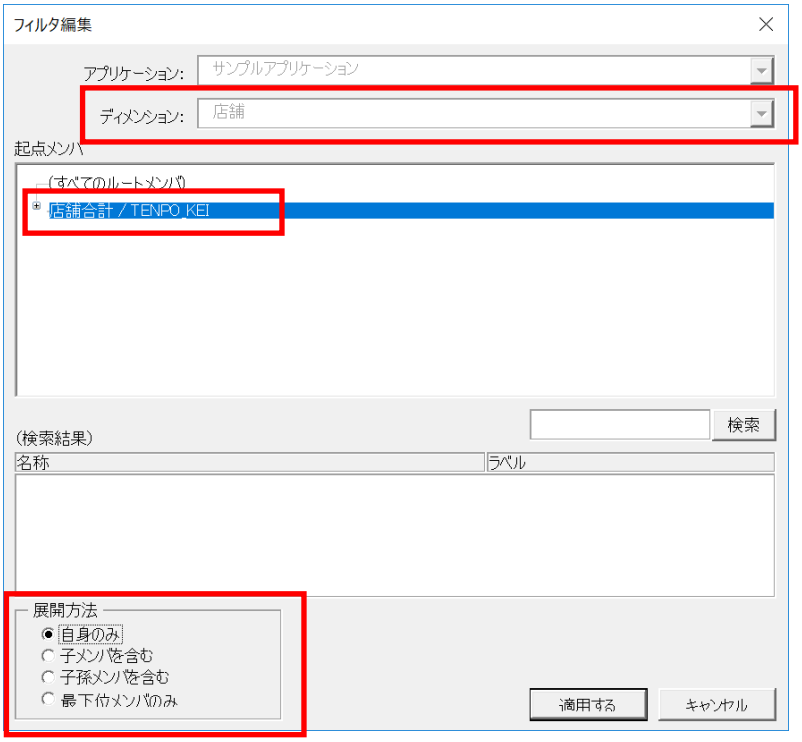
続いて次頁の説明を参考に、「フィルタ」を設定して下さい。

Copyright © 2019- fusions corporation

フィルタ欄では、ディメンションごとに検索対象メンバの絞り込み条件を指定することができます（ディメンションはデータのキー項目、メンバは各キーの具体的な値とお考え下さい）。



「ピボット検索」画面で各行をダブルクリックするか、各行をクリックして反転表示した状態で「フィルタ編集」ボタンをクリックすると以下のような「フィルタ編集」画面が表示されます。

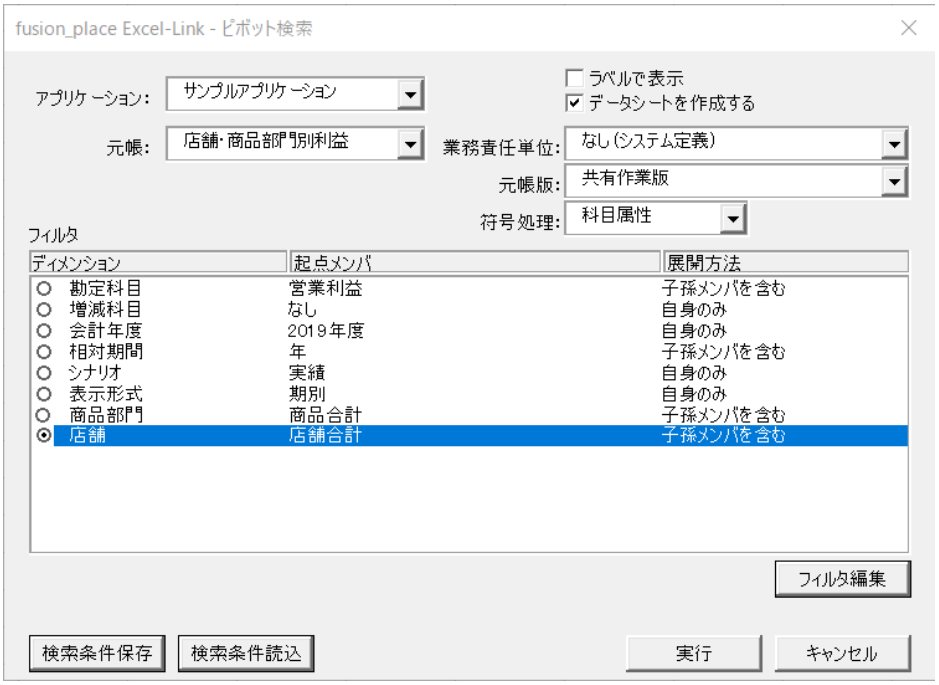


ここで、絞り込みの起点（頂点）となるメンバと、起点メンバをもとにどの範囲のメンバを検索対象に含めるかを示す「展開方法」を指定して下さい。

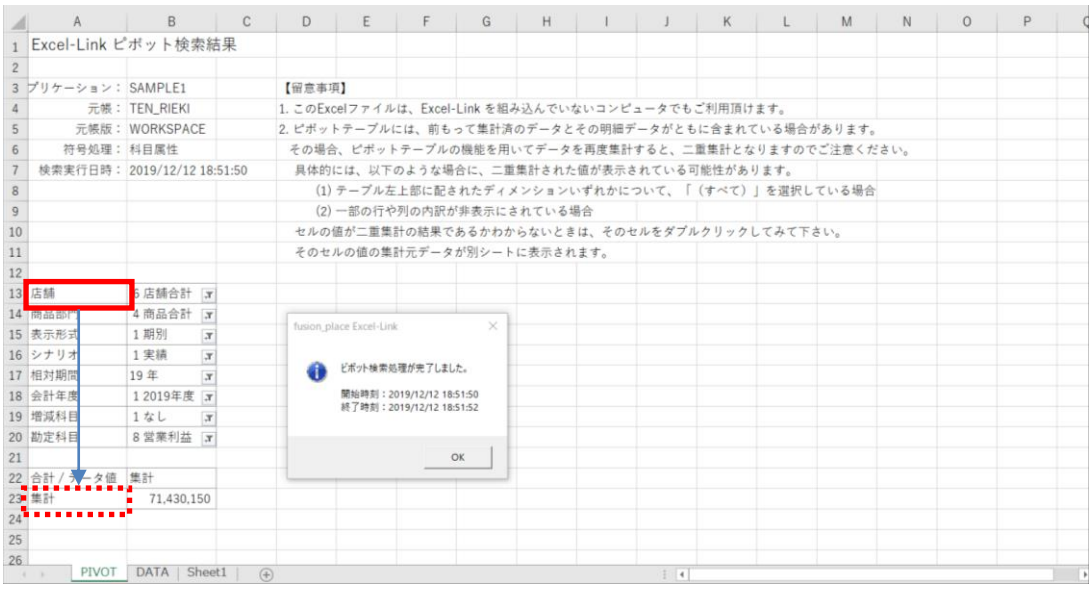
今回は、ディメンションごとに以下のように設定して下さい：

ディメンション	起点メンバ	展開方法
会計年度	2019 年度	自身のみ
シナリオ	実績	自身のみ
商品部門	商品合計	子孫メンバを含む
店舗	店舗合計	子孫メンバを含む

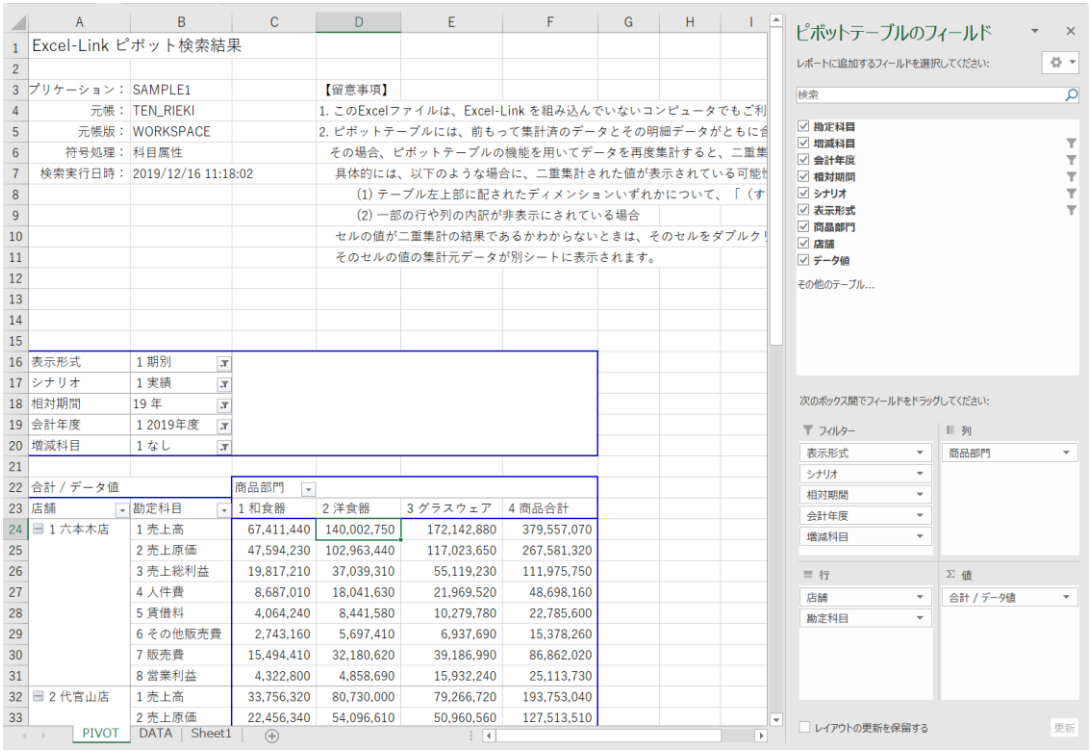
※　この表にないディメンションについては、初期提案値のままとして下さい。またこの表上でも、網掛け部分は初期提案値のままです。



検索条件を指定し終えたら、「ピボット検索」画面の実行ボタンをクリックして下さい。図のように検索結果が表示されます。



検索結果は、Excel のピボットテーブルとして表示されています。従って、店舗や商品部門などの「ディメンション（データの切り口）」を、上図の赤枠の表示のとおり、テーブルの縦軸（行）・横軸（列）にドラッグすることによって、下図のように、任意のマトリックス形式で、検索結果を表示することができます。



4　ディメンションと元帳を設定する

それではこれまで使用してきたものと同様のアプリケーションを実際に作成してみましょう。その中に、店舗別・商品部門といったディメンション（データの切り口）を作ります。さらに、そのディメンションを軸として売上・利益データを収容する元帳（データの箱）を用意します。

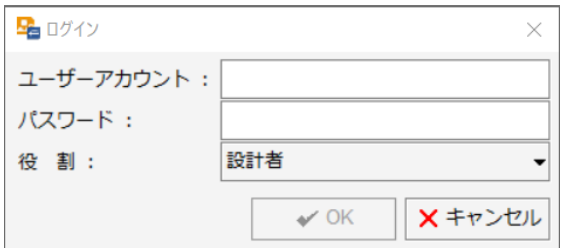
4.1　新しいアプリケーションを作成する

Step 1. fusion_place マネージャを起動する

コンピュータのデスクトップにある fusion_place マネージャのアイコンをダブルクリックして fusion_place マネージャを起動して下さい。

Step 2. fusion_place マネージャにログインする

「ログイン」画面が表示されます。下表のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

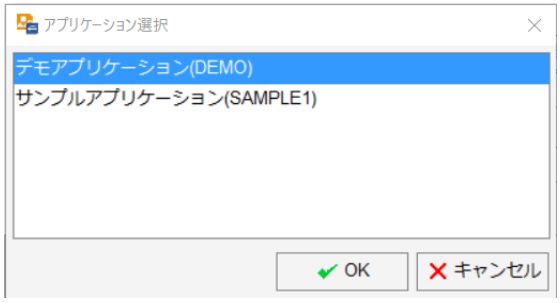


ユーザアカウント	パスワード	役割
admin	admin	「設計者」

大文字と小文字が区別されます

＊fusion_place のセットアップ後、ユーザアカウントやパスワードを変更した場合には、上記に代えて、適切なユーザアカウントとパスワードを入力して下さい。

この後、「アプリケーション選択」画面が表示されます。既存のアプリケーションを使うのではなく、新しいアプリケーションをこれから作成するため、この画面では「キャンセル」ボタンをクリックして下さい。



Step 3. アプリケーションの新規作成を始める

メニューから[ファイル(F)]-[アプリケーション新規作成(N)...]を選択して下さい。

Step 4. 新しいアプリケーションを作成する

「アプリケーション新規作成」画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

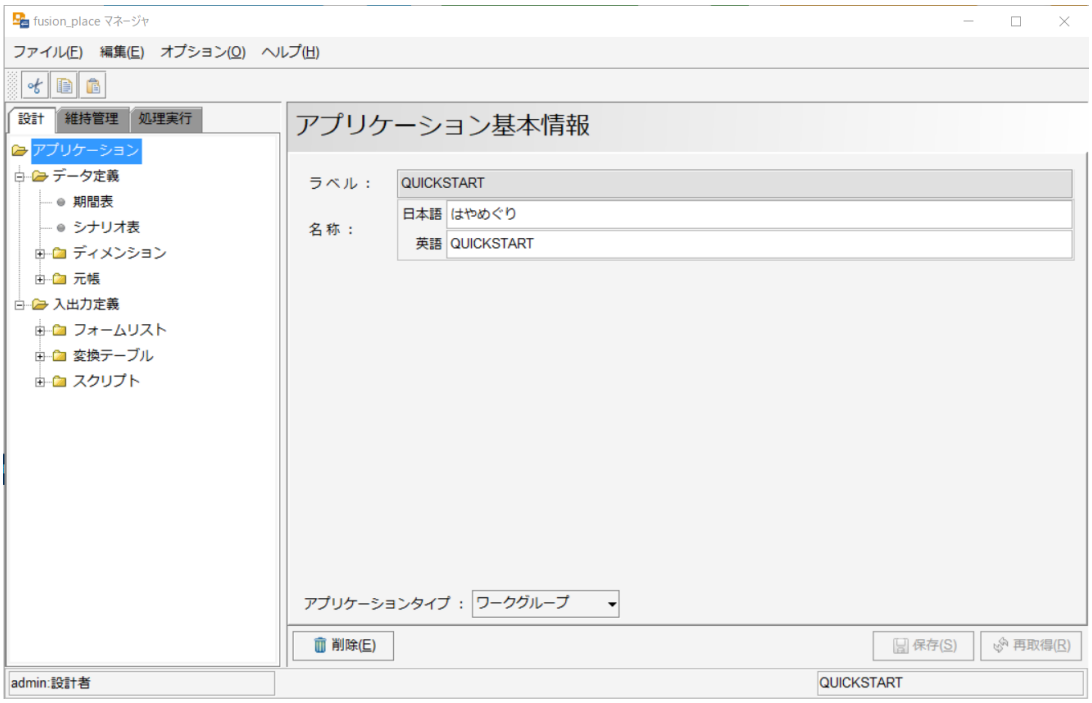
ラベル	名称（日本語）	名称（英語）	作成方法	アプリケーションタイプ
QUICKSTART	はやめぐり	QUICKSTART	「アプリケーションタイプを指定して、白紙から作成する」をチェック	ワークグループ

「ラベル」とは、fusion_place の様々なオブジェクトを識別するために用いるコードのことです。アプリケーションだけでなく、後でご紹介するディメンションや元帳などもそれぞれラベルを持ちます。ラベルは 20 文字以内で、英大文字、数字、大部分の特殊文字を含めることができます（ラベルの入力時に英小文字を入力すると大文字に変換されます）。

ただし、ひと文字目が# のラベルは、特殊目的での使用のため予約されているので、ユーザが登録するオブジェクトには使用できません。

Copyright © 2019- fusions corporation

アプリケーションが作成され、「アプリケーション基本情報」画面が表示されます。

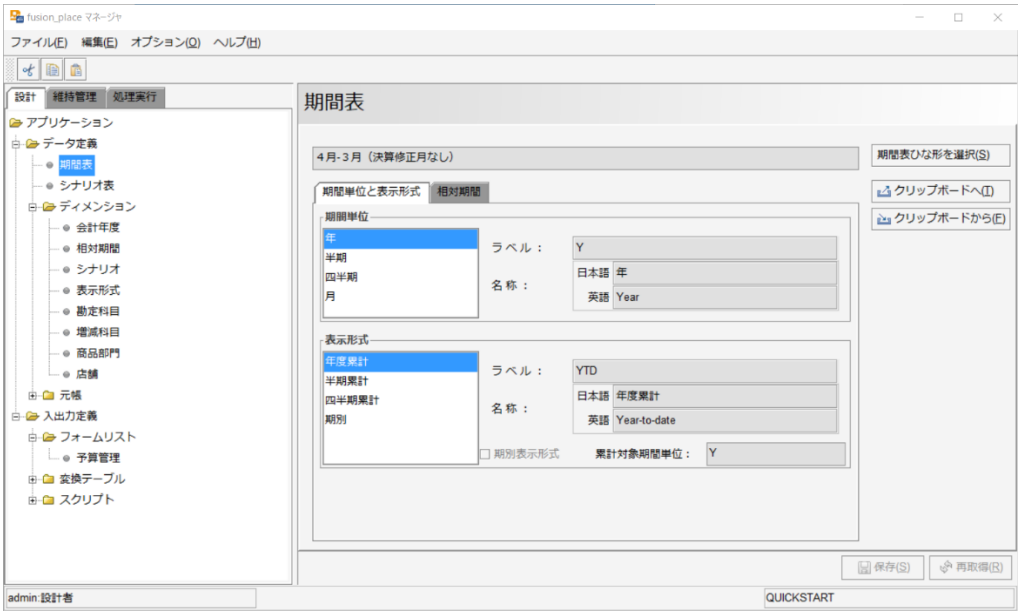


4.2　期間表を選択する

アプリケーションの新規作成時には、4 月に始まり 3 月に終わる期間表が初期設定されます。決算月が 3 月と異なる場合や、決算修正月を追加したい（四半期ごとに修正月が設定され、16 か月になります）等の場合は期間表を変更します。はやめぐりでは初期設定される期間表を用いますが、他の期間表もいくつか見てみましょう。

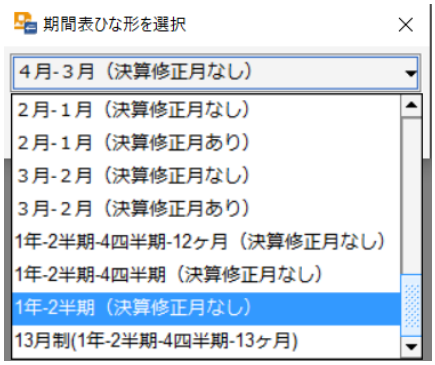
Step 1. 期間表画面を表示する

fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの［アプリケーション］－［データ定義］－［期間表］をクリックして期間表画面を表示して下さい。現在設定されている期間表の内容を確認することができます。右画面の「相対期間」タブをクリックすると期間のツリーが表示されます。



Step 2. 期間表ひな形を選択する

画面右上の「期間表ひな形を選択(S)」ボタンをクリックし、一覧から、試しに「1 年-2 半期（決算修正月なし）」を選択して下さい（下から 2 番目の項目です）。



選択後、「適用する(A)」ボタンをクリックして「期間表ひな形を選択」画面を閉じて下さい。

Step 3. 期間表を確認する

「期間単位と表示形式」「相対期間」タブの内容が、選択された期間表に応じて変わることをご確認下さい。最後には、画面右下の「再取得(R)」ボタンをクリックして下さい。「期間表の変更内容が失われますが、よろしいでしょうか？」と尋ねられるので、「はい(Y)」をクリックして下さい。これで、Step 2 で適用した期間表は捨てられ、元の状態に戻ります。

注：誤って、期間表の適用後、「保存(S)」ボタンをクリックして適用結果を保存してしまった場合、あらためて「４月－３月（決算修正月なし）」の期間表ひな形を選択して「保存」して下さい。元の状態に戻ります。

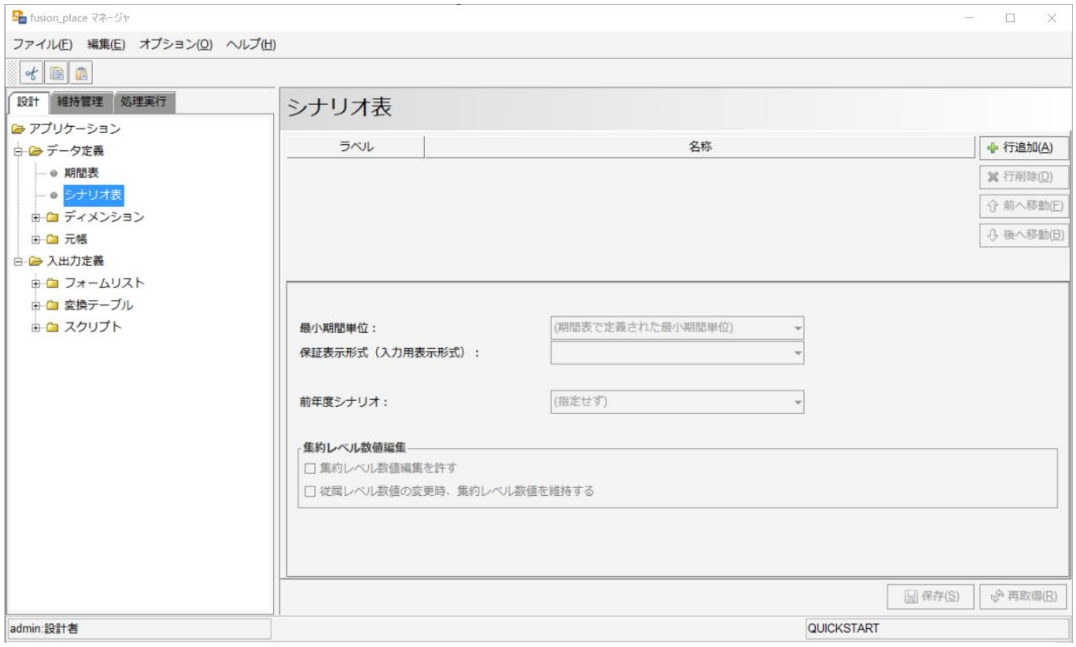
Copyright © 2019- fusions corporation

4.3　シナリオを登録する

予算・実績・見込など各年度の事業活動がどのように進むのか（進んだのか）という「筋書き」の種類のことを fusion_place では「**シナリオ**」と呼びます。「はやめぐり」アプリケーションでは、予算と実績、2 つのシナリオを設けます。

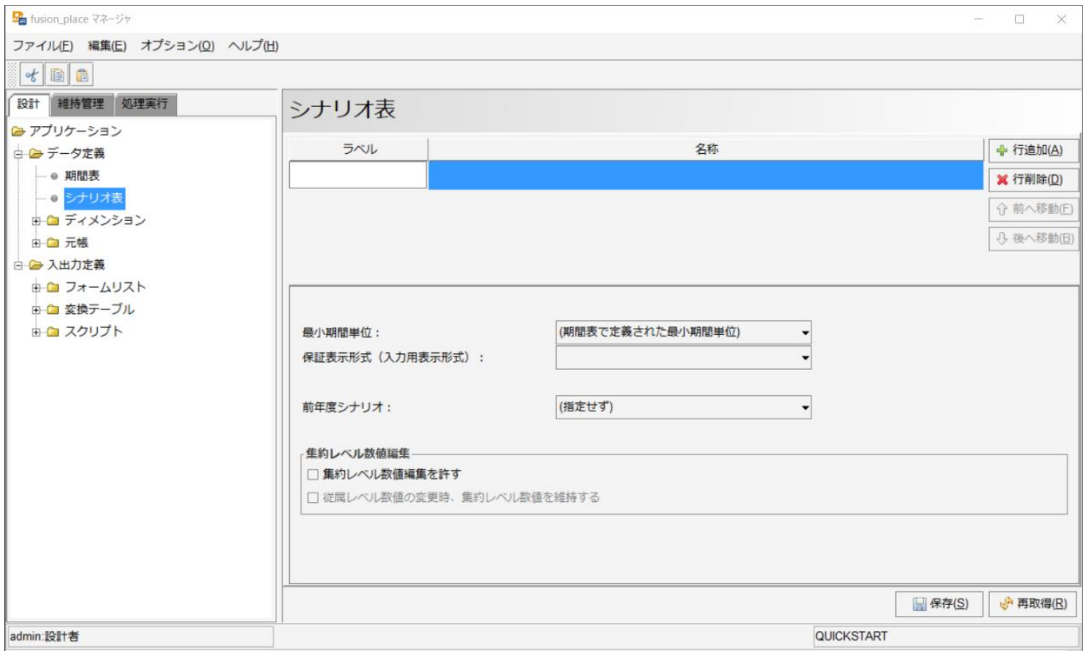
Step 1. シナリオ表画面を表示する

fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの［アプリケーション］－［データ定義］－［シナリオ表］をクリックしてシナリオ表画面を表示して下さい。



Step 2. シナリオ行を追加する

画面右上のボタン「行追加(A)」をクリックし、各項目を入力します。



ラベル	名称	最小期間単位	保証表示形式	前年度シナリオ
ACTUAL	実績	（初期値のまま）	「年度累計」を選択	「実績」を選択
BUDGET	予算	（初期値のまま）	「期別」を選択	「実績」を選択

*その他欄外の項目はチェックしない

「最小期間単位」には、期間表で定義された期間単位のうちいずれを最小単位としてデータを保持するかを指定します。ここでは期間表の最小の期間単位である「月」を単位としてデータを保持できるようにしています。

「保証表示形式（入力用表示形式）」とは、そのシナリオでデータを入力することができる表示形式のことです。たとえば、保証表示形式を「年度累計」とした場合、「期別」や「四半期累計」では、データを表示することはできますが、入力はできません。

バランス勘定科目の増減内訳把握を行わない場合、「前年度シナリオ」には何を設定してもかまいません（いずれかのシナリオを設定する必要はあります）。「はやめぐり」アプリケーションはこのケースに該当します。「増減科目ディメンション」を用いてバランス勘定科目の増減内訳を把握する場合には、前年度の期末残高をどのシナリオから取得するかを指定して下さい。

Step 3 シナリオ表を保存する

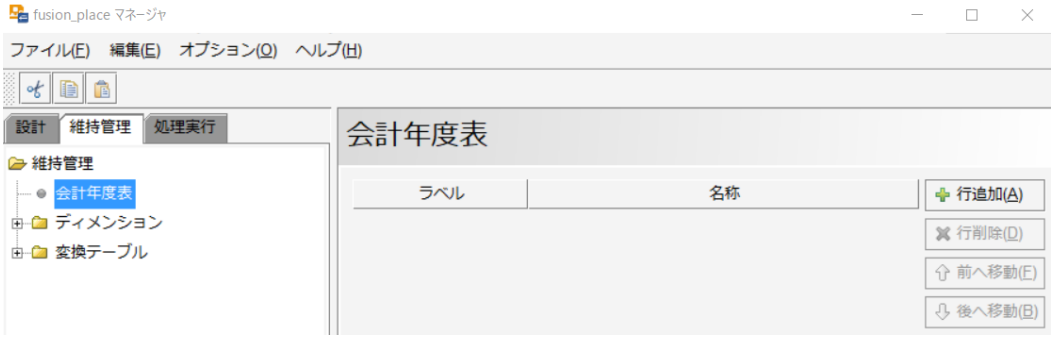
画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして下さい。追加した 2 つのシナリオが保存されます。

4.4　会計年度を登録する

次に登録するのは「会計年度」です。3 月決算の場合、4 月から翌年の 3 月までが 1 会計年度となります。

Step 1. 会計年度表画面を表示する

fusion_place マネージャの画面左側部分、「維持管理」タブの［維持管理］－［会計年度表］をクリックして会計年度表画面を表示して下さい。



Step 2. 会計年度行を追加する

画面右上のボタン「行追加(A)」をクリックして会計年度行の各項目を入力して下さい。

ラベル	名称
FY2017	2017 年度
FY2018	2018 年度
FY2019	2019 年度
FY2020	2020 年度

最も古い（一番上の）会計年度は会計年度ディメンションのメンバとなりません。次の年度（最初のメンバ）の「前期末残高」の供給元としてのみ使用されるためです。したがって 2018 年度からデータを表示したい場合、2017 年度から設定する必要があります。

*古い年度から順に並ぶようご注意下さい。

Step 3 会計年度表を保存する

画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして下さい。追加した会計年度が保存されます。

4.5 「店舗」ディメンションを設定する

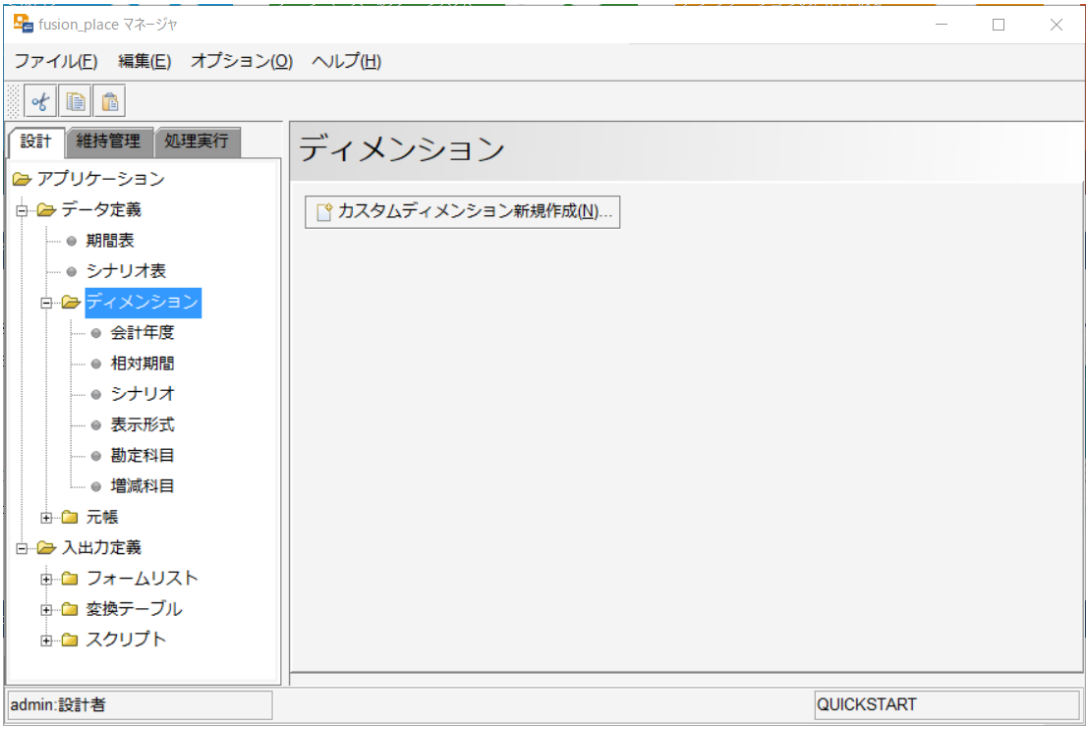
計数データの切り口を fusion_place では「**ディメンション**」と呼びます。「はやめぐり」アプリケーションでは以下のディメンションについて設定が必要です[1]：

- 店舗 … 六本木店・代官山店などを含む。
- 商品部門 … 和食器・洋食器・グラスウェアなどを含む。
- 勘定科目 … 売上高・利益などを含む。

まず、店舗ディメンションを設定します。

Step 1. ディメンション画面を表示する

fusion_place マネージャの画面左側部分の「設計」タブの[アプリケーション]－[データ定義]－[ディメンション]をクリックして「ディメンション」画面を表示して下さい。



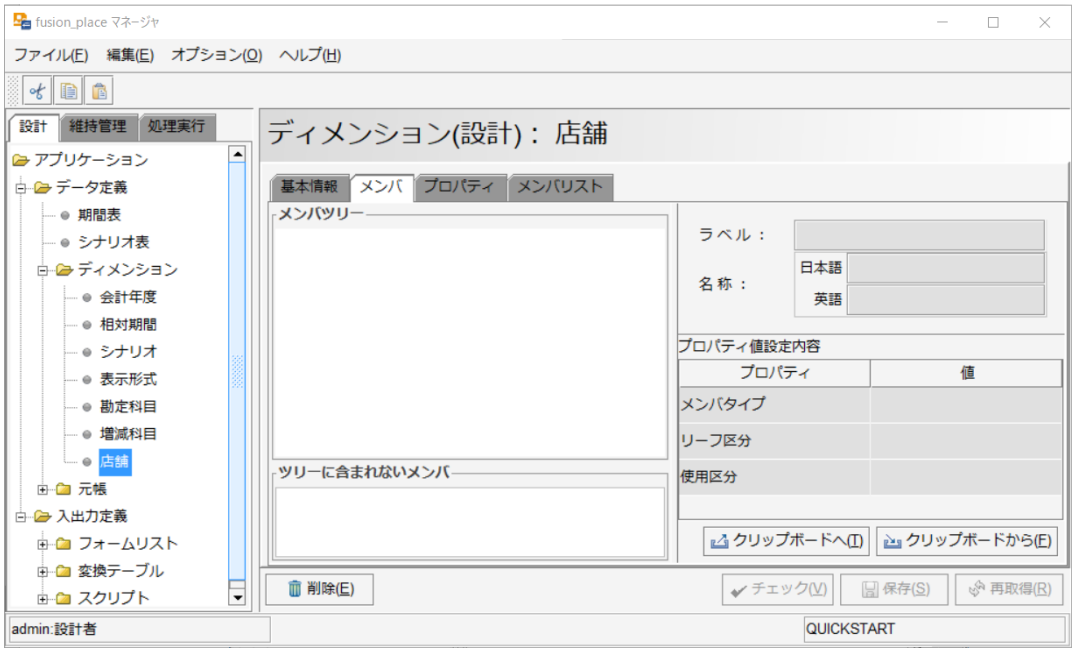
[1] ディメンションは他にもありますがこの「はやめぐり」では設定不要です。

Step 2. ディメンションを新規作成する

「ディメンション」画面上の「カスタムディメンション新規作成(N)...」ボタンをクリックして下さい。カスタムディメンション新規作成画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

ラベル	名称	ディメンションタイプ	借用するディメンション
TENPO	店舗	一般	（指定せず）

店舗ディメンションが作成され、同ディメンションのメンバツリー画面が表示されます。



「メンバ」とは、ディメンションに含まれる個々の要素を意味します。店舗ディメンションの場合、「六本木店」・「代官山店」などがメンバの例です。また、そうした個別の要素を束ねて「店舗合計」のような集計メンバを設けることもできます。したがって、ディメンション内には、集計メンバの下位に子メンバが紐つけられたメンバツリーが形作られます。

メンバツリーの最上位（根もと）に位置するメンバを「ルートメンバ（根もとのメンバの意）」と呼ぶことがあります。

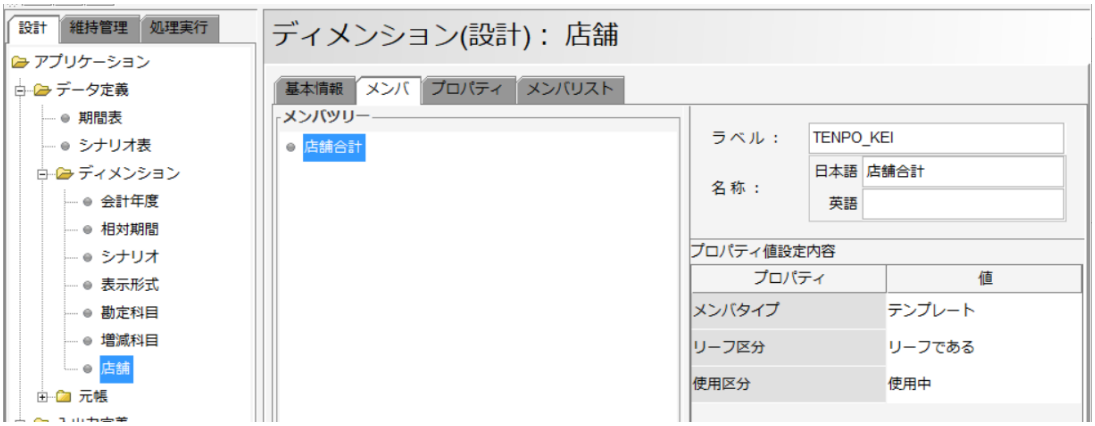
Step 3. ルートメンバを登録する

「メンバツリー」領域上で右クリックすると、下図のようにポップアップメニューが表示されます。

ポップアップメニューから、[メンバを追加(N)]－[ルートメンバ(R)...]を選択すると、メンバ新規作成画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

ラベル	名称
TENPO_KEI	店舗合計

「店舗合計」メンバが「メンバツリー」上に表示されます。



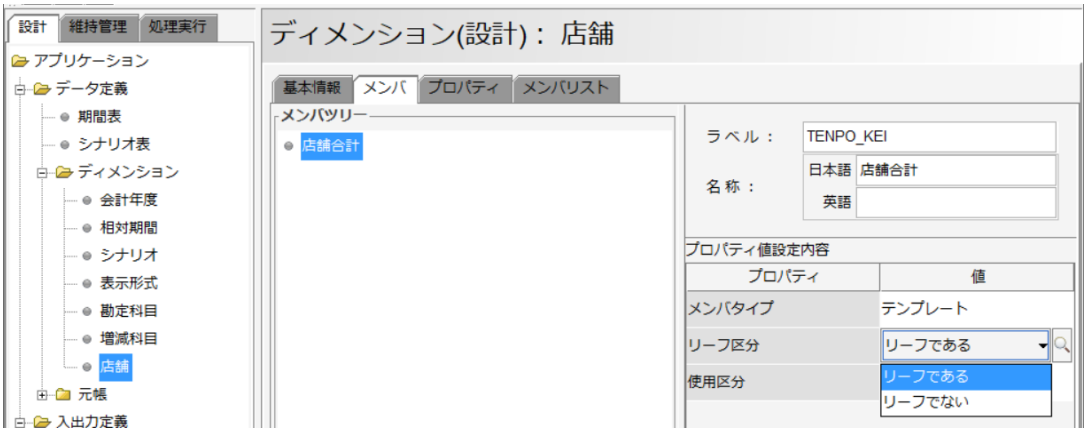
登録直後のメンバはリーフメンバとなります。

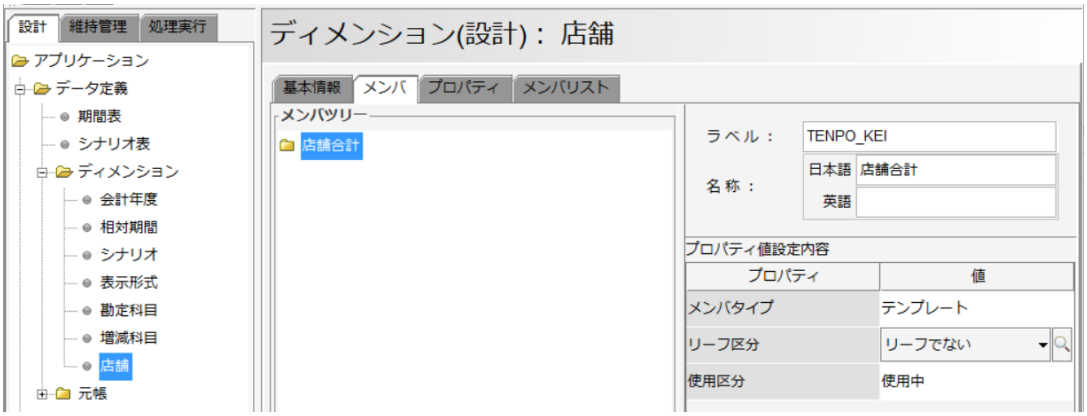
	定義	特性	
	「リーフ区分」の値が…	子メンバを..	データ入力は…
リーフメンバ	「リーフである」	持てない	受け付ける
集計メンバ	「リーフでない」	持てる	受け付けない（※）

（※）子メンバのデータが集計されて、集計メンバのデータになります。

ただし、前述の通り、集計メンバへのデータ入力を許可することも出来ます。

「店舗合計」は集計メンバとしたいので、メンバツリー上で「店舗合計」をクリックして選択しておき、メンバツリーの右の「プロパティ値設定内容」で、「リーフ区分」の値を「リーフでない」として下さい。





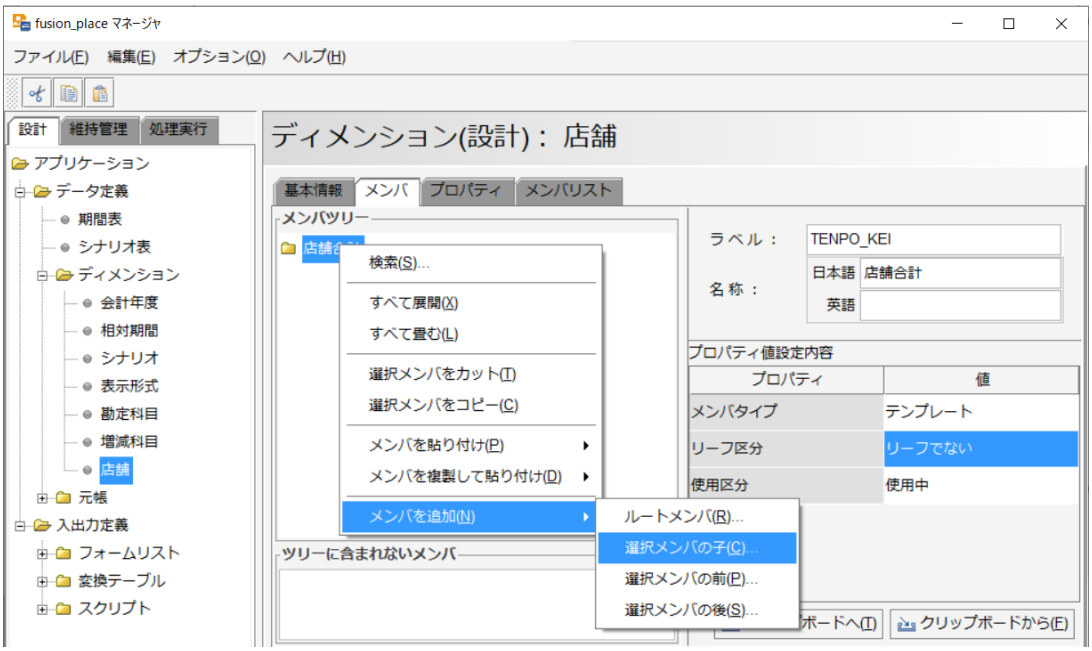
プロパティはメンバの属性です。上図画面に表示されている「メンバタイプ」「リーフ区分」「使用区分」はすべてのディメンションのメンバが持つプロパティです。その他に特定のディメンションのメンバだけが持つプロパティもあります。たとえば勘定科目ディメンションのメンバには、「貸借区分」というプロパティがあり、各メンバが借方科目（利益に対する加算項目）か貸方科目（利益に対する減算項目）かを指定することができます。

あらかじめ決められたプロパティに加えて、ユーザがプロパティを追加することもできます。

Step 4. 各店舗メンバを登録する

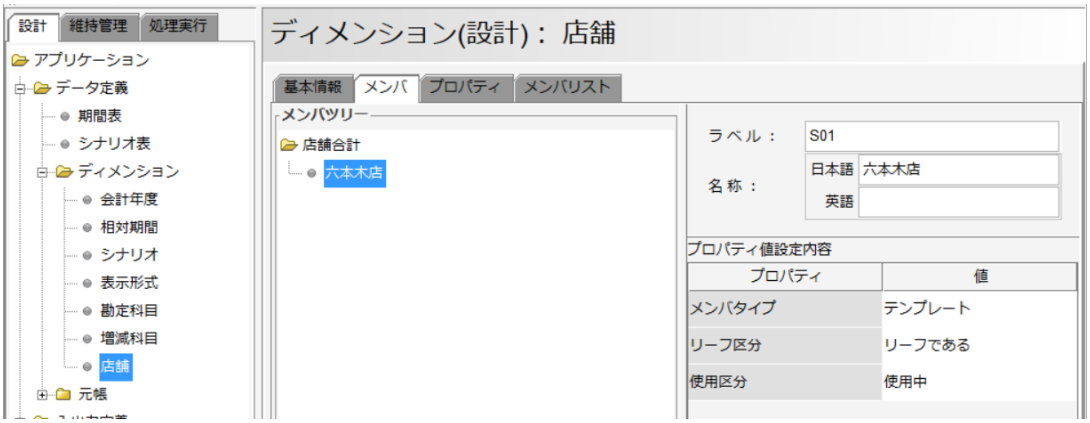
各店舗に対応するメンバを、店舗合計の子メンバとして登録していきます。

メンバツリー上で「店舗合計」をクリックして選択しておき、右クリックして、ポップアップメニューから、[メンバを追加(N)]－[選択メンバの子(C)...]を選択すると、前回と同じく、メンバ新規作成画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。



ラベル	名称
S01	六本木店

「六本木店」が「店舗合計」の子メンバとして追加され、選択された状態になります。



以下、六本木店以外の店舗に対応するメンバも同様に追加して下さい。各メンバには以下のラベル（店舗コード）と名称をお使い下さい。また各メンバのプロパティ値は初期設定値のままとして下さい。

ラベル	名称（日本語）
S01	六本木店
S02	代官山店
S03	横浜店
S04	京都店

＊後の作業に影響するので、ラベルはかならず指定通りに設定して下さい。以降で行う設定においても同様です。間違ってラベルを設定した時は、画面右のラベル欄で上書き修正することが出来ます。

追加するとき、以下の方法も試してみて下さい：

- すでに登録済の店舗メンバ（たとえば六本木店）を選択しておいた上で、ポップアップメニューから、[メンバを追加(N)]－[選択メンバの後(S)...]を選ぶ。
- 「店舗合計」をクリックして選択しておいた上で、メニューから、[編集(E)]－[メンバを追加(N)]－[選択メンバの子(C)...]を選ぶ。

登録位置は後から変更することもできます（詳細は Step5 参照）。

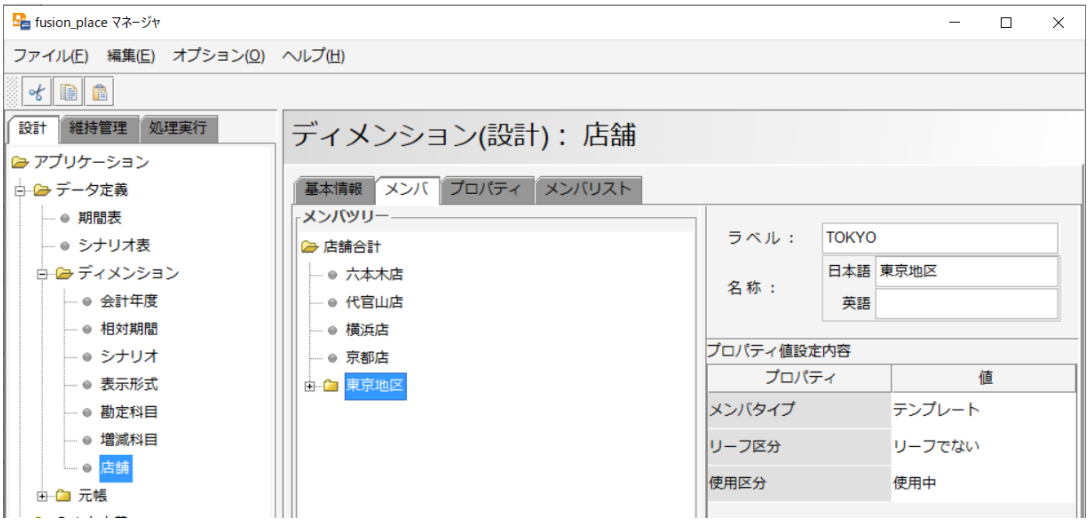
次の作業に移る前に、画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして設定内容を保存しておきましょう。

Copyright © 2019- fusions corporation

Step 5. 集計の括りを付け加える

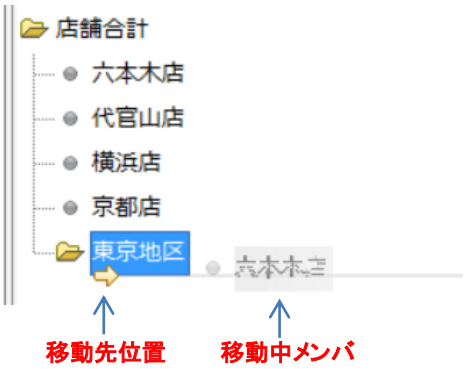
各店舗をメンバとして登録できたら、最後に、集計メンバをもうひとつ登録しておきましょう。株式会社ルバイヤートでは、東京地区の二店舗（六本木店と代官山店）をまとめた単位でも業績を管理しています。そこで、店舗ディメンションに、集計メンバ「東京地区」を設けましょう。

まず、「店舗合計」の子として、以下のように「東京地区」を作成します。



ラベル	名称	リーフ区分
TOKYO	東京地区	「リーフでない」

次に、「東京地区」フォルダを開いた上で、「六本木店」を「東京地区」の下まで**ドラッグ**しましょう。まず、「東京地区」をダブルクリックしてフォルダを開き、続いて、「六本木店」をクリックしてマウスの左ボタンを押したまま、「東京地区」の右下あたりまでマウスの矢印を動かします。移動先位置がクリーム色の矢印で示されます。



上図のように、クリーム色の矢印が「東京地区」の「東」の字の下あたりに来たら、マウスのボタンを離します（**ドロップ**）。これで、「六本木店」は東京地区の子メンバとなります。

ドロップするタイミングによっては、「東京地区」の下ではなく直後に「六本木店」が移動してしまうことがあります。ドロップする前に「東京地区」が反転表示された状態でマウスをしばらく止めておき、その後、「六本木店」を少し右下にドラッグするか、「東京地区」をダブルクリックし、フォルダが開いた状態でドラッグすると、クリーム色の矢印が「東京地区」の「東」の字の下に移動します。そこでマウスのボタンを離すとうまくいきます。

ドラッグ＆ドロップが面倒でしたら、カット＆ペーストで移動することもできます。「六本木店」を選択して右クリックし、ポップアップメニューから、[選択メンバをカット(T)]を選んで下さい（六本木店がカットされます）。次に「東京地区」を選択して右クリックし、ポップアップメニューから、[メンバを貼り付け(P)]－[選択メンバの子(C)]を選んで下さい（「六本木店」が「東京地区」の下に現れます）。

代官山店も同じようにして、東京地区の下に移動し、最後に「東京地区」自体を、横浜店の前に移動して下さい。

この時点でメンバツリーは以下のようになっているはずです。

左の図のように、メンバのラベルと名称を並べて表示するには、メニューから、[オプション(O)]－[オブジェクト表示(D)]－[ラベルと名称(A)]を選んで下さい。

以上で、店舗ディメンションの設定は終わりです。画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして設定内容を保存して下さい。

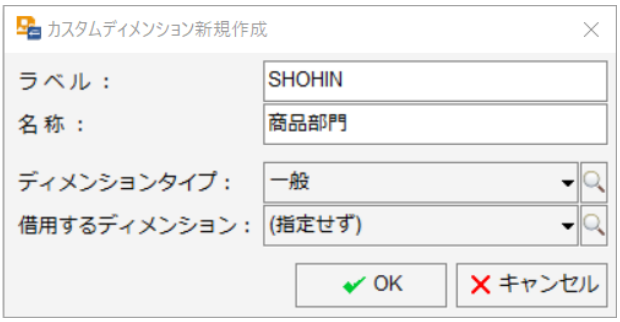
Copyright © 2019- fusions corporation

4.6　「商品部門」ディメンションを設定する

次に「商品部門」ディメンションを設定しましょう。今度は、メンバを手で登録するのではなく、テキストファイル（CSV ファイル）から読み込んで登録してみましょう。

Step 1. ディメンションを新規作成する

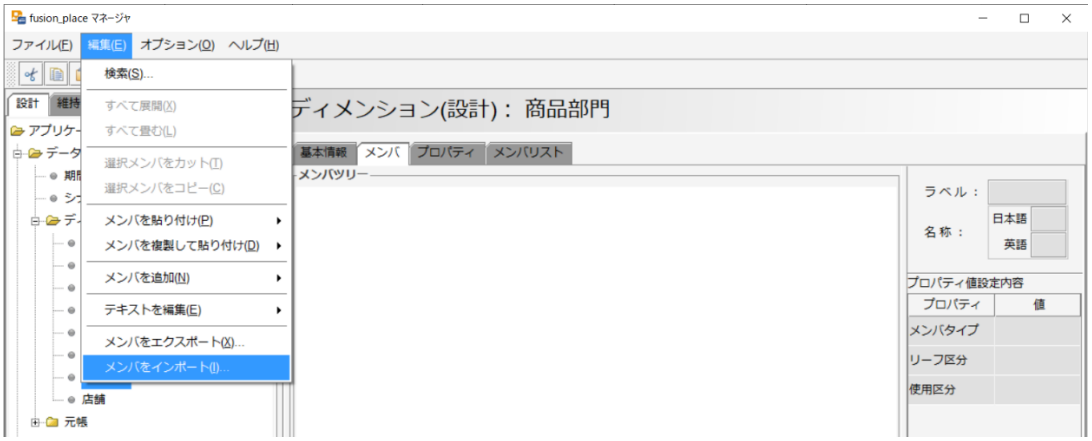
新規作成時の設定項目は以下のとおりです。



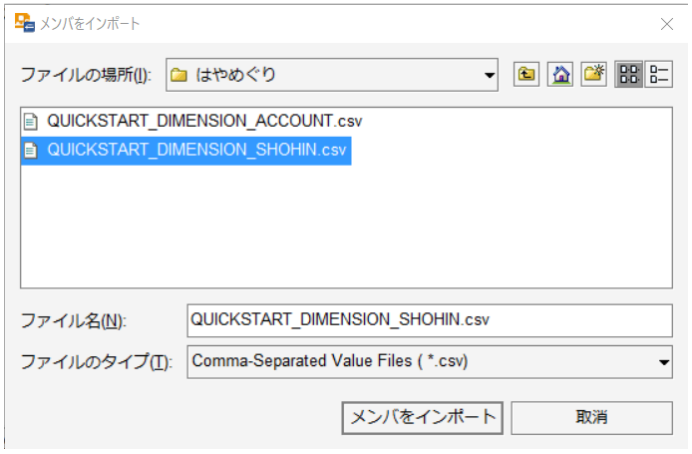
ラベル	名称	ディメンションタイプ	借用するディメンション
SHOHIN	商品部門	一般	（指定せず）

Step 2. メンバをファイルからインポートする。

「ディメンション（設計）：商品部門」画面で「メンバ」タブをクリックして、メンバツリーの画面を表示して下さい。続いて、メニューから「編集(E)－メンバをインポート(I)...」を選択して下さい。



下図のようにインポートファイル選択画面が表示されます。インポートファイルは「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルに含まれていますので、それを展開した場所（フォルダ）にあるフォルダを選択して下さい。



QUICKSTART_DIMENSION_SHOHIN.csv を選択して、「メンバをインポート」ボタンをクリックして下さい。処理が終わると、以下のようにメンバツリーにメンバが登録されて表示されます（「商品合計」をクリックして、子メンバを表示してみて下さい）。

各メンバのラベル（商品部門コード）と名称は以下の通りです。

ラベル	名称（日本語）
SHOHIN_KEI	商品合計
M01	和食器
M02	洋食器
M03	グラスウェア

なお、メンバインポート用のファイルは Excel で簡単に編集できます。いま読込んだ QUICKSTART_DIMENSION_SHOHIN.csv を Excel で開いてみて下さい。ファイルの内容の詳細については、ユーザマニュアルの、以下の箇所をご覧下さい

⇒ 「fusion_place のしくみ」－「07.ディメンション」－「09.【設・管】メンバのインポート・エクスポート」

以上で、商品部門ディメンションの設定は終わりです。画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして設定内容を保存して下さい。

4.7 「勘定科目」ディメンションを設定する

設定が必要な最後のディメンションは「勘定科目」です。勘定科目ディメンションには「売上高」「利益」といった管理項目を登録します。勘定科目ディメンション自体はアプリケーション作成時に自動的に作成されるので新しく作成する必要はありません。とはいえ、アプリケーション作成直後は、勘定科目ディメンションの中身が空なので、必要なメンバを登録する必要があります。

勘定科目のメンバには、固有のプロパティがいくつかあります。特に重要なプロパティは「データタイプ」「貸借区分」です。これらも合わせて設定します。

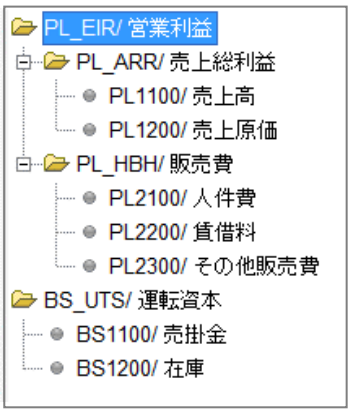
> 以下では手作業でメンバを登録することを前提にご説明していますが、商品部門ディメンションで行ったのと同様に、ファイルからメンバをインポートすることもできます。ファイルは、QUICKSTART_DIMENSION_ACCOUNT.csv という名で「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルに含まれています。
>
> ファイルからメンバをインポートすることにした場合でも、このセクションにひと通り目を通されることをお勧め致します。

Step 1. 勘定科目メンバを登録する

これまでに学んだ方法で、全ての勘定科目メンバを登録しましょう。

fusion_place マネージャの画面左側部分の「設計」タブの [アプリケーション]－[データ定義]－[ディメンション]－[勘定科目]をクリックして「ディメンション（設計）：勘定科目」画面を表示して下さい。

下図に示すツリーの形になるようにメンバを登録して下さい。各メンバのラベル・名称・プロパティ値設定内容は、この頁の下部の表に記述しています。



利益は集計メンバとし、各メンバの貸借区分（借方・貸方）を適切に設定すると、利益の金額が自動計算されます。例えば、左の図のツリーで、売上総利益を「貸方」、その子メンバである売上高は「貸方」、売上原価は「借方」としておくと、売上総利益＝売上高－売上原価となります。営業利益（貸方）も、子メンバである売上総利益（貸方）と販売費（借方）の差引で計算されます。

fusion_place は、借方をプラスとして金額を保持していて、表示・入力の際に、貸借区分が貸方なら符号を付けかえます。

「はやめぐり」アプリケーションの勘定科目ディメンションにはルートメンバが二つあります（営業利益と運転資本）。ルートメンバはいくつでも設けることができます。

勘定科目	ラベル	名称（日本語）	プロパティ値		
			リーフ区分	データタイプ	貸借区分
営業利益	PL_EIR	営業利益	リーフでない	フロー値	貸方
売上総利益	PL_ARR	売上総利益			
売上高	PL1100	売上高	リーフである		
売上原価	PL1200	売上原価			借方
販売費	PL_HBH	販売費	リーフでない		
人件費	PL2100	人件費	リーフである		
賃借料	PL2200	賃借料			
その他販売費	PL2300	その他販売費			
運転資本	BS_UTS	運転資本	リーフでない	バランス値	借方
売掛金	BS1100	売掛金	リーフである		
在庫	BS1200	在庫			

*この表に示されていないプロパティの値は初期設定値のままにして下さい。

以上で、ディメンション設定はすべて終わりです。画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして勘定科目ディメンションの設定内容を保存して下さい。

Copyright © 2019- fusions corporation

4.8　ディメンションメンバの登録と管理について

ここまでの実習を踏まえて、ディメンションメンバの登録と管理について、実務上のポイントになる事柄を確認しておきましょう。

基幹システムとのマスタ連携

実習で見たように、ディメンションのメンバをテキストファイルからインポートすることができます。したがって、販売管理や会計といった基幹システムのマスタデータをインポート用のテキストファイルから取り込むことによって、マスタ連携が可能になります。

基幹システムのマスタにない括りでのデータ集計

連携したマスタをもとに、経営管理上必要な括りを独自に登録することもできます。今回登録した店舗ディメンションを例にとりましょう。六本木店・代官山店といった個々の店舗は基幹システム側で店舗マスタに登録されていても、「東京地区」のような管理上の集約単位はマスタデータとして保持されていないかもしれません。こうした集約単位も、fusion_place ではメンバとして登録でき、その括りで管理帳票を作成することができます（「2.2 予算を集計して確認する」参照）。こうした任意集計は経営管理業務ではほぼ必ず必要になりますが、一般的な BI（ビジネスインテリジェンス）ツールでは対応が難しい問題でもあります。

メンバの登録・修正作業のさらなる効率化

メンバを手作業で登録する場合、メンバツリー上で個々に項目を設定するのは大変かもしれません。そのような場合に備えて、メンバの登録内容データを Excel とやり取りする機能が用意されています。

メンバパネルの右下のボタン「クリップボードへ」を押下した後、Excel のシート上で適当なセルを選び「ctrl+v」キーを押下すると、メンバの内容がシートに貼り付けられます。

シート上で名称やプロパティを修正し、メンバデータのある範囲を選択してコピーした上で、メンバパネルに戻り、「クリップボードから」をクリックすると、修正内容がメンバツリーに反映されます。

詳しくはユーザマニュアルの以下の項目をご覧ください：

「操作の手引き」－「01.マネージャ」－「10.設計」－「02.データ定義を設定する」－「03.ディメンションを設定する」

4.9 「店舗・商品部門別利益」元帳を作成する

これまでに設定した「店舗」「商品部門」「勘定科目」ディメンションなどを組み合わせて、**元帳**を作成します。

「元帳」とは経営管理データを納めておく箱です。ルービックキューブのようなものを想像して、キューブ自体を元帳、キューブの縦・横・奥行きの軸をディメンションと考えると分かり易いかもしれません。ただし、元帳は三次元にとどまりませんし、各ディメンションの中にはメンバのツリーがあるなど、ルービックキューブとは似ていない部分もあります。

Step 1. 元帳画面を表示する

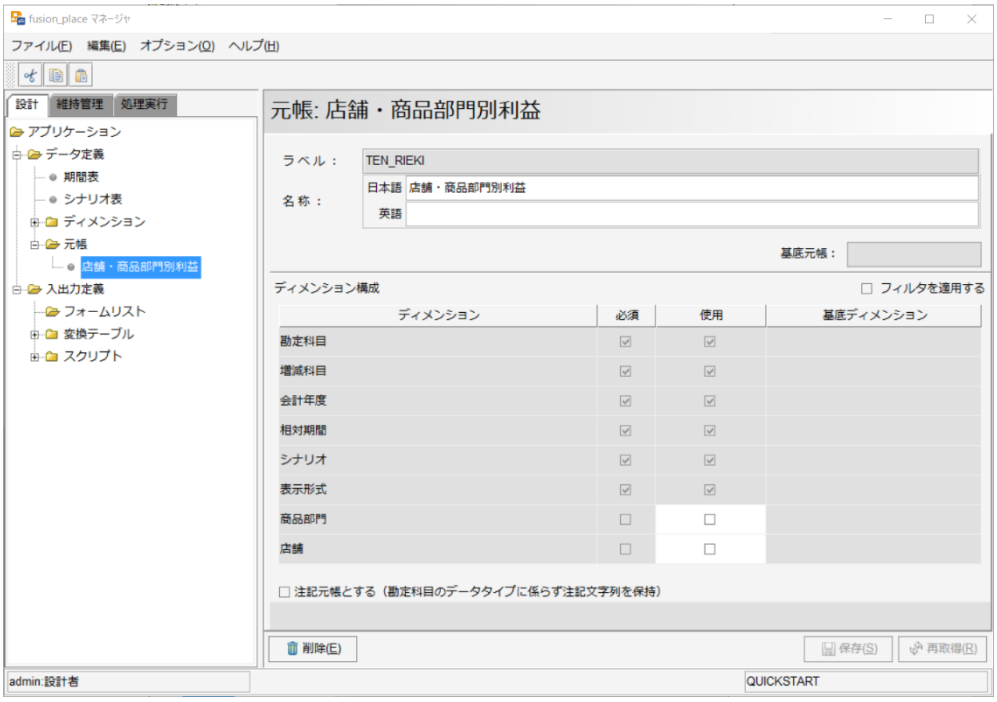
fusion_place マネージャの画面左側部分の「設計」タブの[アプリケーション]－[データ定義]－[元帳]をクリックして「元帳」画面を表示して下さい。

Step 2. 元帳を新規作成する

「元帳」画面上の「元帳新規作成(N)...」ボタンをクリックして下さい。「元帳新規作成」画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

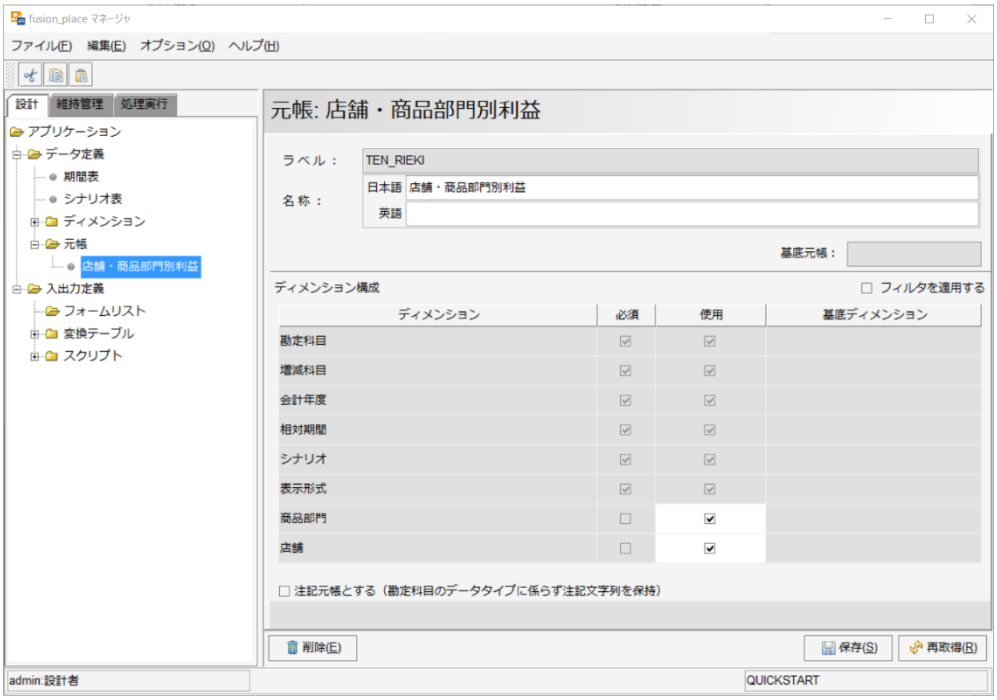
ラベル	名称	基底元帳
TEN_RIEKI	店舗･商品部門別利益	（指定せず）

店舗・商品部門別利益元帳が作成され、同元帳の設定画面が表示されます。



Step 3. 元帳で使用するディメンションを指定する

次に、店舗・商品部門別利益元帳で用いるディメンションを指定します。この元帳ではこれまでに作成した全ディメンションを使うので、同元帳の設定画面の「ディメンション構成」表の「使用」欄で、チェックマークが無い「商品部門」と「店舗」の両方の行のチェックボックス（□マーク）をクリックし、チェックを入れて下さい。



※　画面左下の「注記元帳とする」チェックボックスはブランクのままとして下さい。

以上で、元帳の設定は終わりです。画面右下の「保存(S)」ボタンをクリックして設定内容を保存して下さい。

元帳のディメンション構成には、私たちが設定した 3 つのディメンションすなわち「店舗」「商品部門」「勘定科目」以外にも、ディメンションが含まれます。これらのディメンションは登録済の各種表に基づいて自動設定されるか、あるいは元帳を特殊な用途で使用するときのみ設定を要するものです：

- シナリオ　…　「シナリオ表」をもとに自動設定されます。
- 相対期間　…　「期間表」をもとに自動設定されます。
- 表示形式　…　同上
- 会計年度　…　「会計年度表」をもとに自動設定されます。
- 増減科目　…　バランス勘定科目について増減内訳を管理する場合のみ設定が必要です。その他の場合は「なし/ #NONE」を指定して下さい。

上記の 5 つのディメンションと勘定科目ディメンションはどの元帳にも必須です。

次のステップに進む前に、それぞれの内容をご覧になっておいて下さい。

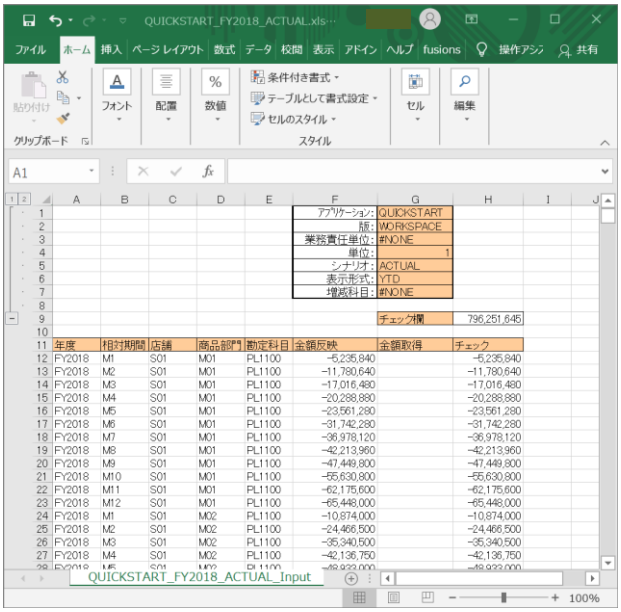
Copyright © 2019- fusions corporation

5　実績データを取込む

ここまでのステップで、店舗別・商品部門別の利益管理データを納める箱（元帳）を用意しました。次にはその箱に実績値を取り込みましょう。「Excel-Link」を用いてそのデータを元帳に取込みます。

> fusion_place premium, cloud では会計システムのデータをコードやフォーマットを変換しながら自動取込みする機能が用意されています。日次で伝票データの自動取り込みなどを行うことができます。

この「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルに格納されている「QUICKSTART_FY2018_ACTUAL.xlsx」という Excel ファイルを開きます。メニューから[fusions]-[データ反映]を選んでください。このファイルにはすでにデータ反映の設定がされています（設定内容については「7.3（参考）実績データ取込み用ファイルの Excel-Link の設定」をご参照ください）。



金額反映列（F 列）のデータが fusion_place に反映され、同時に金額取得列（G 列）に、fusion_place からデータを取得し、その差額をチェック列（H 列）で計算しています。チェック列の合計をチェック欄（セル H9）で計算していますので、チェック欄が 0 にならない場合、すべてのデータが反映されたわけではないことを表します。この場合どのデータが反映されていないのか確認して下さい。

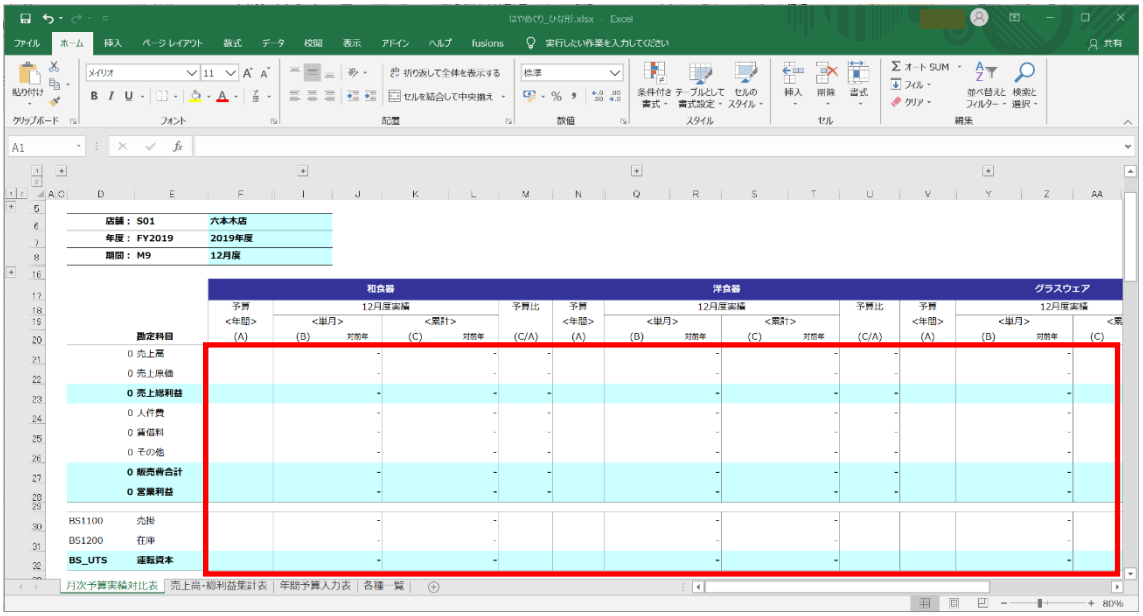
同様に「QUICKSTART_FY2019_ACTUAL.xlsx」を開き、メニューから[fusions]-[データ反映]を選んでください。

6 Excel-Link で月次報告資料を作成する

それでは前のステップで取込んだ実績データをもとに月次報告資料を作成しましょう。

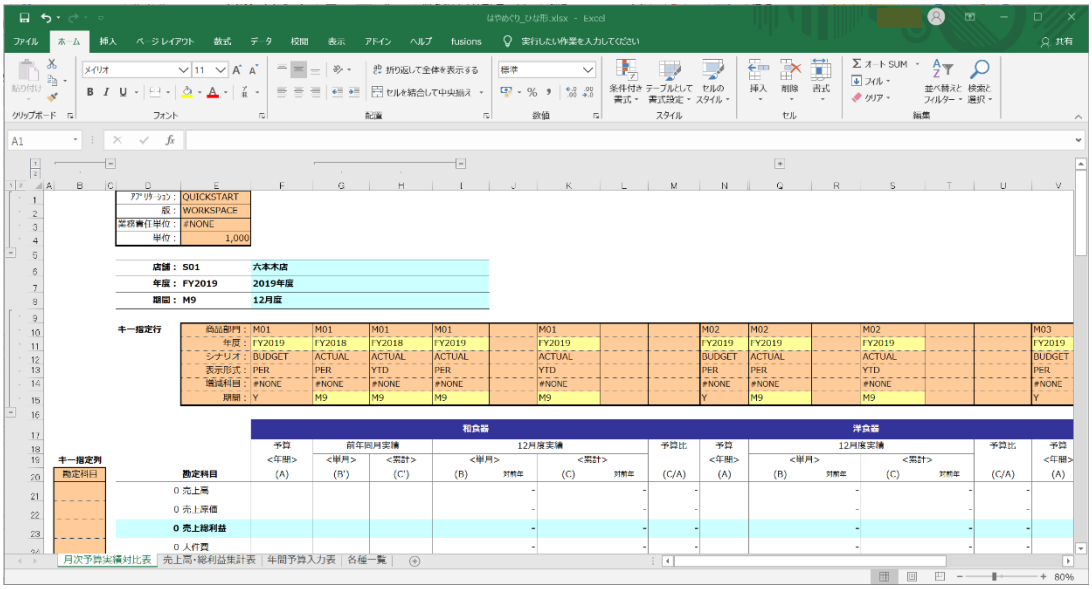
6.1 シートのレイアウトを確認する

この「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルの「はやめぐり_ひな形.xlsx」という Excel ファイルを開き、「月次予算実績対比表」シートを選択して下さい。



この表のデータ表示領域（上図にて赤枠で囲んだ F21:AK32）には、fusion_place の店舗・商品部門別利益元帳のデータを表示することを想定しています。

ところで、このシートには、Excel のアウトライン機能を用いて隠されている列と行があります。C 列と I 列の上の ✚ アイコンをクリックして隠し列を表示して下さい。同様に 5 行目と 16 行目の左の ✚ アイコンもクリックして隠し行を表示して下さい。下図のように表示されます。



隠されていたのは、Excel-Link のための設定情報です：

- E1:E4 … 対象アプリケーションのラベルなど、全セル共通の情報が指定されています。
- 10 行目～15 行目 … データ表示領域の各列に適用するキー（各ディメンションのメンバラベル）が指定されています。なお、年度・期間については、選択欄（E7 と E8）の値に連動するよう、式が設定されています。
- B 列 … データ表示領域の各行に適用するキー（勘定科目ディメンションのメンバラベル）が指定されています（セル B21:B28 については、「6.2 シートに Excel-Link 用の設定を加える」の Step5 で設定します）。

このシートでは勘定科目のみがキー指定列に配され（すなわち行ごとのキーとされ）、その他のディメンションのメンバはキー指定行に配されて（すなわち列ごとのキーとされて）います。各ディメンションは、シートレイアウトに合わせて行・列どちらに配することもできます。また、ひとつのキー値をデータ表示領域の全セルに適用する場合には、そのキー値を特定のセルにて指定することも可能です。

このシートには、Excel-Link の設定はまだ一切行っていませんので、これから設定していきましょう。

6.2　シートに Excel-Link 用の設定を加える

Excel-Link を用いるには、以下のような事柄を Excel-Link が認識できるようにする必要があります：

- シートのどの範囲を対象に fusion_place からデータを取得する（あるいは fusion_place にデータを反映する）のか。
- どの元帳からデータを取得するのか。
- その範囲の各セルに対するキー項目はどの行あるいは列又はセルに指定されているのか。

「リンク領域の設定」では、こうした情報を指定します。

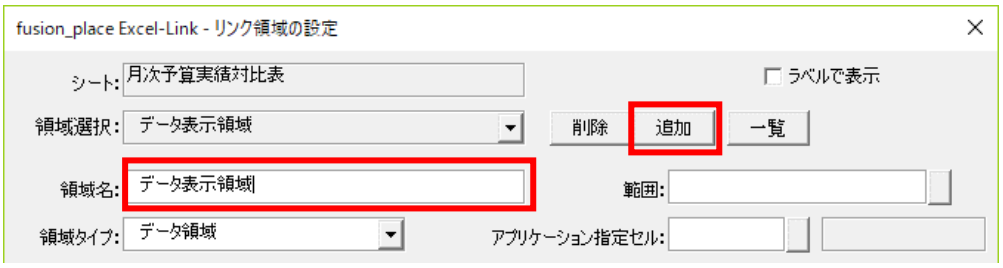
Step 1.リンク領域設定画面を表示する

メニューから[fusions] - [リンク領域の設定]を選んで下さい。ユーザ名とパスワードの入力が促される場合がありますが、「1 Excel-Link を使用する」で説明した通りに入力して下さい。

下図のように、「リンク領域の設定」画面が表示されます。

Step 2.リンク領域を追加する

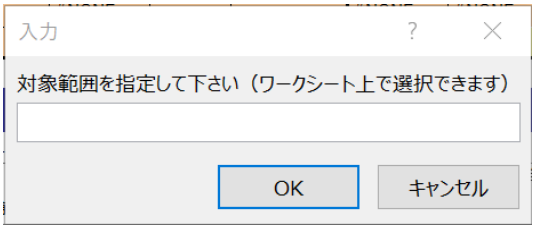
領域選択欄の右の「追加」ボタンをクリックしてリンク領域を追加して下さい。領域名欄に「Region 1」と初期表示されますが、下図のように「データ表示領域」と上書き入力して下さい。



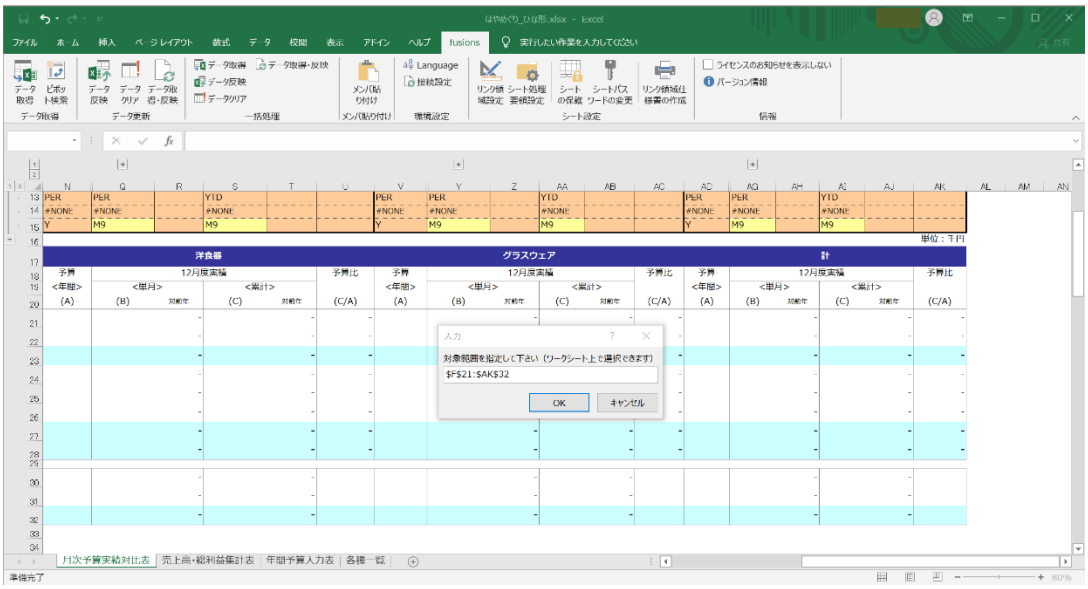
Step 3.リンク領域の範囲を指定する

追加した「データ表示領域」の対象範囲を指定します。範囲指定欄の右にあるボタン（下図参照）をクリックして下さい。

次のような「入力」画面が表示されます：



シート上でマウスを用いて範囲 F21:AK32 を指定して下さい（シート上で範囲を選択する代わりに、上図画面の入力欄に直接 F21:AK32 と入力してもかまいません）。



指定を終えて OK ボタンをクリックすると、「リンク領域の設定」画面に戻ります。範囲指定欄に、F21:AK32 と表示されていることを確認して下さい。

Step 4.リンク領域に関する設定項目（キー割り当て以外）を設定する

各項目を以下のように設定して下さい：

領域タイプ

初期提案値「データ領域」のままにしておいて下さい。

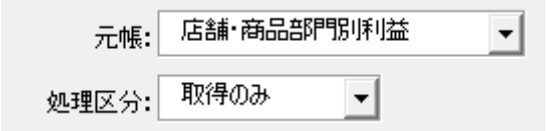
アプリケーション指定セル

セル E1 を指定して下さい。「範囲」指定欄と同様、指定欄の右端にあるボタン（下図参照）をクリックすると、セル指定のための画面が表示されます。その画面を表示した状態でセル E1 をクリックするか、あるいは、入力欄に直接 E1 と入力して下さい。

⇒　正しく設定すると、右側に当該セルの値「QUICKSTART」が表示されます。

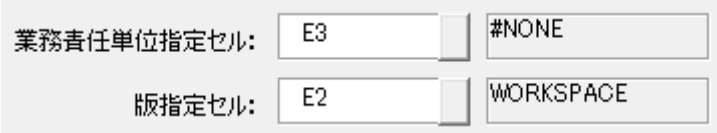
元帳と処理区分

元帳は「店舗・商品部門別利益」、処理区分は「取得のみ」を選択して下さい（アプリケーション指定セルを正しく指定しないと、元帳の選択肢は表示されないのでご注意下さい）。



業務責任単位指定セルと版指定セル

業務責任単位指定セルにはセル E3 を、版指定セルにはセル E2 を指定して下さい。セル指定の要領はアプリケーション指定セルと同じです。



業務責任単位指定セルには、業務責任単位のラベルを指定します。業務責任単位は部門や担当職務別に設けます。ただし、このはやめぐりで使用している「ワークグループ」タイプのアプリケーションでは、すべてのユーザは「なし/ #NONE」という唯一の業務責任単位に属するものとみなされます。fusion_place premium, cloud で使用可能な「エンタープライズ」タイプあるいは「ワークフロー」タイプのアプリケーションでは部門や担当職務別に権限を分けることができます。

版指定セルには、アクセスしたい元帳版のラベルを指定します。「共有作業版」のラベルは、「WORKSPACE」、公開版のラベルは「PUBLIC」です。

金額／数値表示条件

表示単位指定セルに、（アプリケーション指定セルと同じ要領で）セル E4 を指定して下さい。他の項目は、初期提案値のままにしておいて下さい。

表示単位セルには、ワークシート上での金額・数値の表示単位を、元帳での金額の保持単位に対する倍数として指定してください。たとえば fusion_place の元帳では 1 円単位で金額を保持し、シート上では千円単位で表示したい場合、表示単位指定セルには 1,000 と指定して下さい。単位変換後の値の小数点以下部分をどう扱うかを「有効小数桁」と「端数処理」で指定することができます。詳しくはユーザマニュアルをご覧ください。

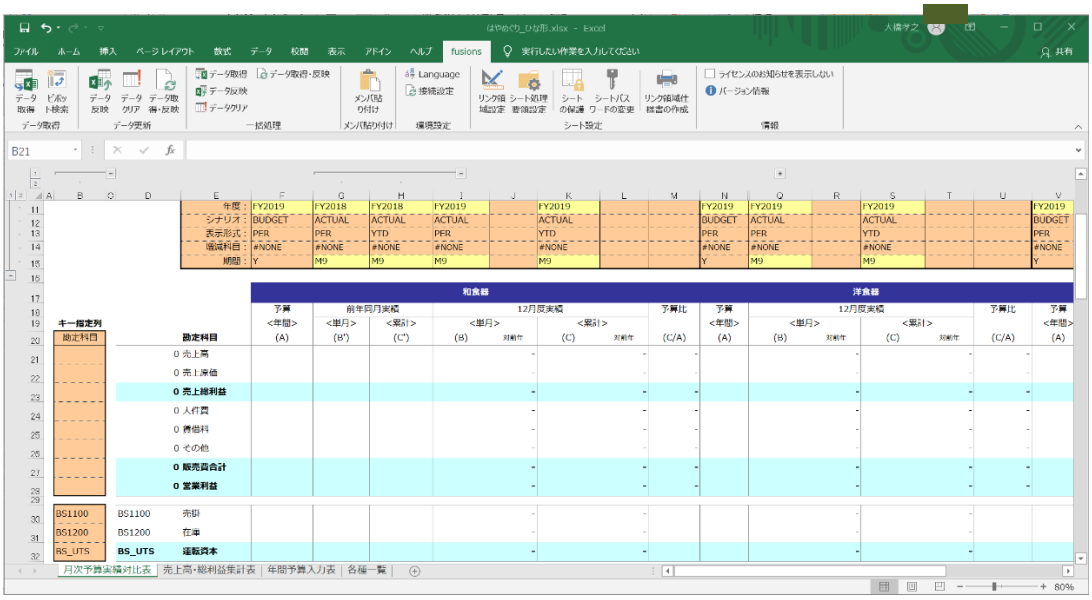
ここまで設定できたら、途中ですが、いったん「保存」ボタンをクリックして下さい。「リンク領域の設定」画面が閉じられます。設定は、シート内のユーザには見えない領域に保存されます。保存された「リンク領域の設定」画面は、メニュー[fusion_place]-[リンク領域の設定]から、よびだせます。また、シートをコピーした場合、「リンク領域の設定」も一緒にコピーされます。

Copyright © 2019- fusions corporation

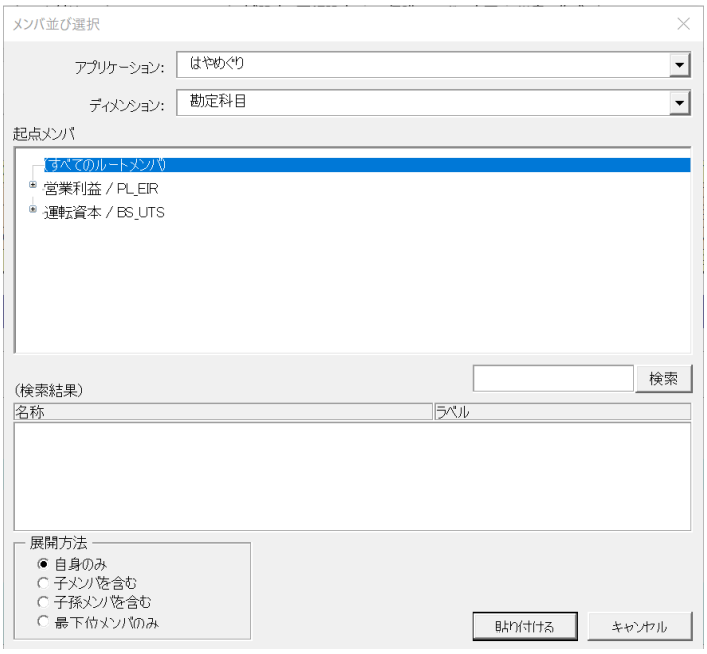
Step 5.メンバの貼付け

「月次予算実績対比表」シートの B 列の一部には勘定科目のメンバラベルが設定されていません（セル B21:B28）。ここに勘定科目のメンバラベルを貼り付けます。

セル B21:B28 を選択します。メニューから[fusions]-[メンバ貼り付け]を選んで下さい。



メンバ並び選択画面が表示されます。

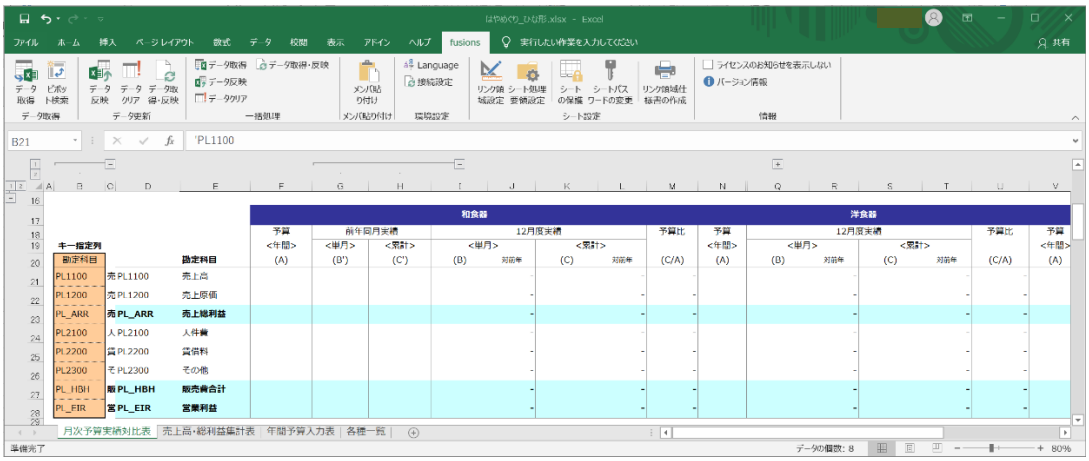


アプリケーションは「はやめぐり」、ディメンションは「勘定科目」をそれぞれ選択します。ここで、絞り込みの起点（頂点）となるメンバと、起点メンバをもとにどの範囲のメンバを検索対象に含めるかを示す「展開方法」を指定して下さい。

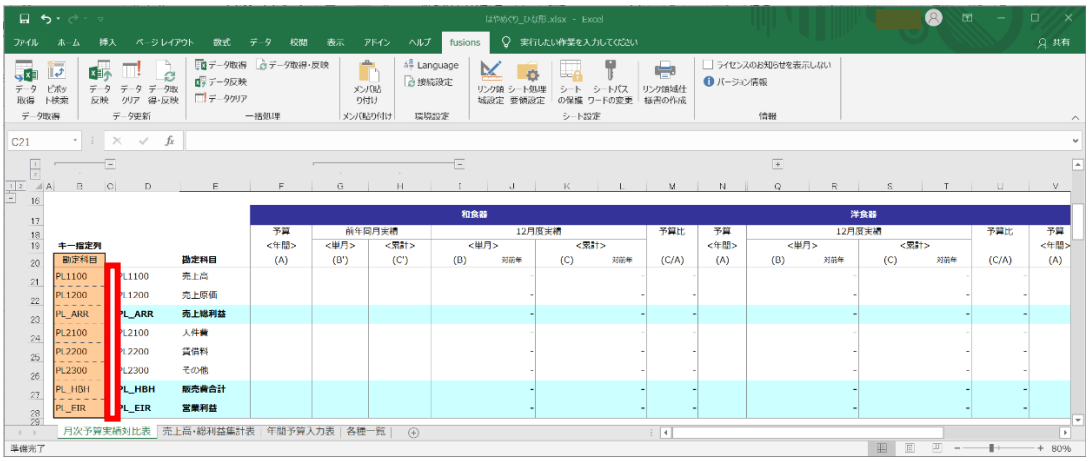
ディメンション	起点メンバ	展開方法
勘定科目	営業利益	子孫メンバを含む

指定し終えたら、「貼り付ける」ボタンをクリックして下さい。

以下のようにメンバラベルが貼り付けられます。



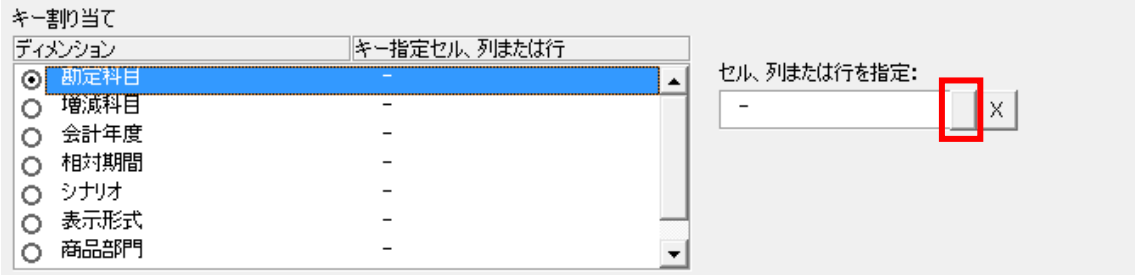
*メンバ貼り付け機能ではメンバラベル（PL1100 など）と同時にメンバ名称（売上高など）も同時に貼り付けられます。不要ですのでメンバ名称（下図赤枠セル C21:C28）をクリアします。



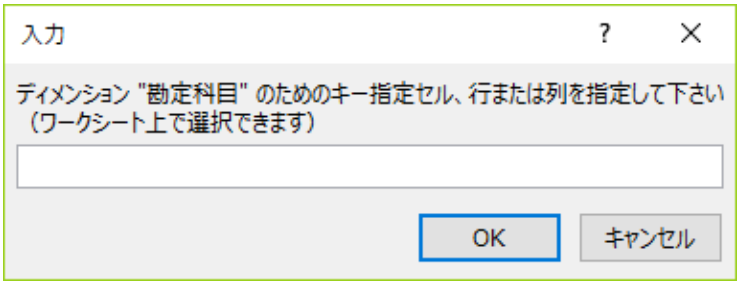
Step 6.リンク領域に関する設定項目（キー割り当て）を設定する

最後に、「キー割り当て」条件を設定します。キー割り当て条件は、リンク領域の各セルに適用するディメンションメンバラベルが設定されているセルあるいは列（または行）を指定するものです。

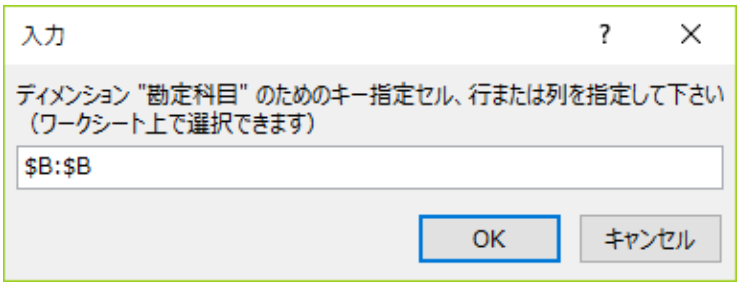
もういちど、メニューから[fusions] - [リンク領域の設定]を選択し、設定画面を開いて下さい。登録途中で先ほど保存した「データ表示領域」が選択されていますので、キー割り当て欄（下図）で設定を再開します。



左の一覧で各ディメンションの行をダブルクリックするか、あるいは、左の一覧で行を選択（反転表示）した上で、「セル、列または行を指定」欄のすぐ右のボタン（上記画面赤枠のボタン）をクリックして下さい。次のような「入力」画面が表示されます：



キー割り当て欄では、特定のセルか、行全体または列全体を指定します。たとえば「勘定科目」の場合、（勘定科目のメンバラベルを指定している）B 列の一番上の列記号欄”B”をクリックすると、下図のように B 列全体が選択されます：



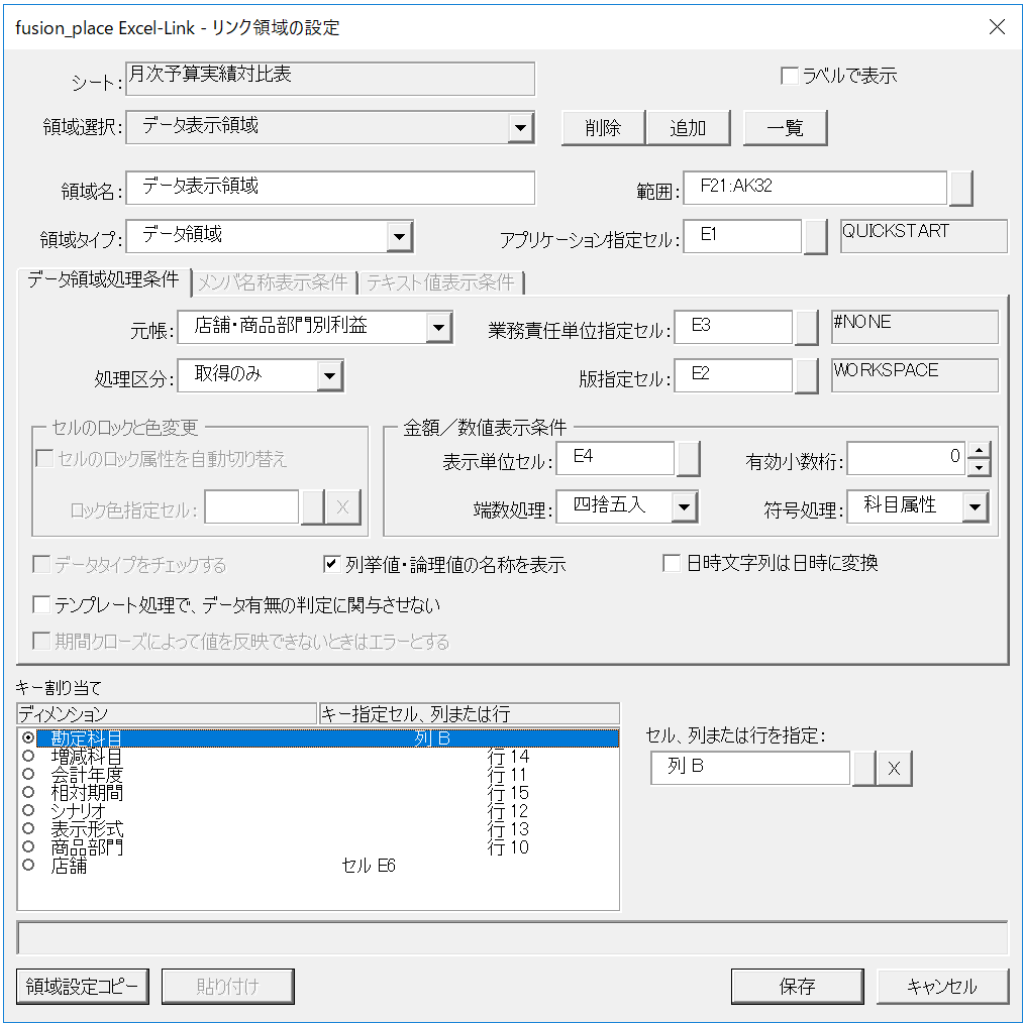
この状態で OK ボタンをクリックすると、キー割り当て欄でディメンション「勘定科目」の行に「列 B」と表示されます。

このリンク領域では、勘定科目と店舗以外のディメンションは行に割り当てるので、それぞれ、行番号欄をクリックして行全体を選択します。店舗については、セル「E6」を指定します。

ディメンションごとに、以下の列・行または単一セルを指定して下さい：

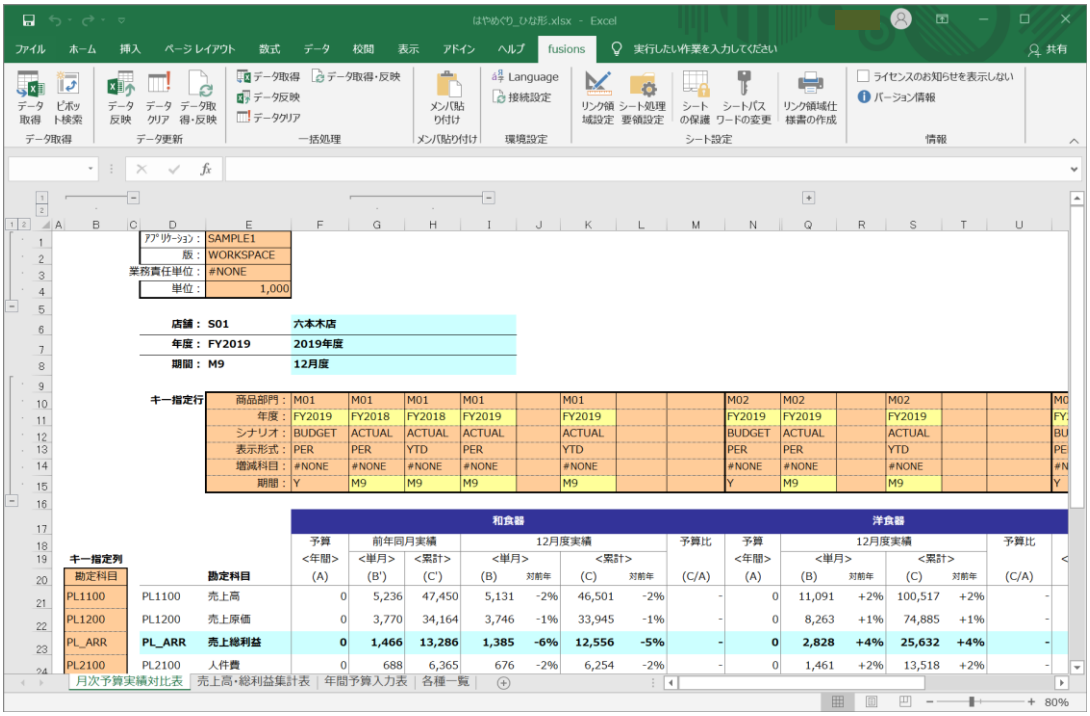
ディメンション	（ラベル）	キー指定セル、列または行
勘定科目	（#ACCOUNT）	列 B
増減科目	（#CHANGE）	行 14
会計年度	（#FY）	行 11
相対期間	（#PERIOD）	行 15
シナリオ	（#SCENARI O）	行 12
表示形式	（#VIEW）	行 13
商品部門	（SHOHIN）	行 10
店舗	（TENPO）	セル E6

設定後、「保存」ボタンをクリックして画面を閉じて下さい。



以上でリンク領域の設定は終了です。「1.1 Excel-Link でシートにデータを取得する」と同様の手順でデータ取得をして、「5 実績データを取込む」で取込んだ実績データが表示されることを確認してください。

【月次予算実績対比表シート】



Step 7.売上・総利益集計表のリンク領域を設定する

Step1 から Step6 の内容を参考に、以下の要領で「売上・総利益集計表」シートにもリンク領域を設定します。

【設定内容】

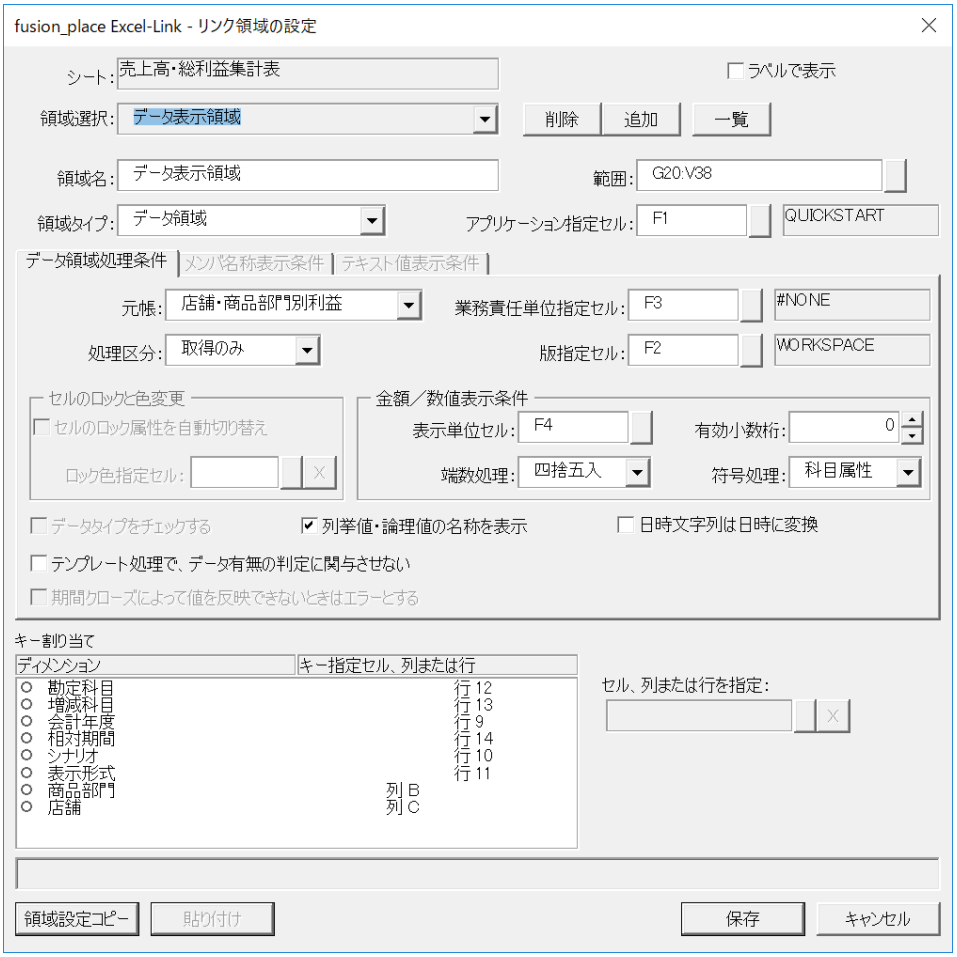
ディメンション	設定内容（設定範囲）
領域名	データ表示領域
領域タイプ	「データ領域」を選択
範囲	G20:V38
アプリケーション指定セル	F1
元帳	「店舗・商品部門別利益」を選択
処理区分	「取得のみ」を選択
業務責任単位指定セル	F3
版指定セル	F2
表示単位セル	F4

【キー割り当て】

ディメンション	（ラベル）	キー指定セル、列または行
勘定科目	（#ACCOUNT）	行 12
増減科目	（#CHANGE）	行 13
会計年度	（#FY）	行 9
相対期間	（#PERIOD）	行 14
シナリオ	（#SCENARI O）	行 10
表示形式	（#VIEW）	行 11
商品部門	（SHOHIN）	列 B
店舗	（TENPO）	列 C

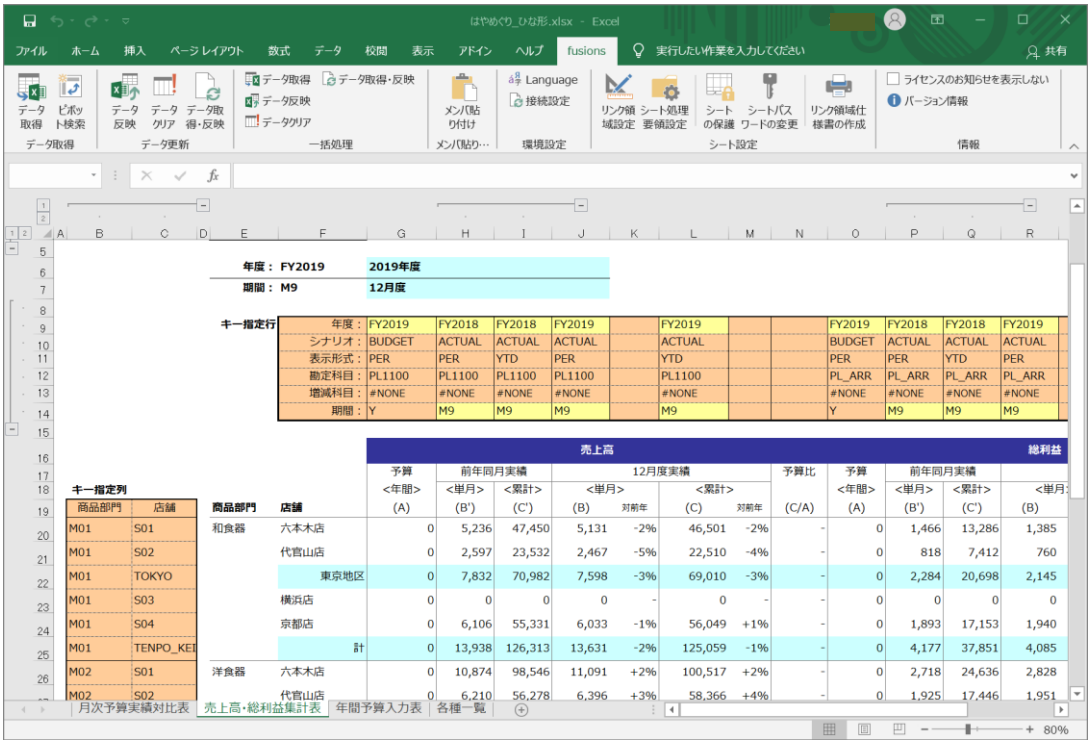
この例のように列項目を複数列設定することもできます。

設定後、「保存」ボタンをクリックして画面を閉じて下さい。



以上でリンク領域の設定は終了です。「1.1 Excel-Link でシートにデータを取得する」と同様の手順でデータ取得をして、「5 実績データを取込む」で取込んだ実績データが表示されることを確認してください。

【売上高・総利益集計表シート】



7 Excel-Link で予算入力表を作成する

「6 Excel-Link で月次報告資料を作成する」では fusion_place から Excel にデータを出力する方法を学びました。反対に Excel のデータを fusion_place に格納する方法を学びます。この節では Excel-Link を使用して Excel の予算入力表を作成してみましょう。

7.1 予算入力のための Excel-Link の設定方法を確認する

「はやめぐり_ひな形.xlsx」の「年間予算入力表」シートを選択します。以下の要領でリンク領域の設定をします。

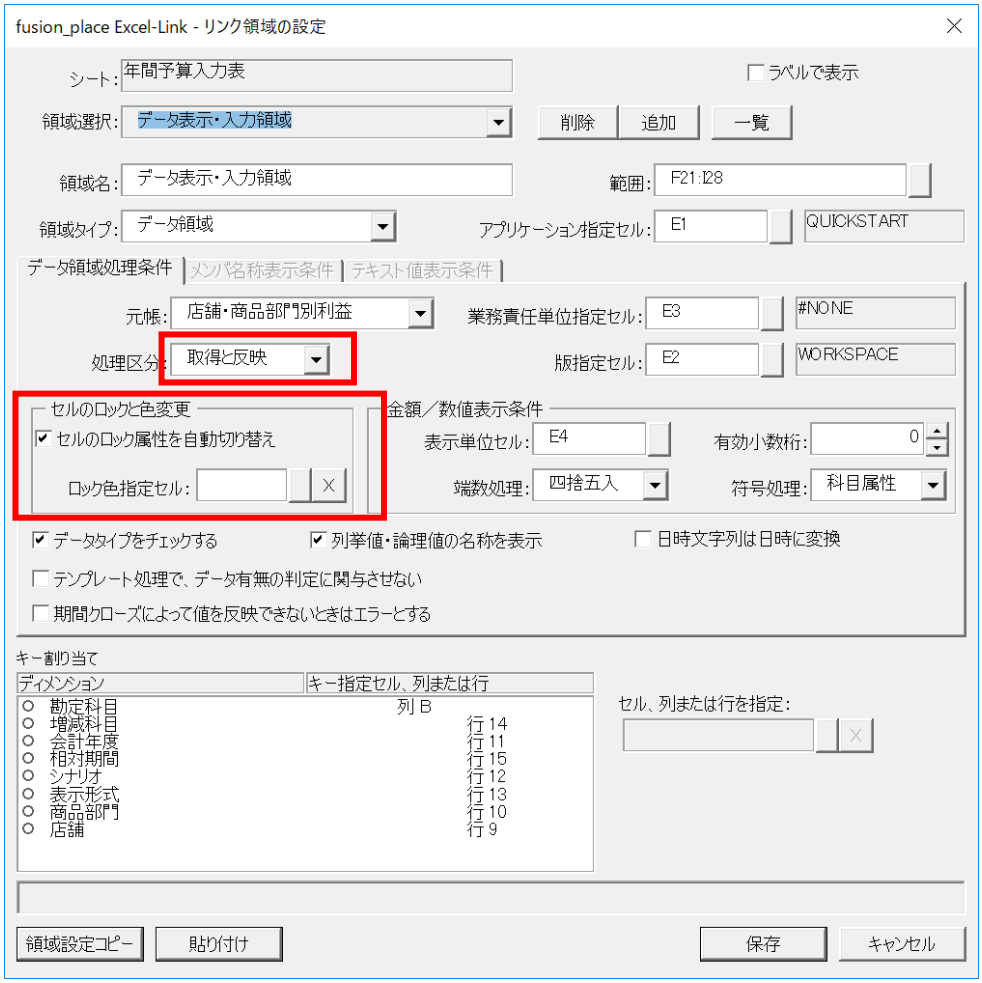
【設定内容】

ディメンション	設定内容（設定範囲）
領域名	データ表示・入力領域
領域タイプ	「データ領域」を選択
範囲	F21:I28
アプリケーション指定セル	E1
元帳	「店舗・商品部門別利益」を選択
処理区分	「**取得と反映**」を選択
セルのロックと色変更	「セルのロック属性を自動切り替え」にチェック
業務責任単位指定セル	E3
版指定セル	E2
表示単位セル	E4

【キー割り当て】

ディメンション	（ラベル）	キー指定セル、列または行
勘定科目	（#ACCOUNT）	列 B
増減科目	（#CHANGE）	行 14
会計年度	（#FY）	行 11
相対期間	（#PERIOD）	行 15
シナリオ	（#SCENARI O）	行 12
表示形式	（#VIEW）	行 13
商品部門	（SHOHIN）	行 10
店舗	（TENPO）	行 9

Copyright © 2019- fusions corporation



表示専用領域と表示・入力兼用領域で、設定が異なるのは以下の二点だけです：

①処理区分

表示専用領域では「取得のみ」を選びますが、表示・入力兼用領域では「取得と反映」を選択して下さい。

②セルのロックと色変更

セルのロック属性を入力可否に合わせて切り替えるかどうか、また入力不可のセルにどの色を付けるかを指定します（指定しなければ、既定の色が付けられます）。

7.2　予算データの入力

「2 Excel-Link で予算データを入力する」と同様の手順で Excel-Link を使用して予算データを fusion_place に投入して下さい。

7.3 （参考）実績データ取込み用ファイルの Excel-Link の設定

「QUICKSTART_FY2018_ACTUAL.xlsx」では以下の要領でデータ反映の設定がされています（「QUICKSTART_FY2019_ACTUAL.xlsx」も同様のため省略します）。

リンク領域設定（データ反映部分）

【設定内容】

ディメンション	設定内容（設定範囲）
領域名	実績データ反映領域
領域タイプ	「データ領域」を選択
範囲	F12:F1000
アプリケーション指定セル	G1
元帳	「店舗・商品部門別利益」を選択
処理区分	「**反映のみ**」を選択
業務責任単位指定セル	G3
版指定セル	G2
表示単位セル	G4

【キー割り当て】

ディメンション	（ラベル）	キー指定セル、列または行
勘定科目	（#ACCOUNT）	列 E
増減科目	（#CHANGE）	セル G7
会計年度	（#FY）	列 A
相対期間	（#PERIOD）	列 B
シナリオ	（#SCENARI O）	セル G5
表示形式	（#VIEW）	セル G6
商品部門	（SHOHIN）	列 D
店舗	（TENPO）	列 C

リンク領域設定（データ取得部分）

【設定内容】※リンク領域は「リンク領域の設定」画面の左上「領域設定」から切り替えることができます

ディメンション	設定内容（設定範囲）
領域名	**実績データ取得領域**
範囲	**G12:G1000**
処理区分	「**取得のみ**」を選択

同一のシート内にほぼ同じ内容のリンク領域を設定する場合、リンク領域の内容をコピーして貼り付けることができます。リンク領域画面の左下「領域設定コピー」ボタンを押下し、新しい領域を追加した後、「貼り付け」ボタンを押下して貼り付けます。

設定内容の他の項目、キー割り当て項目についてはデータ反映部分と同一です。

Copyright © 2019- fusions corporation

8　簡易版フォームを使用する

これまでは、Excel-Link によるデータの入出力をお試し頂きましたが、fusion_place にはデータの入出力のための仕組みがもうひとつ用意されています。それがフォームと呼ばれる機能です。

フォームには、手軽にレポートや入力画面が作成できる「簡易版」と、簡易版より細かいレイアウトにも対応でき、計算処理なども行える「フル機能版」があります。standard では、「簡易版」は作成できますが、「フル機能版」は作成できず、premium および cloud で作成した「フル機能版」の実行のみ可能です。

ここでは「簡易版」フォームを使用して頂きます。

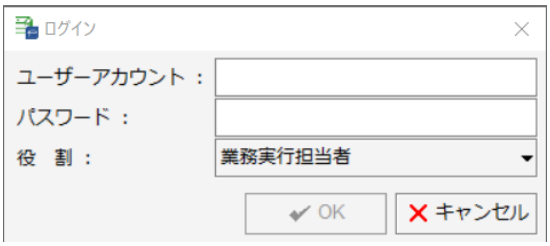
8.1　簡易版フォームで予算データを入力する

Step 1. fusion_place ブラウザを起動する

コンピュータのデスクトップにある fusion_place ブラウザのアイコン をダブルクリックして fusion_place **ブラウザ**を起動して下さい。

Step 2. fusion_place ブラウザにログインする

「ログイン」画面が表示されますので、以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。



ユーザアカウント	パスワード	役割
admin	admin	「業務実行担当者」

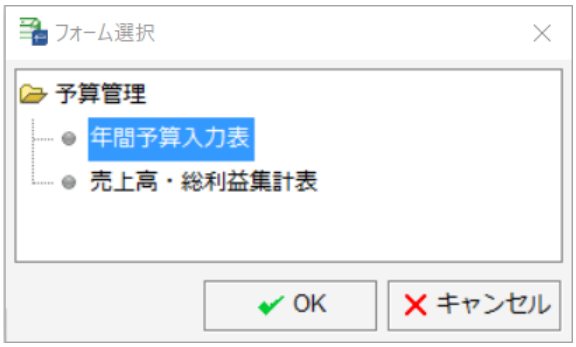
大文字と小文字が区別されます

＊fusion_place のセットアップ後、ユーザアカウントやパスワードを変更した場合には、上記に代えて、適切なユーザアカウントとパスワードを入力して下さい。

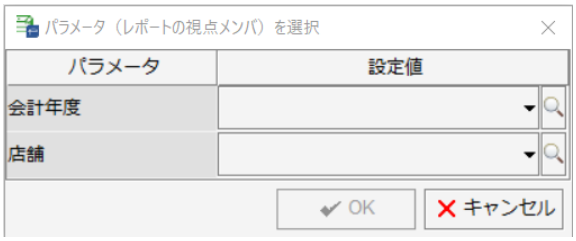
この後、「アプリケーション選択」画面が表示されます。「SAMPLE1」を選択して OK ボタンをクリックして下さい。

Step 3. フォームを選択します

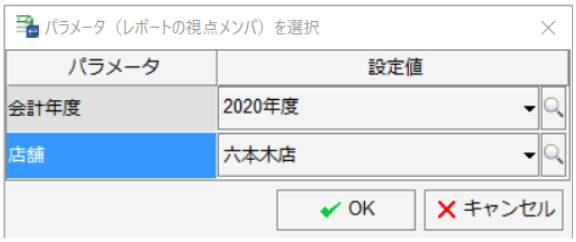
フォーム選択画面が表示されたら、予算管理／年間予算入力表を選択して OK ボタンをクリックします。



この後、「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます（※）。



「2020 年度」「六本木店」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。



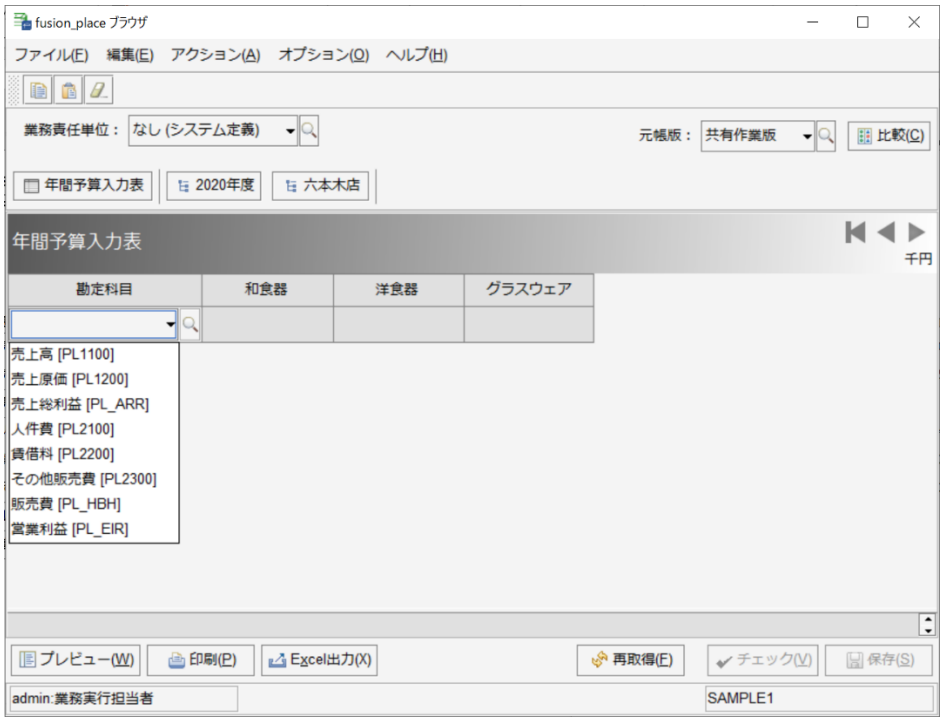
※ すでにパラメータが選択されている場合、この画面は表示されません。その場合、画面上部のボタンでパラメータを切り換えることが出来ます。
また、メニューから「アクション＞視点選択…」で、上図の画面を表示し、パラメータを切り換えることが出来ます。

Step 4. 予算を入力する

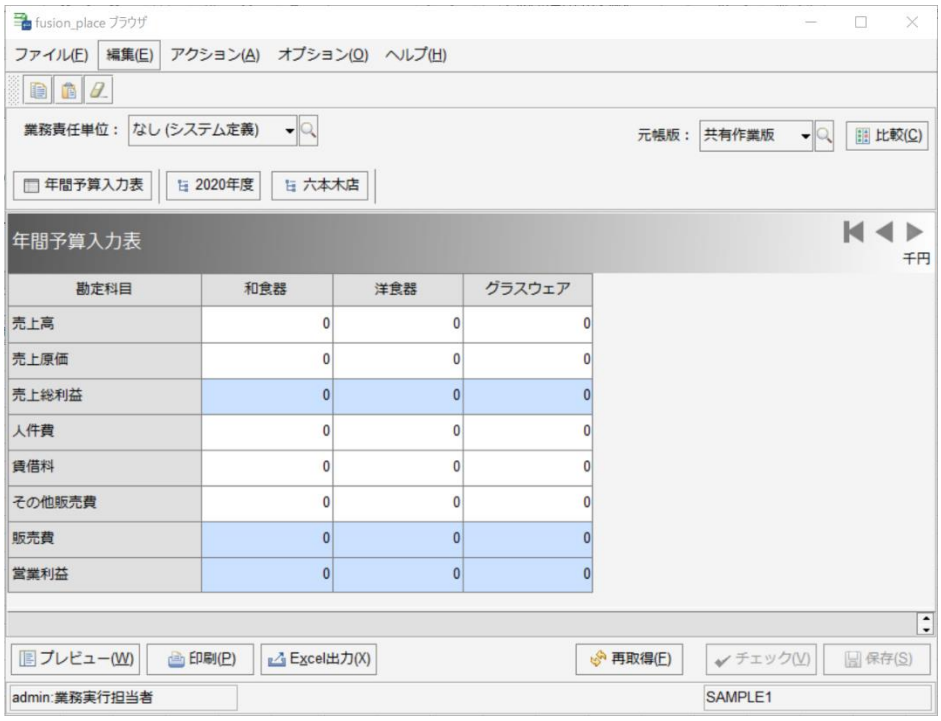
「簡易版」では、すべての列にデータが入力されていない行は表示されません。（「フル機能版」では表示させることもできます。）

1 行目をクリックしてドロップダウンリストからメンバを選択することで、行を表示させます。

勘定科目列をクリックして売上高［PL1100]を選択します。



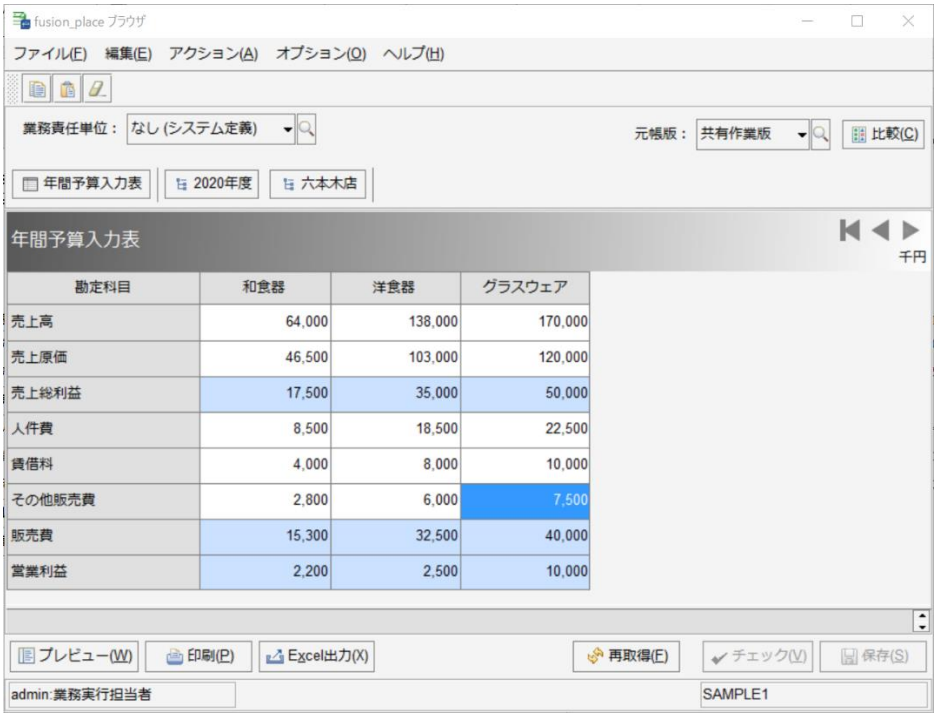
選択すると売上高の入力セルが表示されます。同様の手順で勘定科目にあるすべての勘定を表示させて下さい。



Excel-Link と同様に集計結果である売上総利益や販売費、営業利益は入力することができないことを表すため、セルが着色表示されています。

それでは値を入力してみましょう。「SAMPLE1.xlsx」ファイルの「年間予算入力表」シートを表示し、表の右側（K 列以降の領域）の六本木店の予算データを入力してください。

入力後のフォームは下図のような状態です。



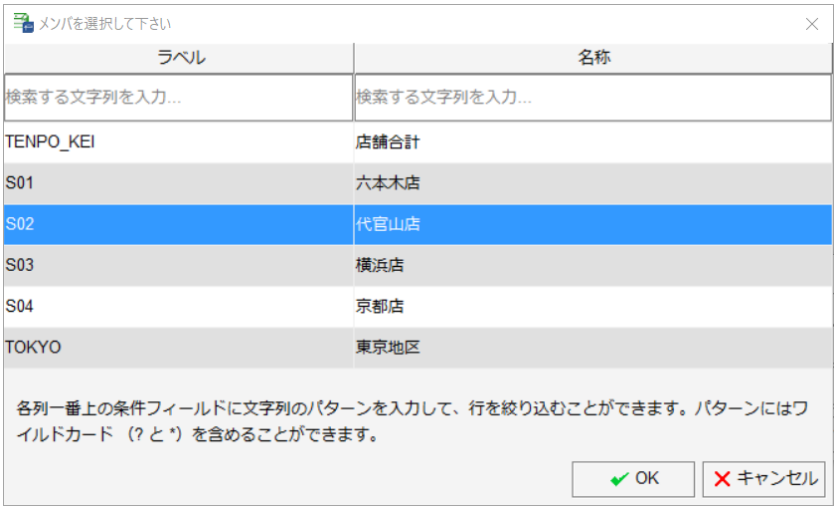
勘定科目	和食器	洋食器	グラスウェア
売上高	64,000	138,000	170,000
売上原価	46,500	103,000	120,000
売上総利益	17,500	35,000	50,000
人件費	8,500	18,500	22,500
賃借料	4,000	8,000	10,000
その他販売費	2,800	6,000	7,500
販売費	15,300	32,500	40,000
営業利益	2,200	2,500	10,000

データを入力しただけでは、fusion_place にデータは保存されません。データを保存するためには、画面右下にある保存(S)ボタンをクリックします。

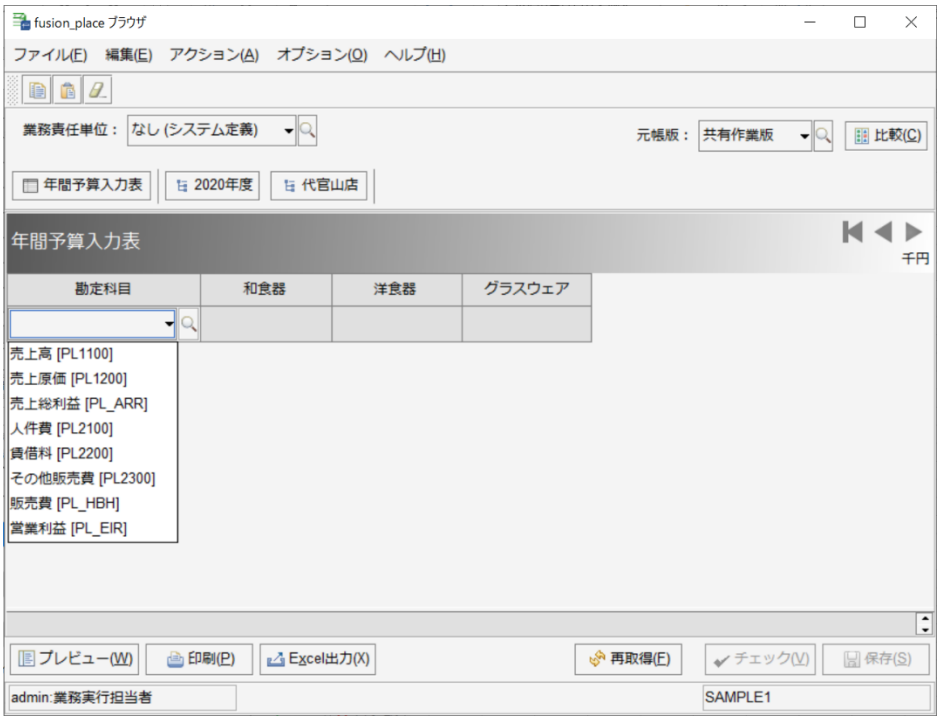
フォームではセルを編集するごとに集計メンバが動的に計算されます。

Step 5. 他店舗の予算データを入力する

他の店舗の予算データも入力してみましょう。画面左上にある店舗パラメータ（「六本木店」と表示されている箇所）をクリックしてください。「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されたら、代官山店を選択し、OK ボタンをクリックしてください。



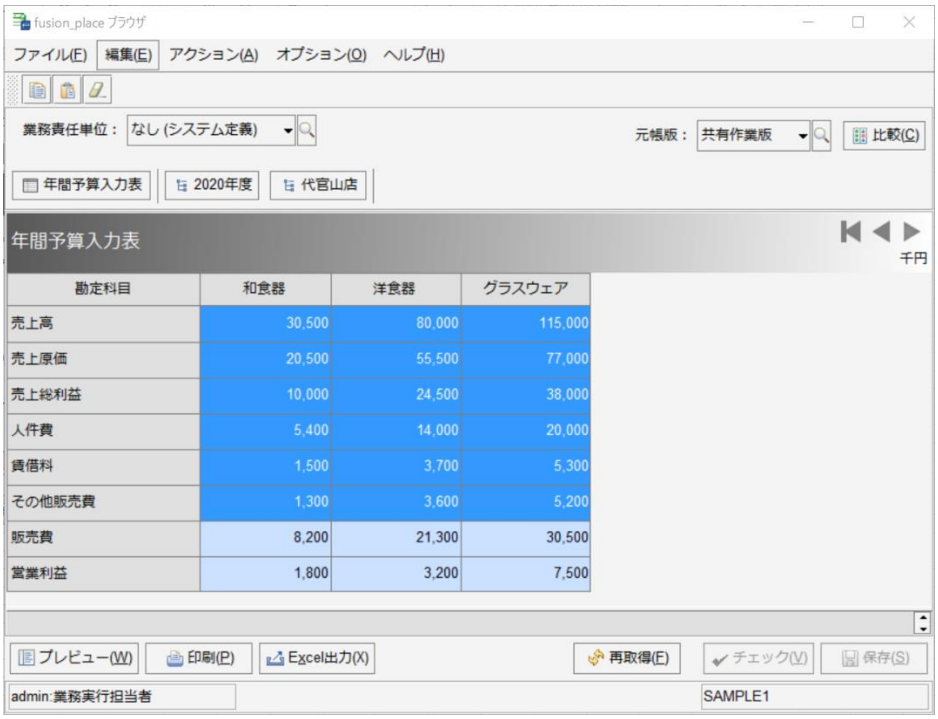
代官山店を選択すると、以下の画面が表示されます。Step4 の手順を参考にして代官山の予算データを入力します。



ささきほどの六本木店の入力では、ひとつひとつのセルに入力を行いましたが、Excel-Linkでの入力と同様に、複数セルにコピー&ペーストで入力することができます。

六本木店のときと同様に、すべての行を表示させ、売上高からその他販売費までのデータをコピーし、フォーム画面で貼り付け（ctrl+v）を行ってください。

貼り付け後の画面は以下の通りです。



※ 貼り付けする領域に集計行があっても構いません。

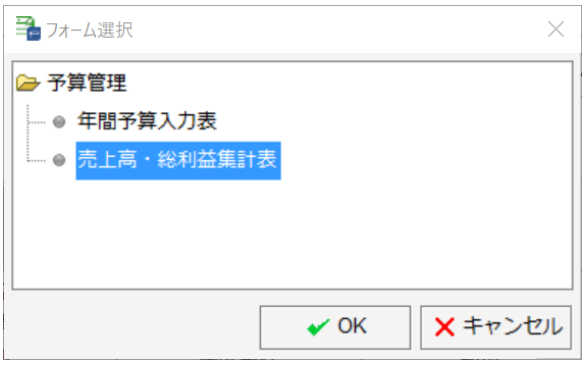
画面右下にある保存ボタン(S)をクリックします。

同様の手順で横浜店、京都店の予算も入力してください。

8.2　簡易版フォームで予実データを表示する

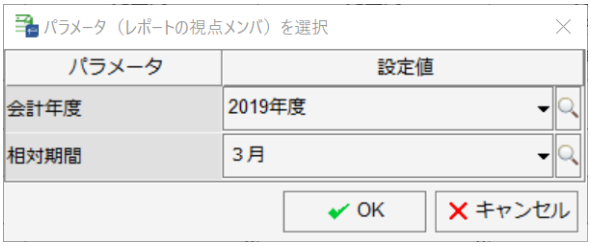
Excel-Link で確認した帳票「売上高・総利益集計表」をフォームで確認してみましょう。

画面左上にあるフォーム選択ボタンをクリックし、フォーム選択画面から「売上高・総利益集計表」を選択し OK ボタンをクリックします。

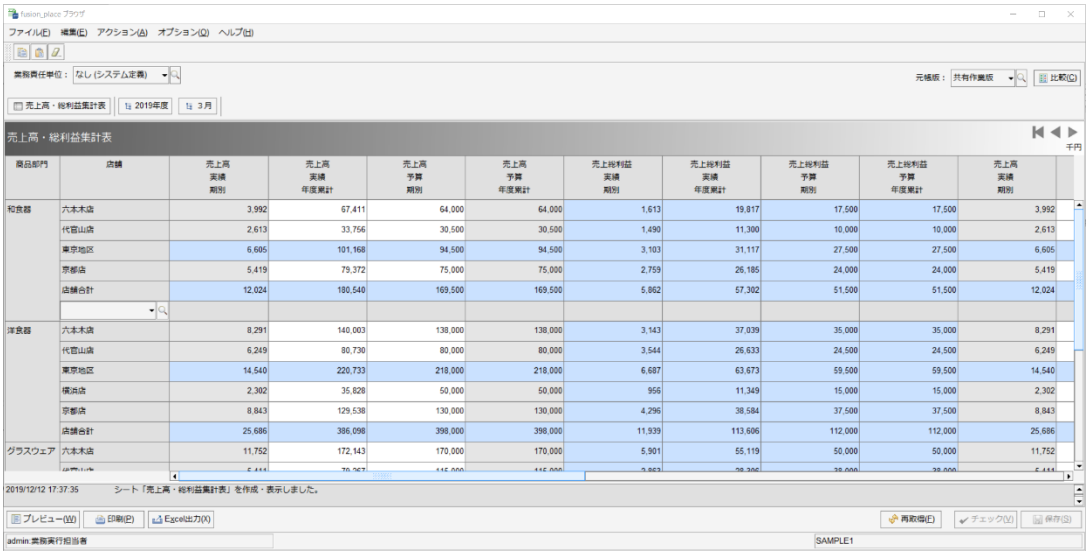


「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます。

「2019 年度」「３月」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。



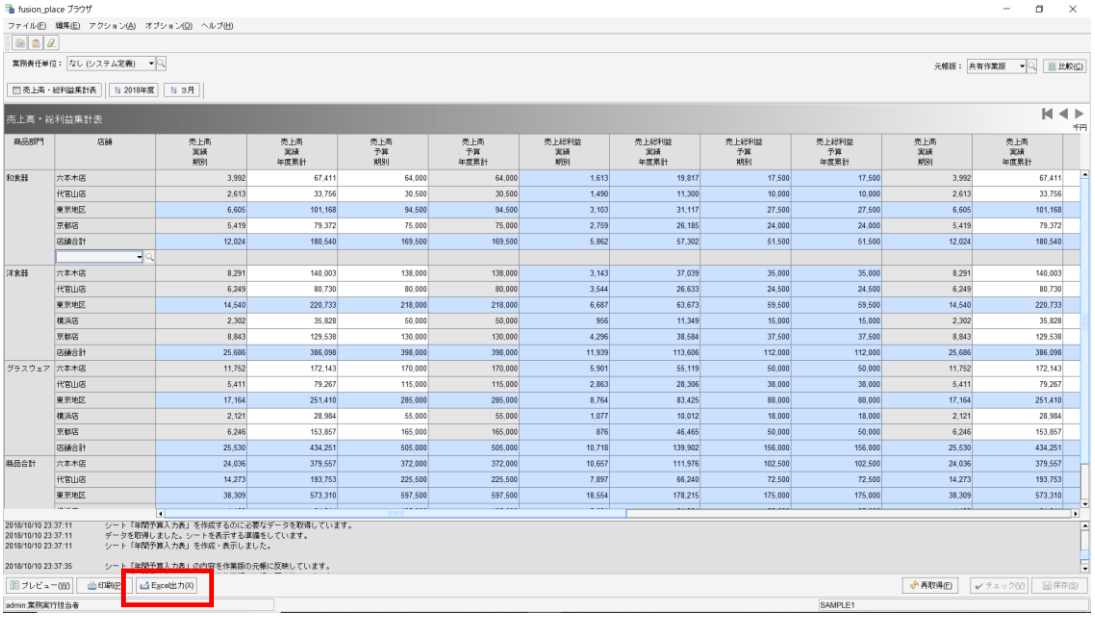
フォームが表示されます。



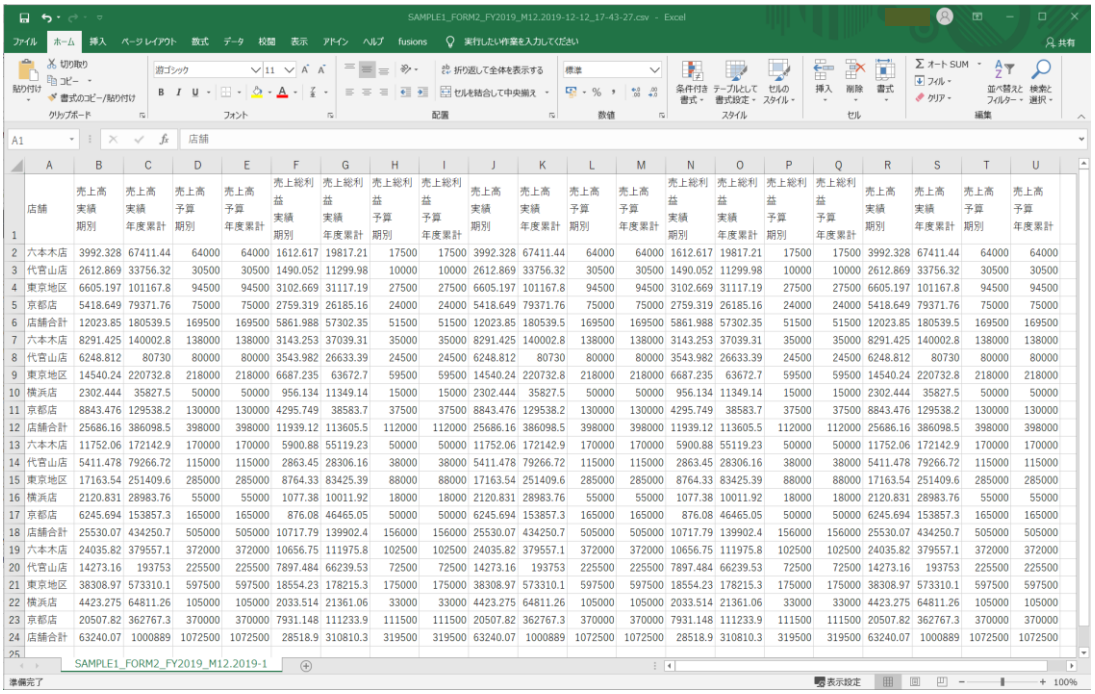
Excel-Link のフォームと同じようなレイアウトですが、standard で利用できる簡易版フォームでは、“予算列は年度累計だけを表示する”といったレイアウト調整や、比率の計算などはできません。

8.3 表示したフォームを Excel に出力する

さきほどのフォーム画面で画面左下にある「Excel 出力(X)」をクリックしてください。

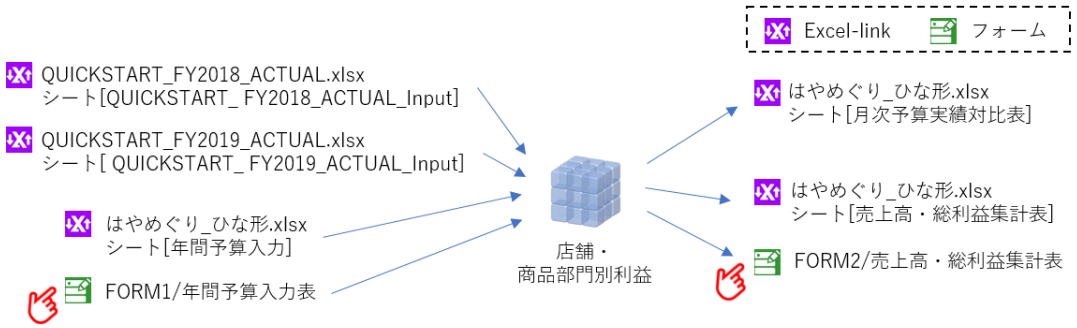


以下のようにフォームの表示内容が Excel ファイルに出力されます。



9　簡易版フォームを作成する

それではさきほど表示したフォームを実際に作成してみましょう。フォームを作成するためには、まずフォームリストを作成します。次にそのフォームリストの中にフォームを作成します。使用するアプリケーションのイメージは下図の通りです。



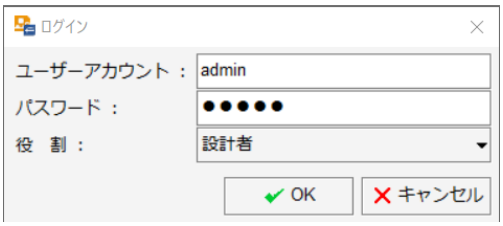
9.1　フォームリストを作成する

Step 1. fusion_place マネージャを起動する

コンピュータのデスクトップにある fusion_place ブラウザのアイコンをダブルクリックして fusion_place **マネージャ**を起動して下さい。

Step 2. fusion_place マネージャにログインする

「ログイン」画面が表示されますので、以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。



ユーザアカウント	パスワード	役割
admin	admin	「設計者」

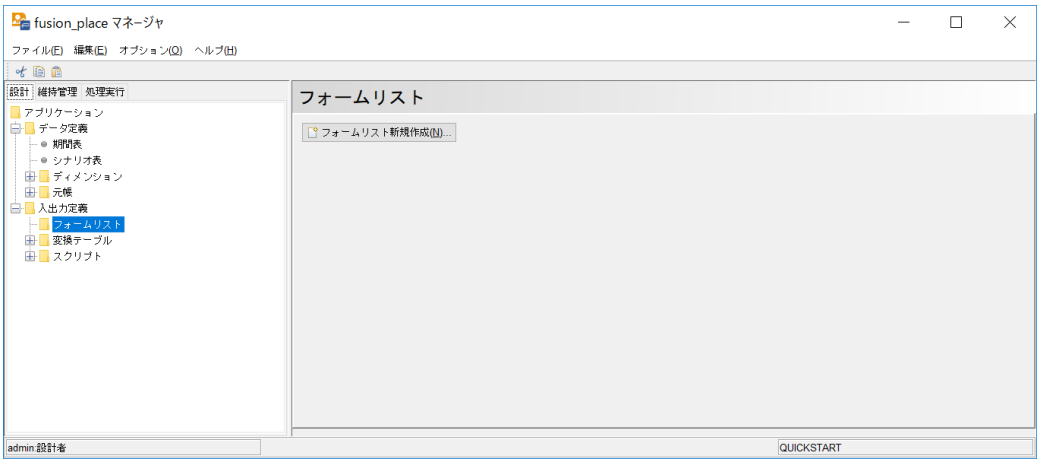
大文字と小文字が区別されます

＊fusion_place のセットアップ後、ユーザアカウントやパスワードを変更した場合には、上記に代えて、適切なユーザアカウントとパスワードを入力して下さい。

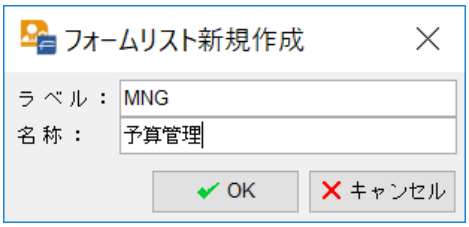
この後、「アプリケーション選択」画面が表示されます。「QUICKSTART」を選択して OK ボタンをクリックして下さい。

Step 3. フォームリストを作成する

fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの [アプリケーション]－[入出力定義]－[フォームリスト]をクリックしてフォームリスト画面を表示して下さい。

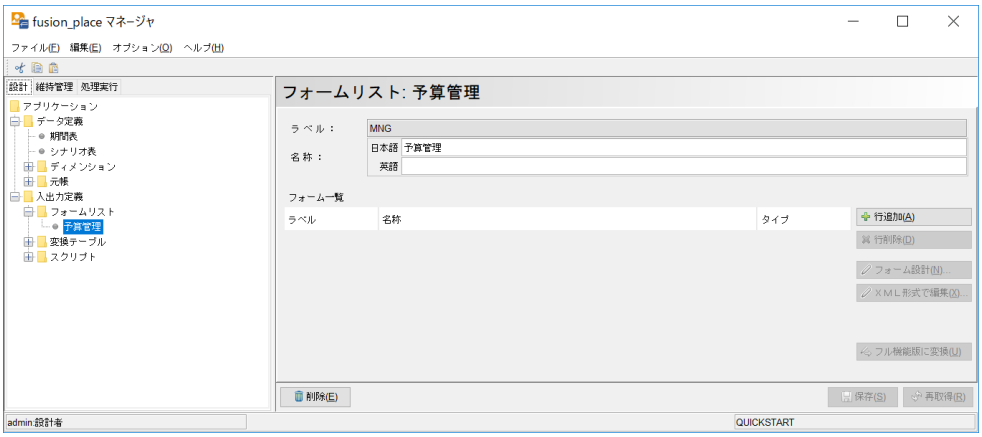


フォームリスト画面上の「フォームリスト新規作成(N)...」ボタンをクリックして下さい。「フォームリスト新規作成」画面が表示されます。以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。



ラベル	名称
MNG	予算管理

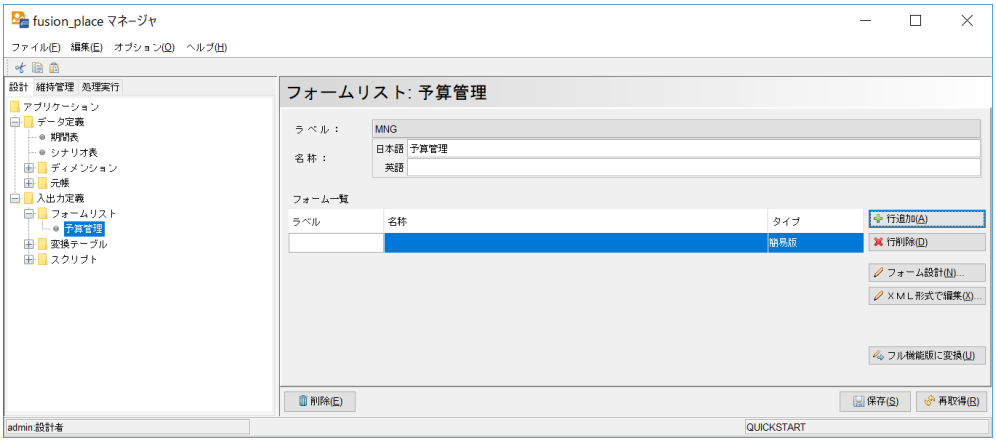
フォームリストが作成され、フォーム一覧画面が表示されます。



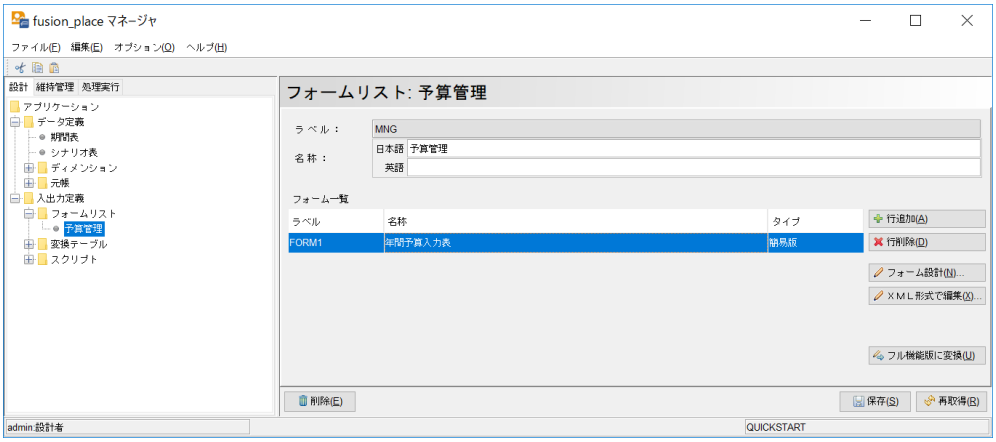
9.2 年間予算入力フォームを作成する

Step 1. フォームを作成する

画面右側にある[行追加 (A)]を選択すると、以下のように行が追加されます。



入力する項目をダブルクリックし、以下のように入力してください。



ラベル	名称
FORM1	年間予算入力表

Step 2. フォームを編集する

FORM1 を選択した状態で、画面右側にある[フォーム設計(N)...]を選択すると、以下のように「フォームデザイナ（簡易版フォーム用）」画面が表示されます。

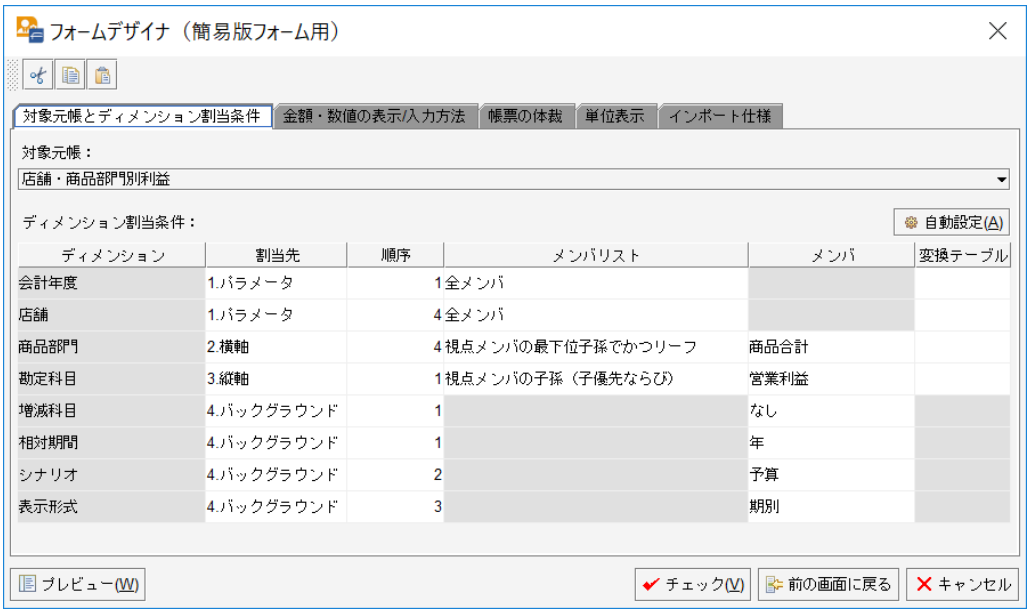
「対象元帳」欄で「店舗・商品部門別利益」を選択します。
ディメンション割当条件の欄に、「店舗・商品部門別利益」元帳に定義されているディメンションがすべて表示されます。

「自動設定」ボタンをクリックすると、初期提案値が設定されます。

次に、下記の通り設定を変更します。

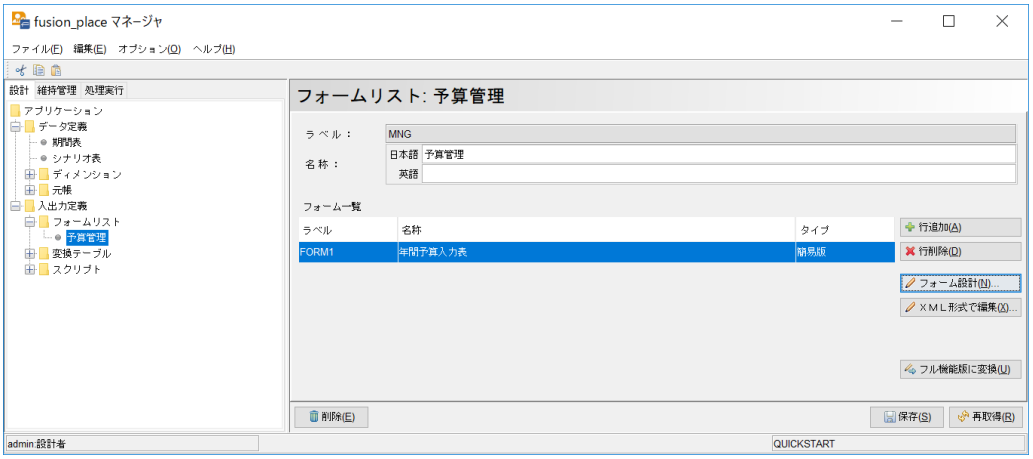
ディメンション	割当先	順序	メンバリスト	メンバ	変換テーブル
会計年度	1.パラメータ	1	全メンバ		
店舗	1.パラメータ	4	全メンバ		
商品部門	2.横軸	4	視点メンバの最下位子孫でかつリーフ	商品合計	
勘定科目	3.縦軸	1	視点メンバの子孫(子優先ならび)	営業利益	
増減科目	4.バックグラウンド	1		なし	
相対期間	4.バックグラウンド	1		年	
シナリオ	4.バックグラウンド	2		予算	
表示形式	4.バックグラウンド	3		期別	

(実際の設定画面)



※　「視点メンバの最下位子孫でかつリーフ」は、ドロップダウンリストの一番下にあります。スクロールして選択してください。

「前の画面に戻る」ボタンをクリックし、フォーム画面で「保存」ボタンをクリックします。



簡易版フォームでフォームを作成する場合は、元帳をひとつ選択し、その元帳を構成する全てのディメンションを、作成したい帳票のレイアウトに応じて下記①～④のいずれかに割り当てます。

①パラメータ：　フォーム全体に適用するディメンション。
フォーム表示時にメンバを切り替えることができます。

②横軸：　フォームの列に設定するディメンション。

③縦軸：　フォームの行に設定するディメンション。

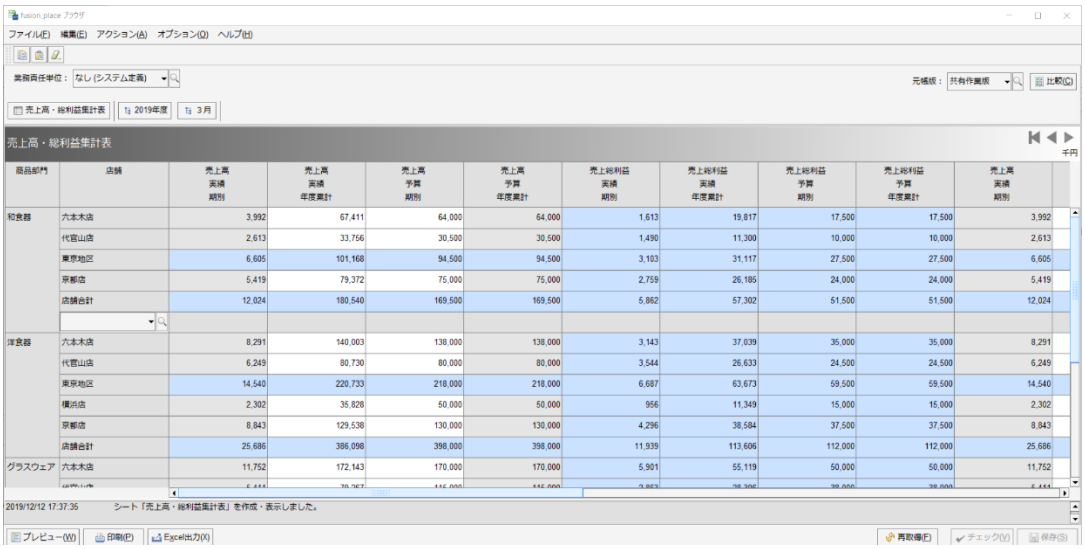
④バックグラウンド：フォーム全体に適用するディメンション。パラメータと異なりフォーム表示時に切り替える必要がない場合、バックグラウンドにディメンションとメンバを指定します。

Step 3. フォームを表示する

8 章の手順を参考にして作成したフォームをブラウザで確認してください。アプリケーションは「サンプルアプリケーション（SAMPLE1）」から「はやめぐり（QUICKSTART）」に切り替える必要があります。

9.3　売上高・総利益集計表フォームを作成する

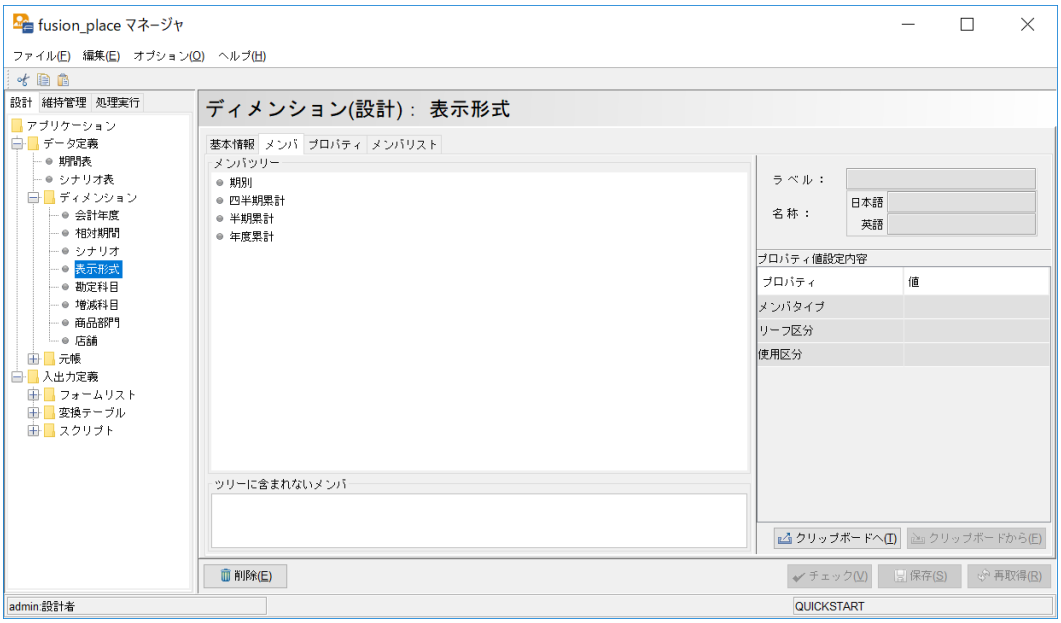
売上高・総利益集計表は以下のようなレイアウトで作成します。横軸は売上高と売上総利益の実績と予算を期別値と年度累計値で表示します。



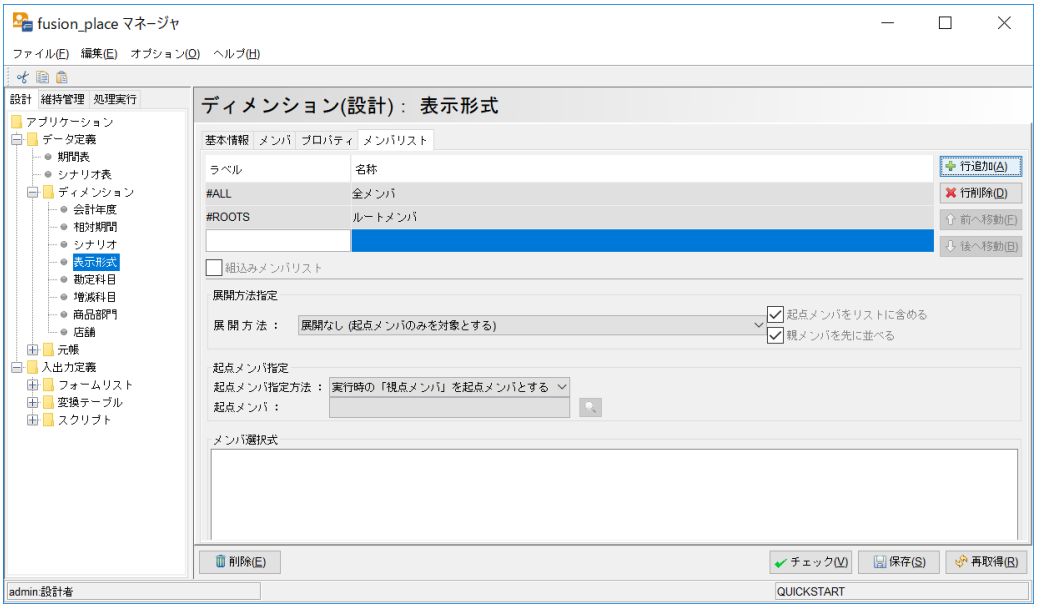
メンバリストを使うと上記のように横軸（または縦軸）にメンバを限定して配置することができます。以下の手順に沿って、メンバリストを作成してからフォームを作成してください。

Step 1. メンバリスト（表示形式）を作成する

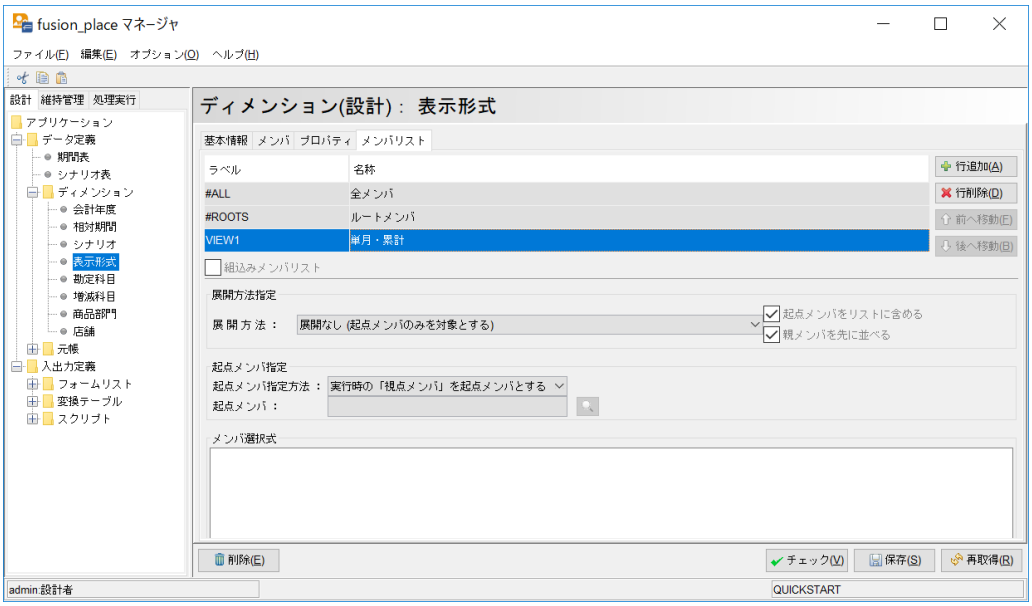
fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの［アプリケーション］－［データ定義］－［ディメンション］－［表示形式］をクリックして「ディメンション（設計）：表示形式」画面を表示して下さい。



メンバリストタブを選択し、画面右側にある[行追加（A)]を選択すると、以下のように行が追加されます。

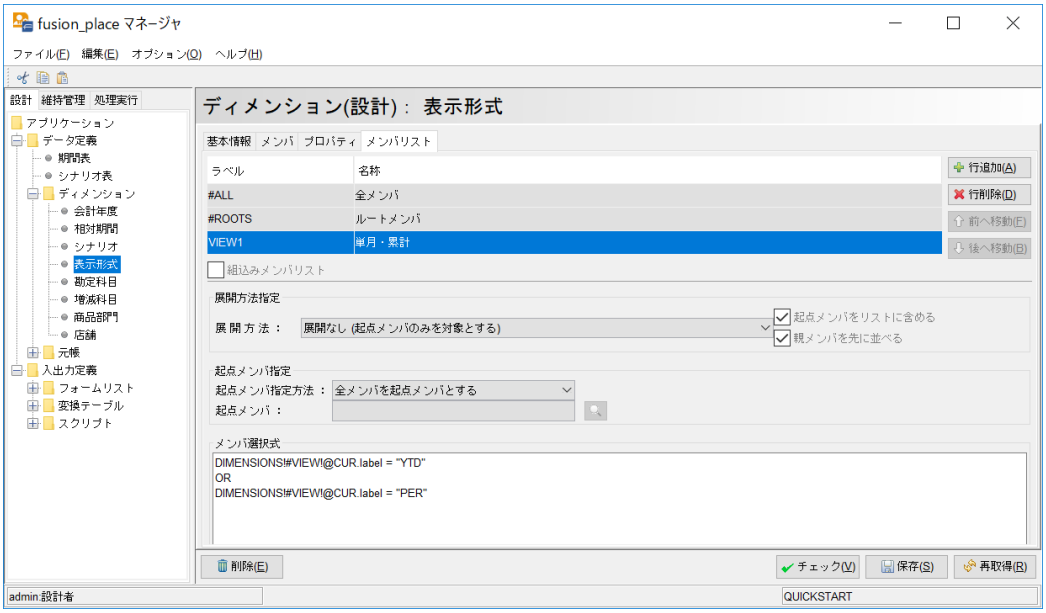


以下のように入力してください。



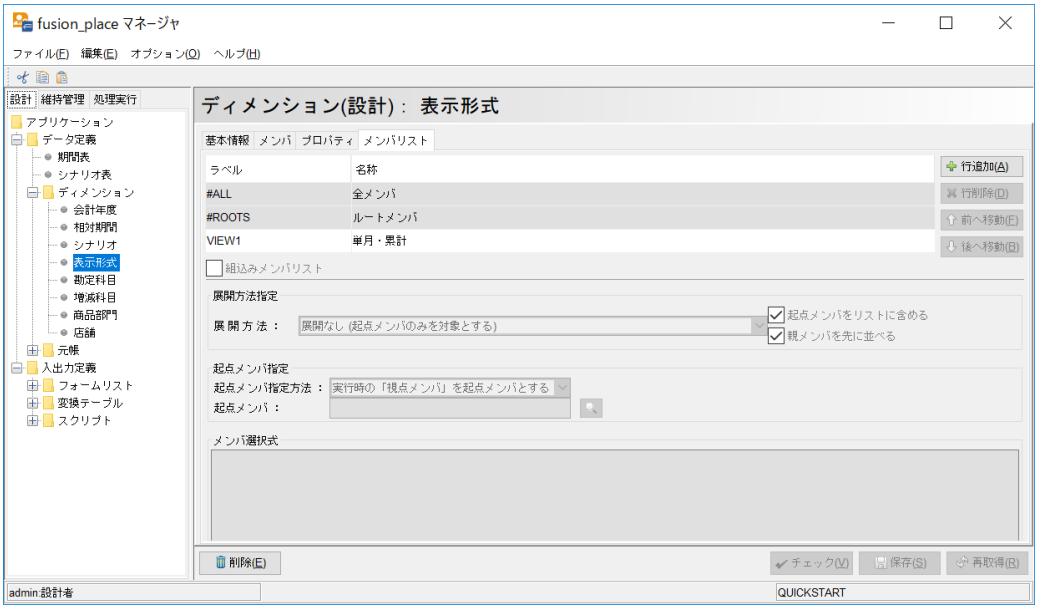
ラベル	名称
VIEW1	単月・累計

起点メンバ指定方法、メンバ選択式にそれぞれ以下のように入力してください。



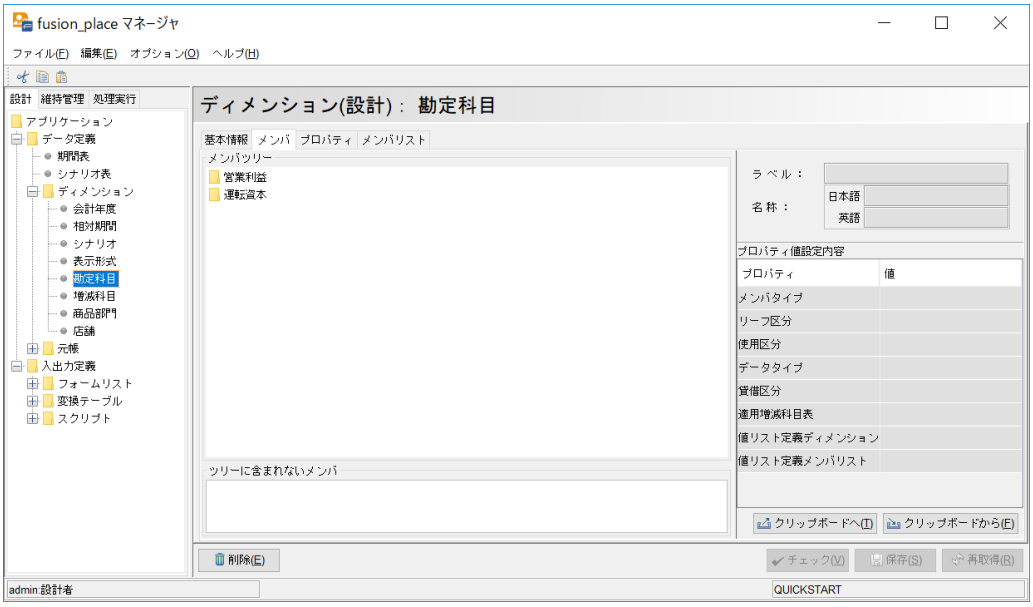
展開方法：	展開なし（起点メンバのみを対象とする）　※初期提案値のまま ☑起点メンバをリストに含める ☑親メンバを先に並べる
起点メンバ指定方法：	全メンバを起点メンバとする
起点メンバ：	–
メンバ選択式	DIMENSIONS!#VIEW!@CUR.label = ″YTD″ OR DIMENSIONS!#VIEW!@CUR.label = ″PER″

画面右下の「保存」ボタンをクリックします。

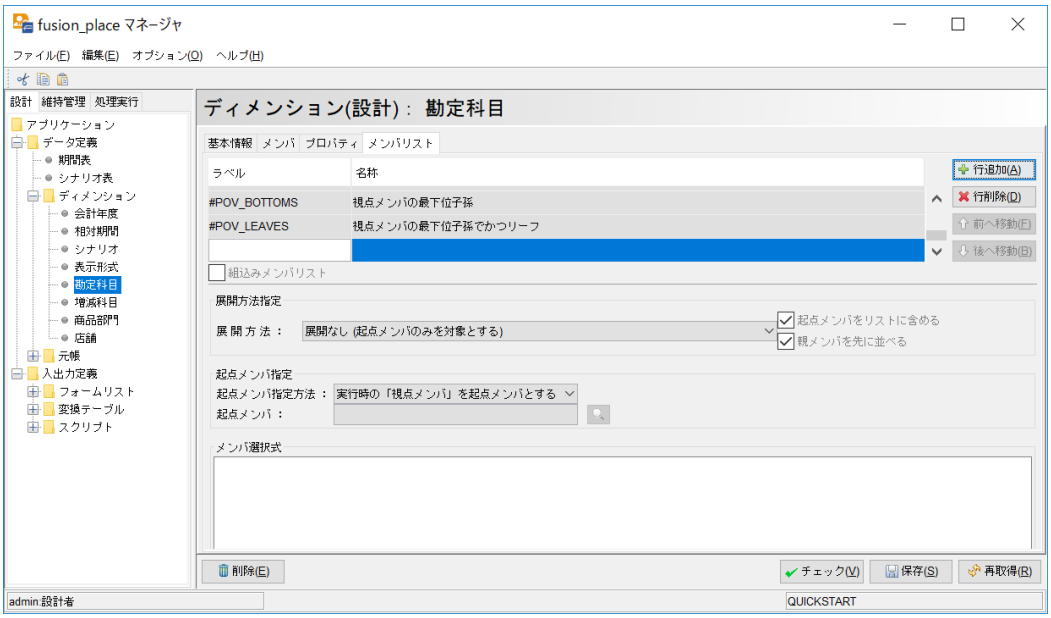


Step 2. メンバリスト（勘定科目）を作成する

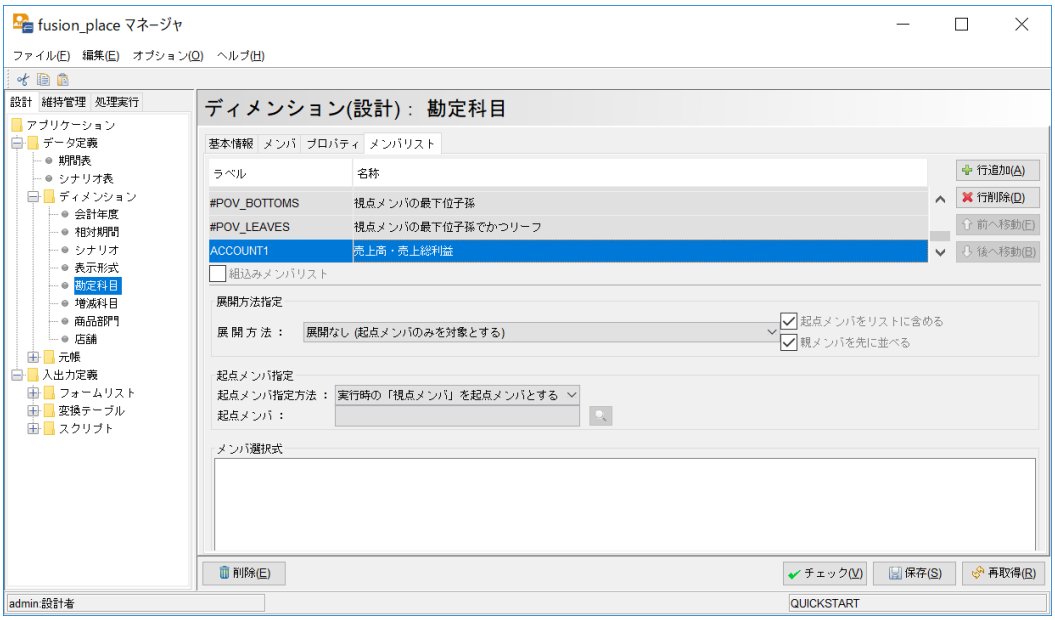
fusion_place マネージャの画面左側部分、「設計」タブの［アプリケーション］－［データ定義］－［ディメンション］ －［勘定科目］をクリックして「ディメンション（設計）：勘定科目」画面を表示して下さい。



メンバリストタブを選択し、画面右側にある[行追加（A)]を選択すると、以下のように行が追加されます。

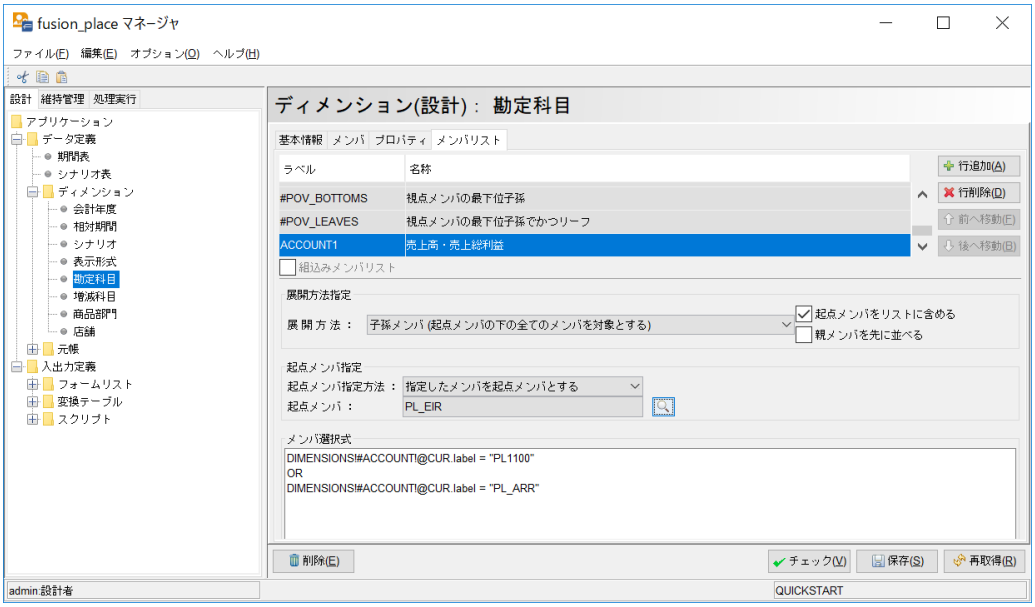


以下のように入力してください。



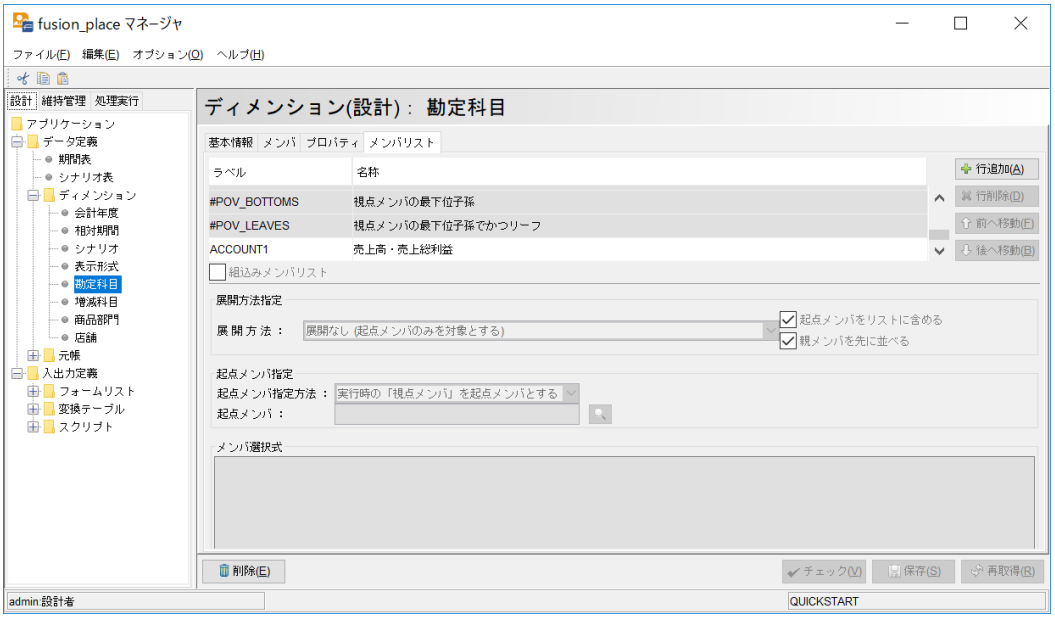
ラベル	名称
ACCOUNT1	売上高･売上総利益

起点メンバ指定方法、メンバ選択式にそれぞれ以下のように入力してください。



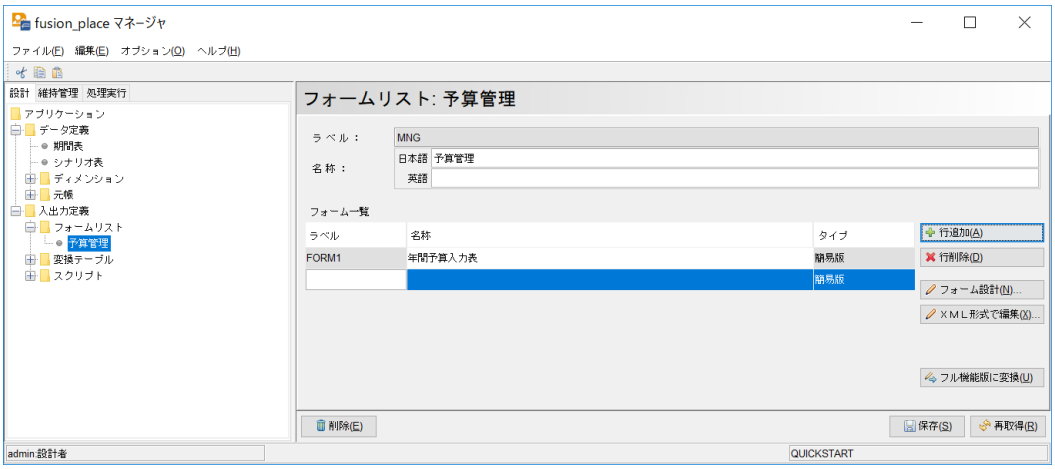
展開方法：	子孫メンバ（起点メンバの下の全てのメンバを対象とする） ☑起点メンバをリストに含める ☐親メンバを先に並べる
起点メンバ指定方法：	指定したメンバを起点メンバとする
起点メンバ：	PL_EIR
メンバ選択式	DIMENSIONS!#ACCOUNT!@CUR.label = ″PL1100″ OR DIMENSIONS!#ACCOUNT!@CUR.label = ″PL_ARR″

画面右下の「保存」ボタンをクリックします。

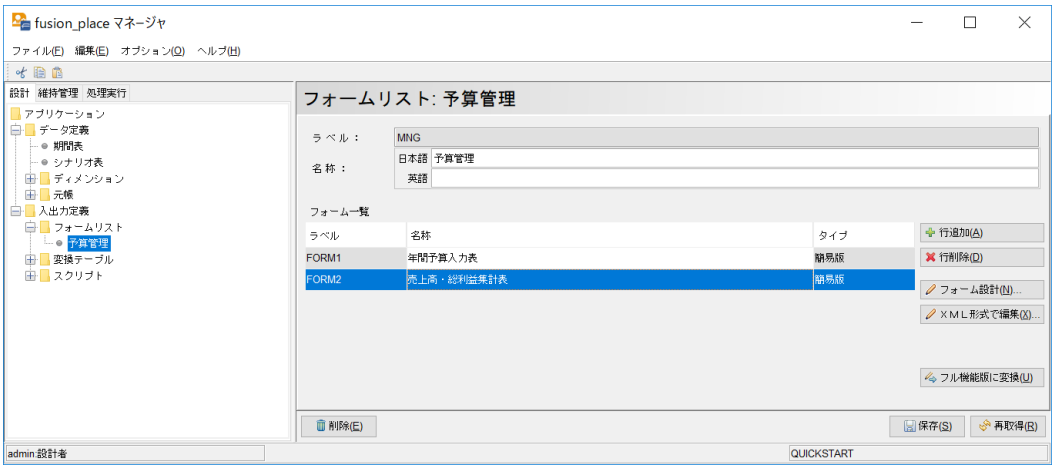


Step 3. フォームを作成する

続いて、売上高・総利益集計表を作成します。フォームリスト「予算管理」を選択し、画面右側にある[行追加 (A)]を選択すると、以下のように行が追加されます。



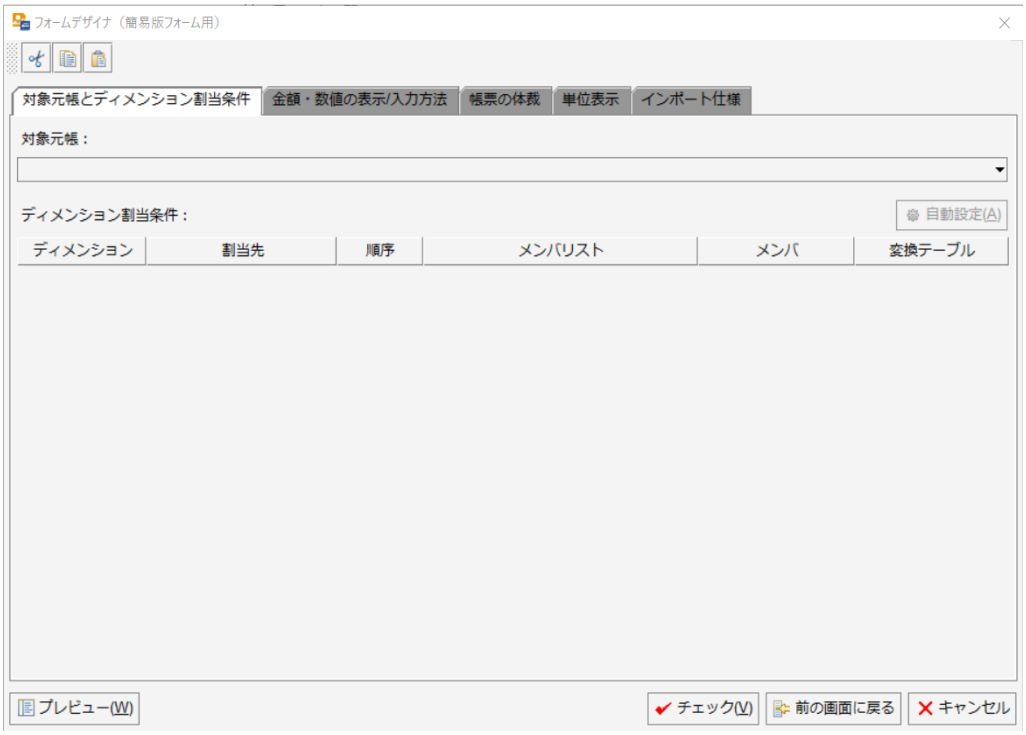
以下のように入力してください。



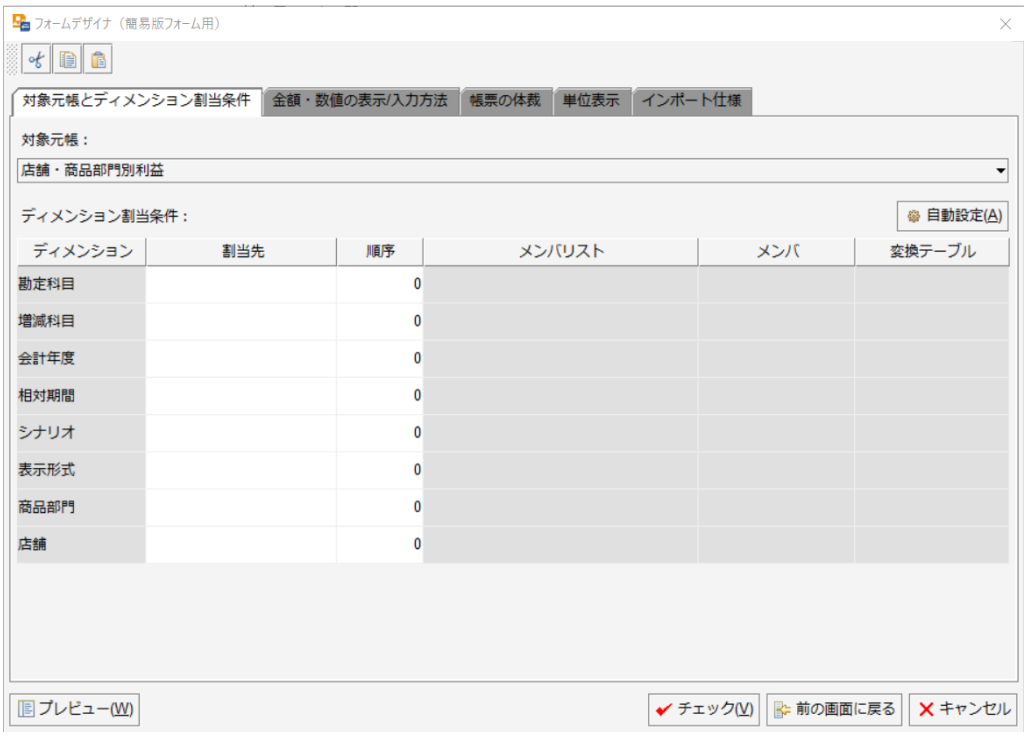
ラベル	名称
FORM2	売上高･総利益集計表

Step 4. フォームを編集する

FORM2 を選択した状態で、画面右側にある[フォーム設計(N)...]を選択すると、以下のようにフォームデザイナ（簡易版フォーム用）画面が表示されます。



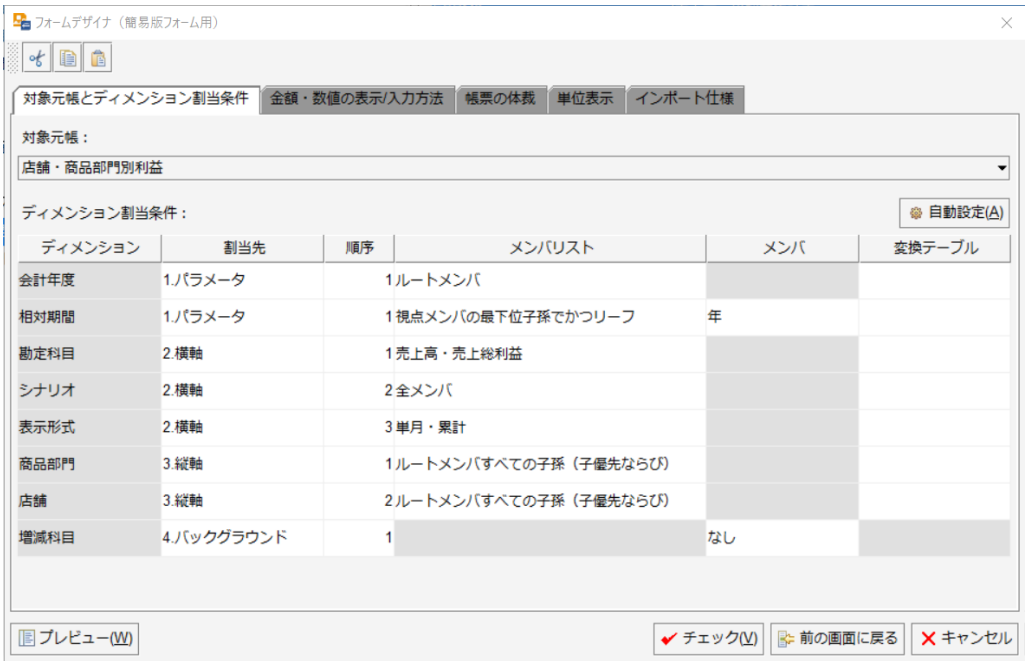
「対象元帳」欄で「店舗・商品部門別利益」を選択します。
ディメンション割当条件の欄に、「店舗・商品部門別利益」元帳に定義されたディメンションがすべて表示されます。



「自動設定」ボタンをクリックすると、初期提案値が設定されます。
次に、下記の通り設定を変更します。

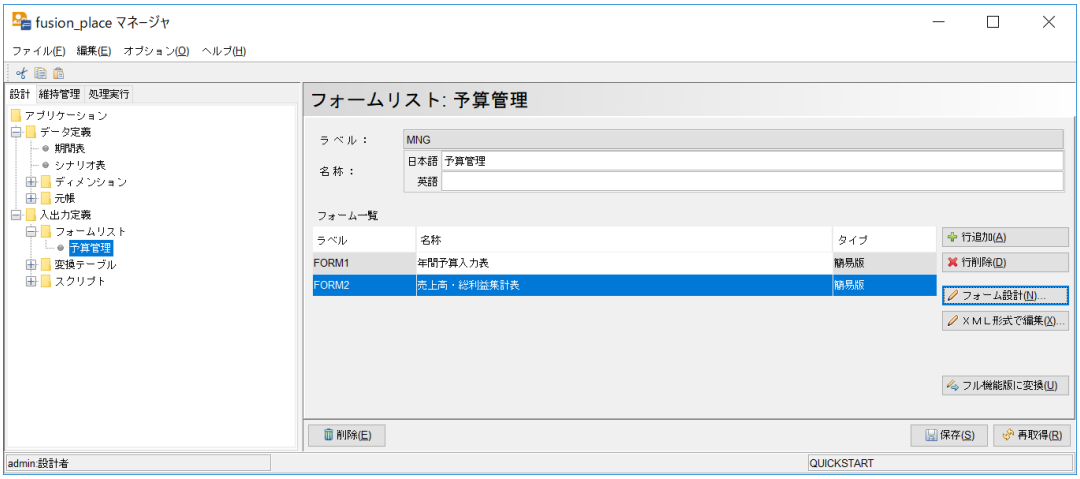
ディメンション	割当先	順序	メンバリスト	メンバ	変換テーブル
会計年度	1.パラメータ	1	ルートメンバ		
相対期間	1.パラメータ	1	視点メンバの最下位子孫でかつリーフ	年	
勘定科目	2.横軸	1	売上高・売上総利益		
シナリオ	2.横軸	2	全メンバ		
表示形式	2.横軸	3	単月・累計		
商品部門	3.縦軸	1	ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）		
店舗	3.縦軸	2	ルートメンバすべての子孫（子優先ならび）		
増減科目	4.バックグランド	1		なし	

（実際の設定画面）



※　「割当先」と「順序」の設定により、行の並び順が変わります。

「前の画面に戻る」ボタンをクリックします。フォーム画面で「保存」ボタンをクリックします。



Step 5. フォームを表示する

8 章の手順を参考にして作成したフォームをブラウザで確認してください。アプリケーションは「サンプルアプリケーション（SAMPLE1）」から「はやめぐり（QUICKSTART）」に切り替える必要があります。

簡易版フォームのさらなる活用

ここまでの実習で簡易版フォームの基本的な機能をご理解頂けたと思います。
簡易版フォームには、これまでご紹介した画面によるデータ入出力の他に、データインポート、データエクスポート機能があります。

詳しくはユーザマニュアルの以下の項目をご覧ください：

「操作の手引き」－「02.ブラウザ」－「09.データをインポート/エクスポートする」

10　fusion_place をさらにご活用いただくために

「はやめぐり」を終えて、fusion_place を皆さまの業務に具体的にどのように適用できるか、イメージをお持ちになって頂けたでしょうか。

fusion_place には、このチュートリアルではご説明を割愛した様々な機能があります。そうした機能に親しんで頂くために、ユーザマニュアル（オンラインヘルプ）をご活用下さい。

主だったものについて、参照頂きたいユーザマニュアルのトピックを併せて示します。

非数値データの保持

元帳には、数値データ以外に、文字列、論理値、列挙値を保持することができます。

⇒「fusion_place のしくみ」－「08.元帳」－「03.【設・管】元帳セルのデータタイプ」

⇒「fusion_place のしくみ」－「08.元帳」－「06.【設・管】注記元帳」

Excel-Link によるメンバ名等の取得

Excel-Link では、元帳に含まれるデータ値だけではなく、ディメンションメンバの名称やプロパティ値も取得することができます。

⇒「fusion_place のしくみ」－「15.Excel-Link」－「02. リンク機能の詳細」

Excel-Link でのテンプレート処理（繰返し処理）

当資料でご紹介した Excel-Link シートは行数が固定されていましたが、メンバごとあるいはメンバの組合せごとに処理を繰返すことで、行数可変のシートを作成することもできます。処理結果を元帳に反映することも可能です。

⇒「fusion_place のしくみ」－「15.Excel-Link」－「03. テンプレート処理機能の詳細」

「はやめぐり」のチュートリアルと同じ圧縮ファイルにある「TEMPLATE.xlsx」はテンプレート処理のサンプルです。各シートで、「データ取得」を実行することで機能を確認できます。

マクロからの Excel-Link 使用

Excel-Link のデータ取得処理やデータ反映処理をマクロから実行することができます。これを利用すれば複数シート一括でデータ取得を行うことなども出来ます。

⇒「操作の手引き」－「04.Excel-Link」－「13.Excel-Link の機能をマクロから使う」

版別のデータ管理

データを「共有作業版」上で加工し、確定したら「公開版」に移す、という運用が可能です。共有作業版の内容をクリアすれば直前の公開時の内容に戻りますので、バックアップ取得の目的でご利用頂けます。

⇒「fusion_place のしくみ」－「08.元帳」－「07.【設・管】元帳データの版管理」

さらには、共有作業版と公開版に加えて、任意の版を設けることができます。予算編成作業の任意の時点でスナップショットを保管しておき、差異を把握するといった使い方が可能です。

⇒「fusion_place のしくみ」－「08.元帳」－「07.【設・管】元帳データの版管理」

元帳のオープン／クローズ機能

データ入力を許す期間をシナリオごとに設定することができます。

⇒ 「fusion_place のしくみ」－「09.元帳アクセスコントロール」－「05.【設・管】元帳のオープン／クローズ」

履歴管理機能

fusion_place はマスタ変更履歴と元帳更新履歴を保持しています。履歴には、誰が、いつ、どのような変更をマスタと元帳データに加えたのか記録されています。

⇒ 「操作の手引き」－「01.マネージャ」－「13.履歴の照会と管理」

11　より高度な機能のご紹介

fusion_place premium, cloud で提供される機能をご紹介いたします。

高度なデータインポート機能

インポートするファイルのフィールドにディメンションと異なる項目がある場合や、金額項目が横並び（月別の情報を横並びで保持）といったファイルも取り込むことができ、データインポートの機能性が向上します。

⇒「操作の手引き」－「02.ブラウザ」－「09.データをインポート/エクスポートする」

インポート時のコード変換

データインポートに際して、簡易版フォームではできない、フィールドを結合あるいは分解するといった複雑な処理を行うことができ、それに多段階のコード変換を組み合わせることができます。

⇒「fusion_place のしくみ」－「10.フォーム」－「04.フル機能版フォーム」

「フル機能版フォーム」による画面・帳票の作成

フル機能版「フォームエディタ」という画面・帳票設計ツールを用いて、ドリルダウンなど洗練された機能を提供する画面・帳票を作成することができます。

⇒「fusion_place のしくみ」－「10.フォーム」－「04.フル機能版フォーム」

元帳アクセスコントロール機能

各ユーザの元帳セルへのアクセス権限を、一律に、あるいは、ユーザの所属する部門や担当職務に応じて動的に設定することができます(エンタープライズタイプのアプリケーション固有の機能です）。

⇒「fusion_place のしくみ」－「09.元帳アクセスコントロール」

ワークフロー管理機能

予算編成などの一連の作業を業務プロセスとして定義し、フォームや Excel-Link によるデータの提出、承認等のワークフローを設定し運用することが可能です（ワークフロータイプアプリケーション固有の機能です）。

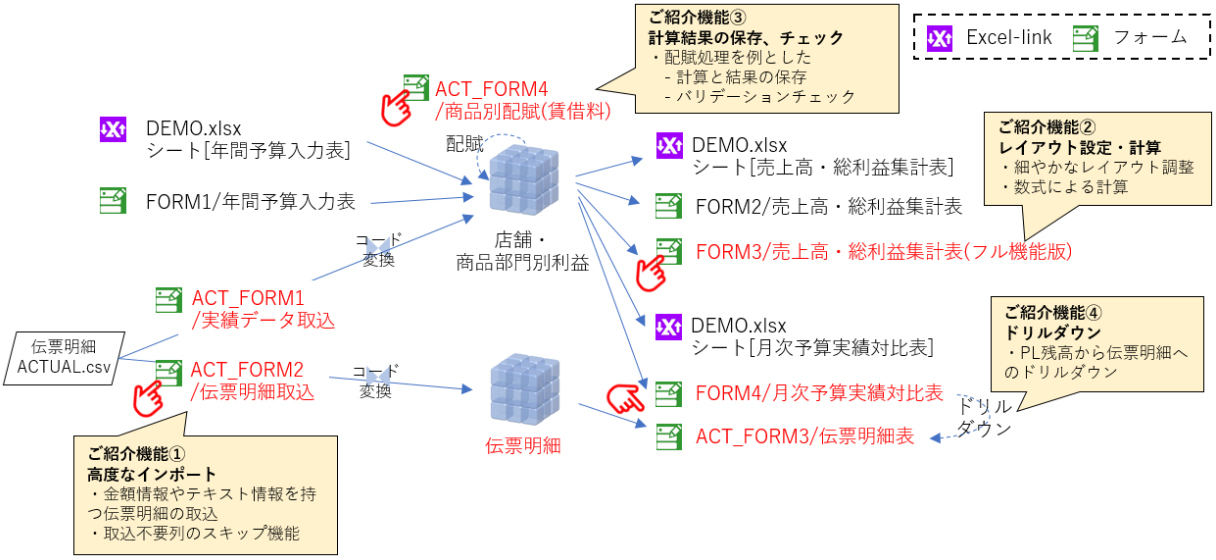
⇒「fusion_place のしくみ」－「16.業務プロセス（ワークフロー）」

Copyright © 2019- fusions corporation

デモアプリケーションのご紹介

高度な機能のいくつかを体験できるデモアプリ「DEMO」をご用意しました。

＜アプリケーション構成とご紹介する機能＞



※赤字は QUICKSTART アプリケーションに追加した機能を表しています

それでは以下に沿って操作して頂きご確認ください。

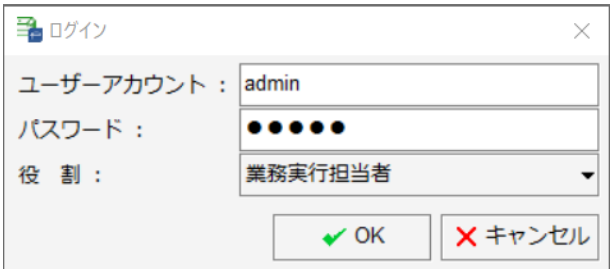
11.1　事前準備

Step 1. fusion_place ブラウザを起動する

コンピュータのデスクトップにある fusion_place ブラウザのアイコン をダブルクリックして fusion_place **ブラウザ**を起動して下さい。

Step 2. fusion_place ブラウザにログインする

「ログイン」画面が表示されますので、以下のように入力して OK ボタンをクリックして下さい。

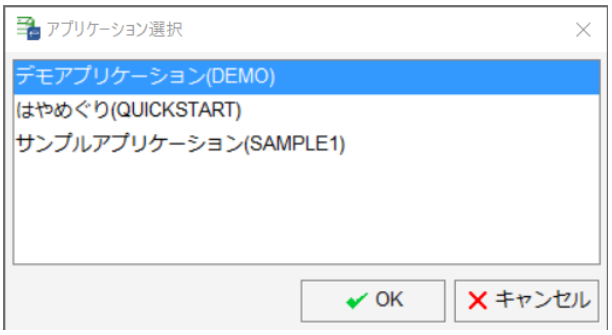


ユーザアカウント	パスワード	役割
admin	admin	「業務実行担当者」

大文字と小文字が区別されます

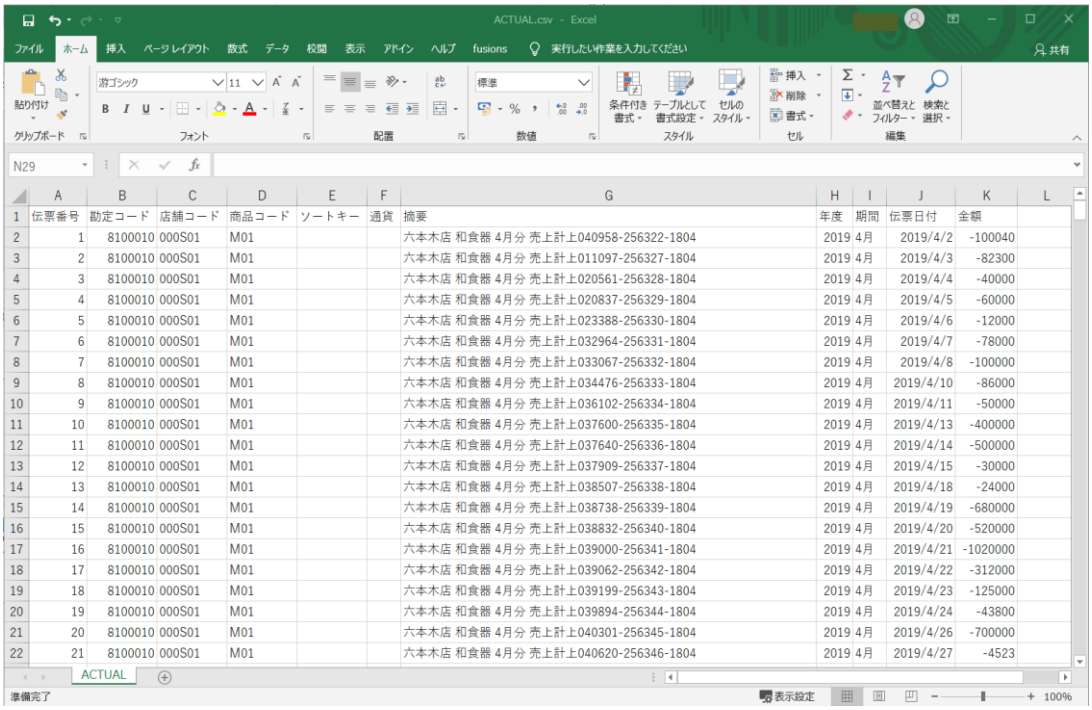
＊fusion_place のセットアップ後、ユーザアカウントやパスワードを変更した場合には、上記に代えて、適切なユーザアカウントとパスワードを入力して下さい。

この後、「アプリケーション選択」画面が表示されます。「DEMO」を選択して OK ボタンをクリックして下さい。



11.2　ご紹介機能① 高度なインポート

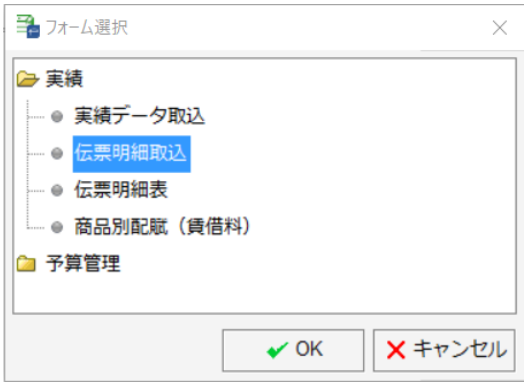
会計システムから出力された以下の CSV ファイルを伝票明細元帳へ取り込んでみましょう。



伝票番号	勘定コード	店舗コード	商品コード	ソートキー	通貨	摘要	年度	期間	伝票日付	金額
1	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上040958-256322-1804	2019	4月	2019/4/2	-100040
2	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上011097-256327-1804	2019	4月	2019/4/3	-82300
3	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上020561-256328-1804	2019	4月	2019/4/4	-40000
4	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上020837-256329-1804	2019	4月	2019/4/5	-60000
5	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上023388-256330-1804	2019	4月	2019/4/6	-12000
6	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上032964-256331-1804	2019	4月	2019/4/7	-78000
7	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上033067-256332-1804	2019	4月	2019/4/8	-100000
8	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上034476-256333-1804	2019	4月	2019/4/10	-86000
9	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上036102-256334-1804	2019	4月	2019/4/11	-50000
10	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上037600-256335-1804	2019	4月	2019/4/13	-400000
11	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上037640-256336-1804	2019	4月	2019/4/14	-500000
12	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上037909-256337-1804	2019	4月	2019/4/15	-30000
13	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上038507-256338-1804	2019	4月	2019/4/18	-24000
14	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上038738-256339-1804	2019	4月	2019/4/19	-680000
15	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上038832-256340-1804	2019	4月	2019/4/20	-520000
16	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上039000-256341-1804	2019	4月	2019/4/21	-1020000
17	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上039062-256342-1804	2019	4月	2019/4/22	-312000
18	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上039199-256343-1804	2019	4月	2019/4/23	-125000
19	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上039894-256344-1804	2019	4月	2019/4/24	-43800
20	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上040301-256345-1804	2019	4月	2019/4/26	-700000
21	8100010	000S01	M01			六本木店 和食器 4月分 売上計上040620-256346-1804	2019	4月	2019/4/27	-4523

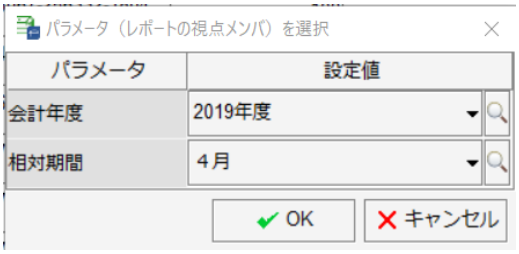
Step 1. フォームを選択する

ブラウザを起動後、フォーム選択画面が表示されたら、フォームリスト「実績」中の「伝票明細取込」を選択して OK ボタンをクリックします。



この後、「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます。

「2019 年度」「４月」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。



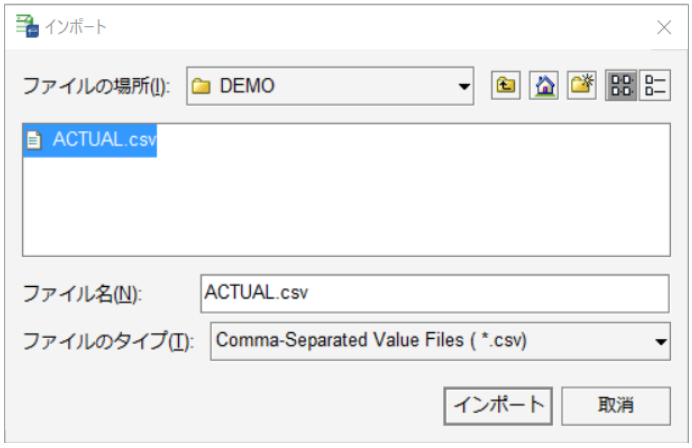
このフォームには、fusion_place premium, cloud の機能を使い、あらかじめ以下のインポート設定がしてあります。standard では、インポートの設定はできませんが、実行はできます。

- 取り込みに不要な列をスキップ（取込時に「ソートキー」「通貨」列を除外）
- フィールドの分解（店舗コード 000S01 から S01 を取り出す）

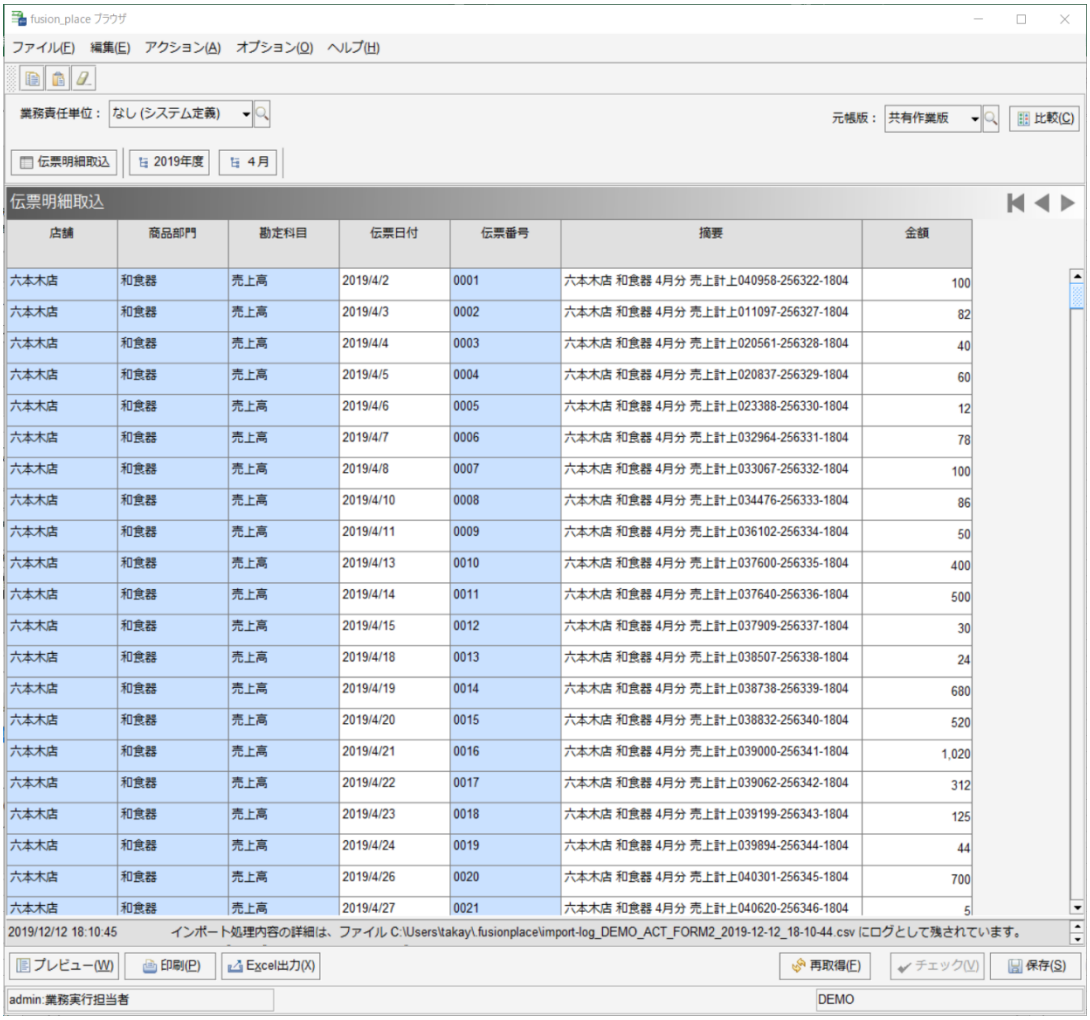
Step 2. フォームをインポートする

「アクション」→「インポート(I)...」をクリックします。

この「はやめぐり」チュートリアルと同じフォルダ内の「DEMO」フォルダの「ACTUAL.CSV」ファイルを選択し、「インポート」をクリックしてください。



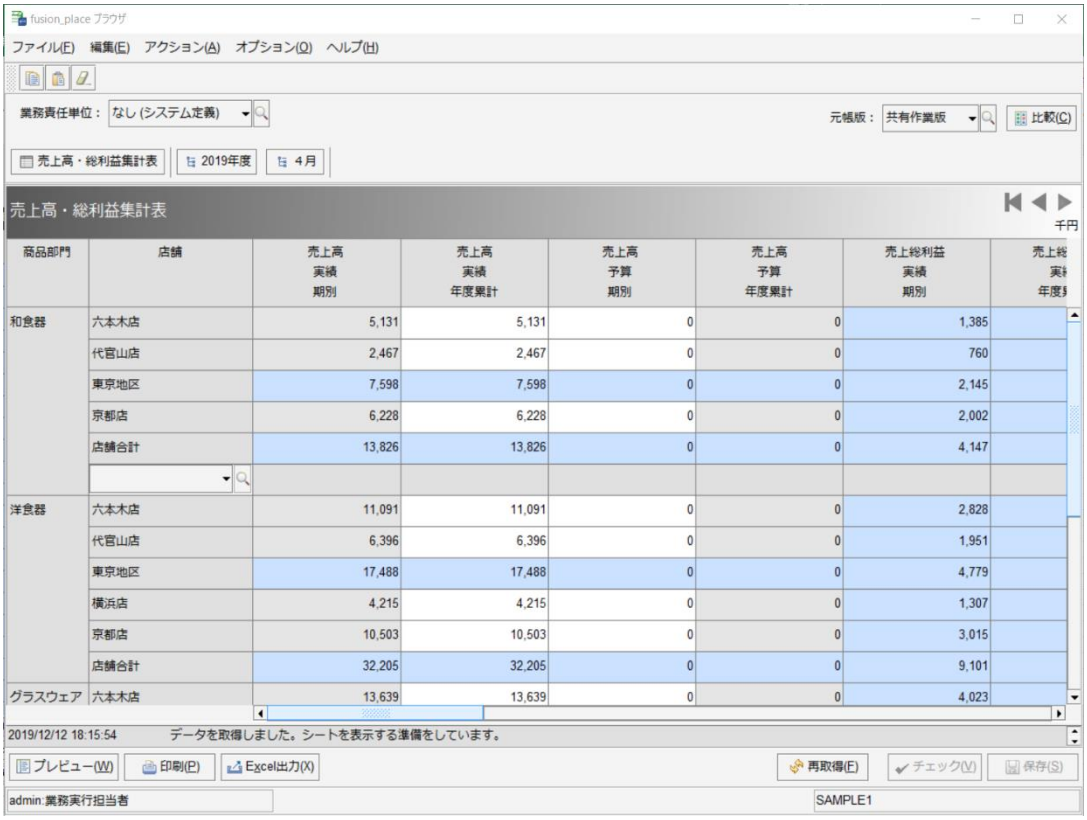
データがインポートされますので、「保存」ボタンを押してください。



11.3　ご紹介機能② レイアウト設定

8.2 でお試し頂いた簡易版フォーム「売上高・総利益集計表」では下図のように、予算列のみ累計値を表示する、といったレイアウト調整、前年対比、予算比などの比率の計算ができませんでした。

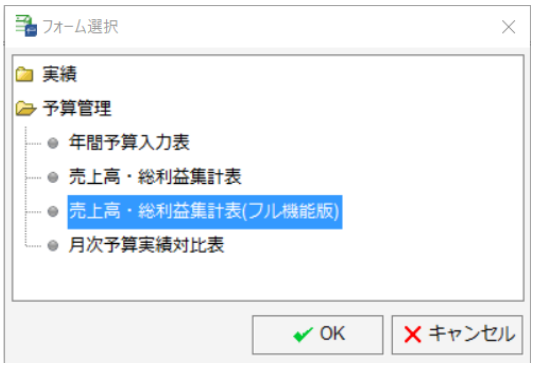
フル機能版フォームでは細かなレイアウト調整、計算等が可能です。



商品部門	店舗	売上高 実績 期別	売上高 実績 年度累計	売上高 予算 期別	売上高 予算 年度累計	売上総利益 実績 期別	売上総 実 年度
和食器	六本木店	5,131	5,131	0	0	1,385	
	代官山店	2,467	2,467	0	0	760	
	東京地区	7,598	7,598	0	0	2,145	
	京都店	6,228	6,228	0	0	2,002	
	店舗合計	13,826	13,826	0	0	4,147	
洋食器	六本木店	11,091	11,091	0	0	2,828	
	代官山店	6,396	6,396	0	0	1,951	
	東京地区	17,488	17,488	0	0	4,779	
	横浜店	4,215	4,215	0	0	1,307	
	京都店	10,503	10,503	0	0	3,015	
	店舗合計	32,205	32,205	0	0	9,101	
グラスウェア	六本木店	13,639	13,639	0	0	4,023	

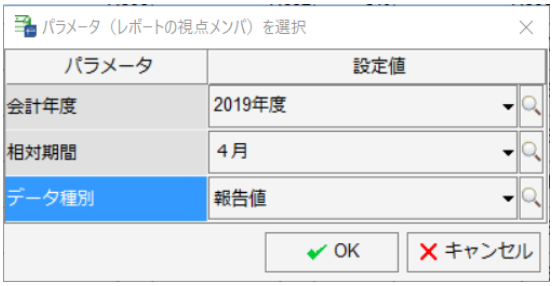
Step 1. フォームを選択する

ブラウザを起動後、フォーム選択画面が表示されたら、フォームリスト「予算管理」中の、「売上高・総利益集計表（フル機能版）」を選択して OK ボタンをクリックします。

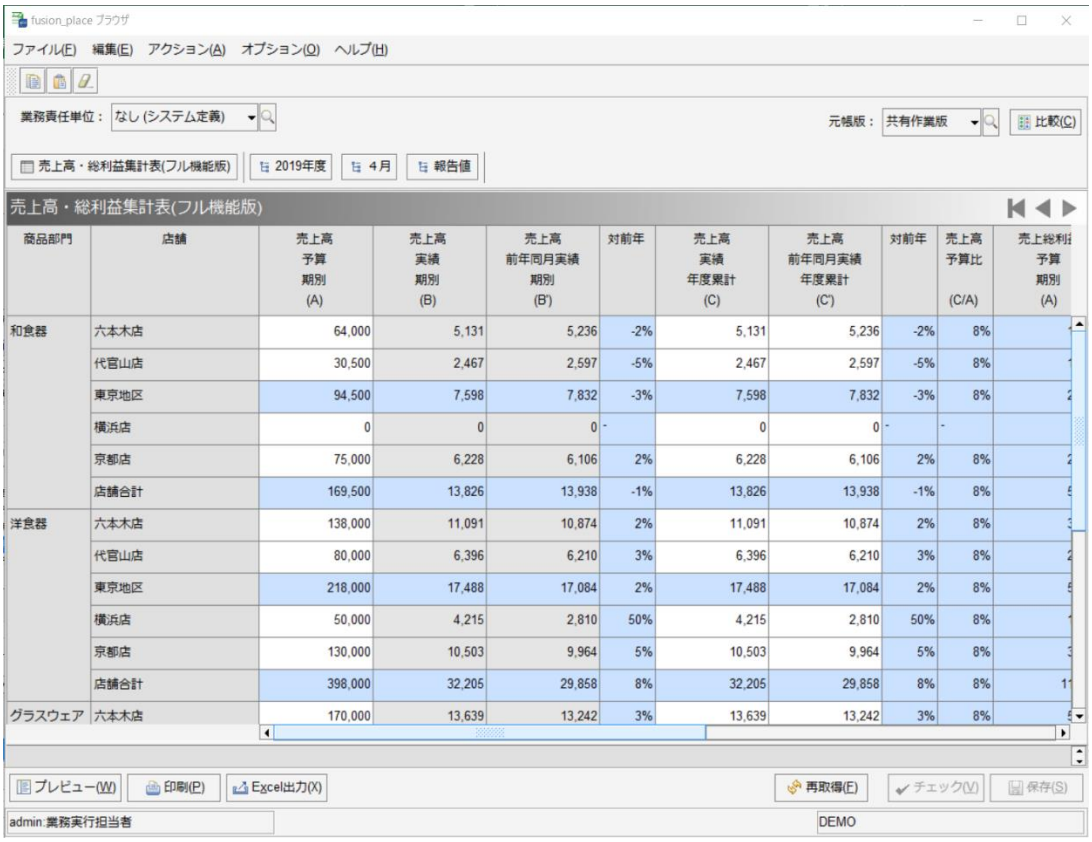


「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます。

「2019 年度」「４月」「報告値」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。



フォームが表示されます。Excel-Link と同様のレイアウト、比率の計算が実現できていることがお分かりいただけると思います。



商品部門	店舗	売上高 予算 期別 (A)	売上高 実績 期別 (B)	売上高 前年同月実績 期別 (B')	対前年	売上高 実績 年度累計 (C)	売上高 前年同月実績 年度累計 (C')	対前年	売上高 予算比 (C/A)	売上総利 予算 期別 (A)
和食器	六本木店	64,000	5,131	5,236	-2%	5,131	5,236	-2%	8%	
	代官山店	30,500	2,467	2,597	-5%	2,467	2,597	-5%	8%	
	東京地区	94,500	7,598	7,832	-3%	7,598	7,832	-3%	8%	
	横浜店	0	0	0	-	0	0	-	-	
	京都店	75,000	6,228	6,106	2%	6,228	6,106	2%	8%	
	店舗合計	169,500	13,826	13,938	-1%	13,826	13,938	-1%	8%	
洋食器	六本木店	138,000	11,091	10,874	2%	11,091	10,874	2%	8%	
	代官山店	80,000	6,396	6,210	3%	6,396	6,210	3%	8%	
	東京地区	218,000	17,488	17,084	2%	17,488	17,084	2%	8%	
	横浜店	50,000	4,215	2,810	50%	4,215	2,810	50%	8%	
	京都店	130,000	10,503	9,964	5%	10,503	9,964	5%	8%	
	店舗合計	398,000	32,205	29,858	8%	32,205	29,858	8%	8%	
グラスウェア	六本木店	170,000	13,639	13,242	3%	13,639	13,242	3%	8%	

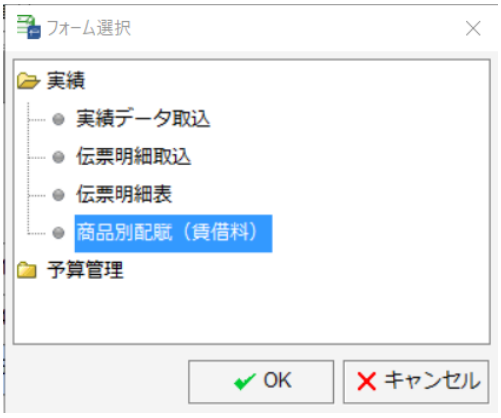
11.4　ご紹介機能③ 計算結果の保存、チェック

前項のフォームの「比率」は、フォーム上で計算、表示しただけですが、計算結果を元帳にに保存することも可能です。この機能により、配賦、換算処理などを実現できます。

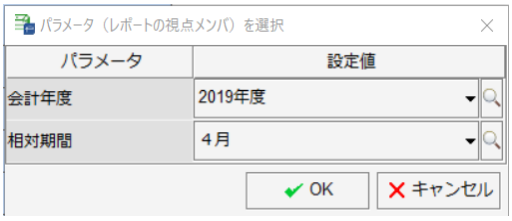
また、例えば配賦率の入力の際に、合計が 100%にならない場合、エラーとしてデータの保存を禁止することができます（バリデーションルール）。

Step 1. フォームを選択する

ブラウザを起動後、フォーム選択画面が表示されたら、フォームリスト「実績」中の「商品別配賦（賃借料）」を選択して OK ボタンをクリックします。



この後、「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます。
「2019 年度」「４月」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。

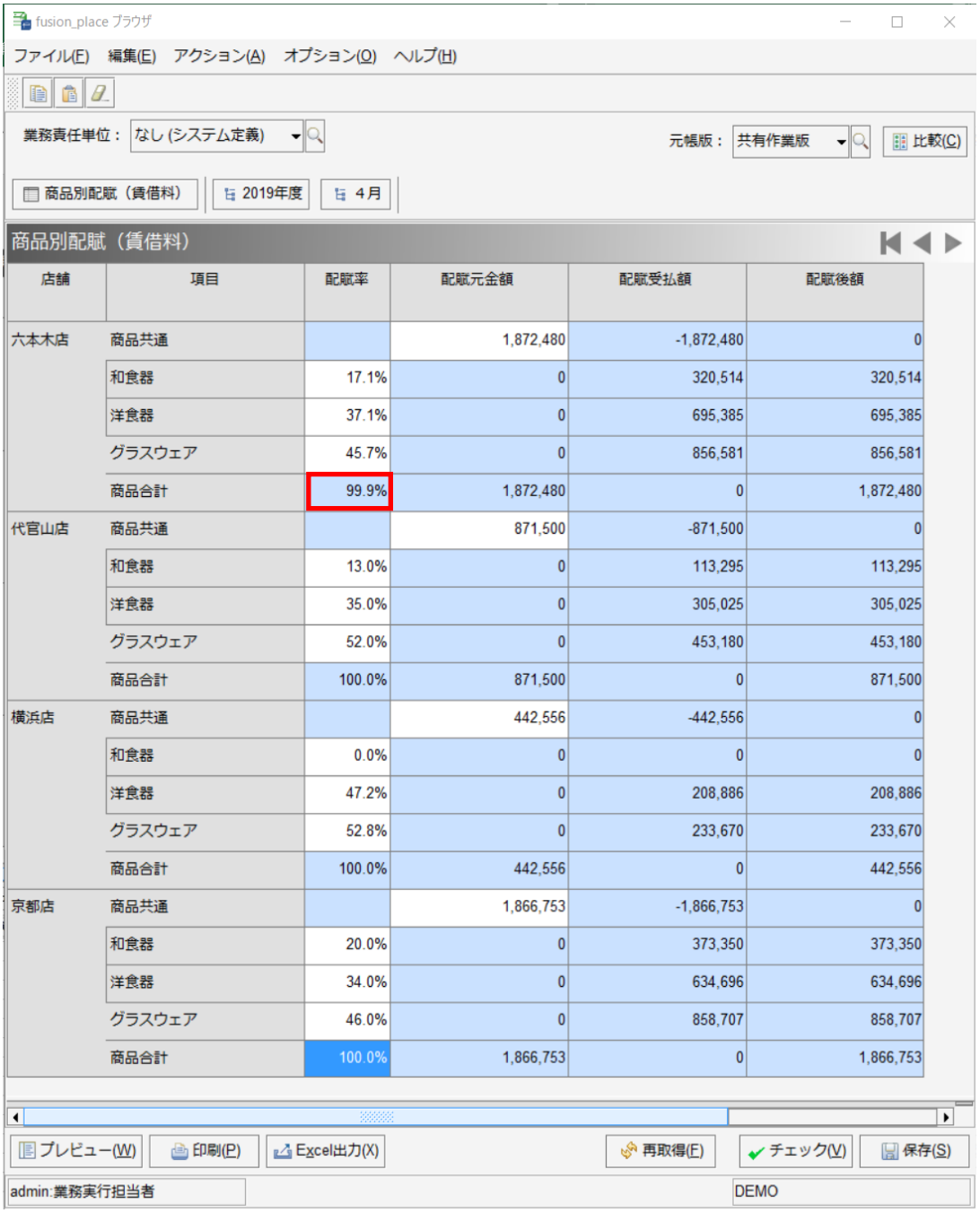


以下の画面が表示されます。

店舗	項目	配賦率	配賦元金額	配賦受払額	配賦後額
六本木店	商品共通		1,872,480	0	1,872,480
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	0.0%	0	0	0
	グラスウェア	0.0%	0	0	0
	商品合計	0.0%	1,872,480	0	1,872,480
代官山店	商品共通		871,500	0	871,500
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	0.0%	0	0	0
	グラスウェア	0.0%	0	0	0
	商品合計	0.0%	871,500	0	871,500
横浜店	商品共通		442,556	0	442,556
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	0.0%	0	0	0
	グラスウェア	0.0%	0	0	0
	商品合計	0.0%	442,556	0	442,556
京都店	商品共通		1,866,753	0	1,866,753
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	0.0%	0	0	0
	グラスウェア	0.0%	0	0	0
	商品合計	0.0%	1,866,753	0	1,866,753

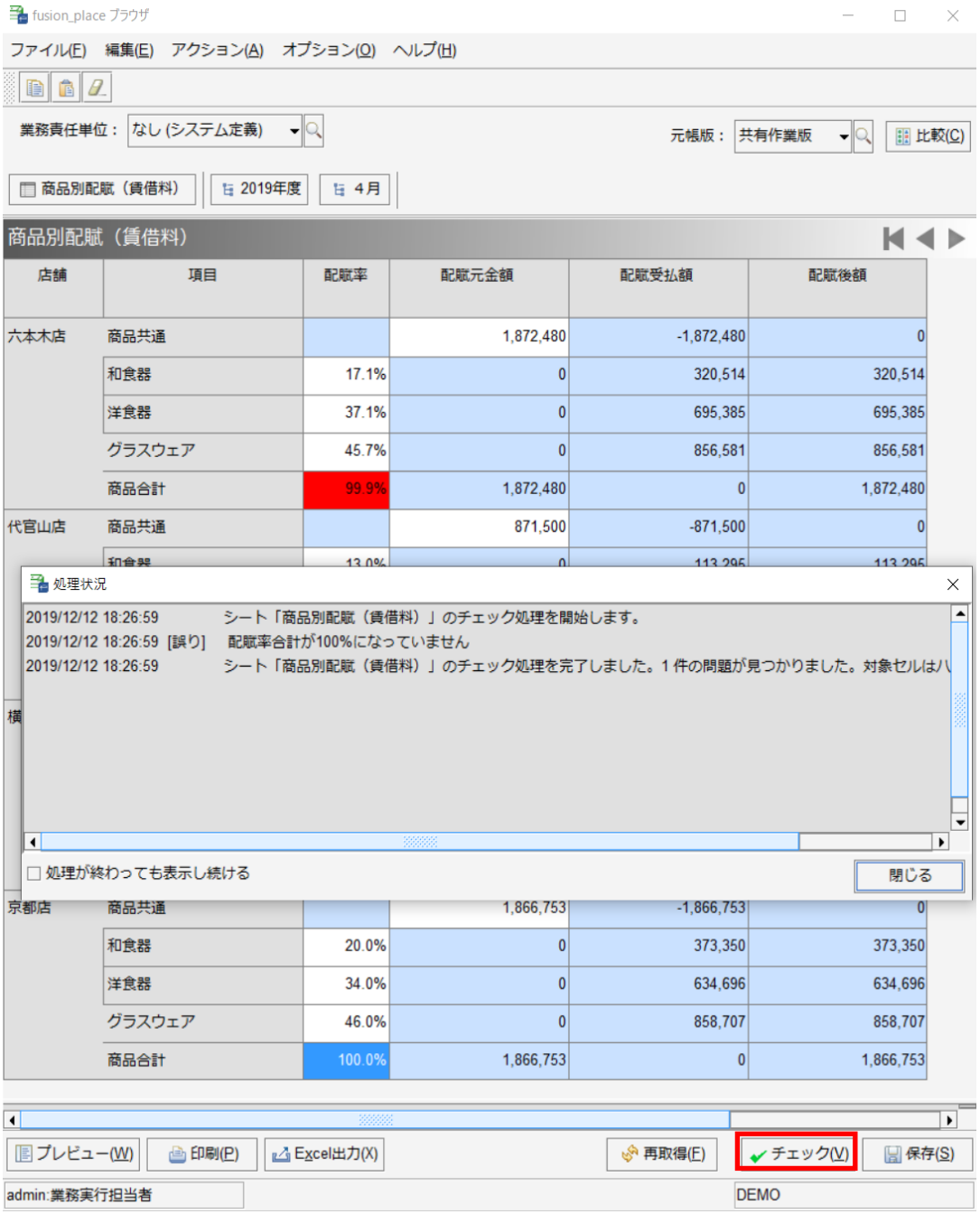
Step 2. 配賦率を入力し、結果を保存する

店舗・商品ごとに配賦率を入力します。以下のように入力してください。バリデーションルールでエラーとするために、六本木店は合計が 100%にならないようにしています。



店舗	項目	配賦率	配賦元金額	配賦受払額	配賦後額
六本木店	商品共通		1,872,480	-1,872,480	0
	和食器	17.1%	0	320,514	320,514
	洋食器	37.1%	0	695,385	695,385
	グラスウェア	45.7%	0	856,581	856,581
	商品合計	99.9%	1,872,480	0	1,872,480
代官山店	商品共通		871,500	-871,500	0
	和食器	13.0%	0	113,295	113,295
	洋食器	35.0%	0	305,025	305,025
	グラスウェア	52.0%	0	453,180	453,180
	商品合計	100.0%	871,500	0	871,500
横浜店	商品共通		442,556	-442,556	0
	和食器	0.0%	0	0	0
	洋食器	47.2%	0	208,886	208,886
	グラスウェア	52.8%	0	233,670	233,670
	商品合計	100.0%	442,556	0	442,556
京都店	商品共通		1,866,753	-1,866,753	0
	和食器	20.0%	0	373,350	373,350
	洋食器	34.0%	0	634,696	634,696
	グラスウェア	46.0%	0	858,707	858,707
	商品合計	100.0%	1,866,753	0	1,866,753

フォーム画面の右下にある「チェック」をクリックしてください。店舗毎に各商品別に入力した配賦率の合計が 100%にならない場合、エラーメッセージが表示され、合計セルがハイライトされます。



六本木店・グラスウェアの配賦率を 45.8%に変更し、再度チェックボタンをクリックしてください。ハイライトが解消しエラーメッセージも表示されません。

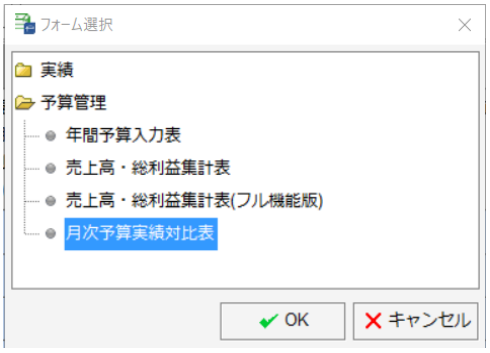
右下の保存ボタンをクリックすると、計算結果を元帳に保存できます。

11.5　ご紹介機能④ ドリルダウン

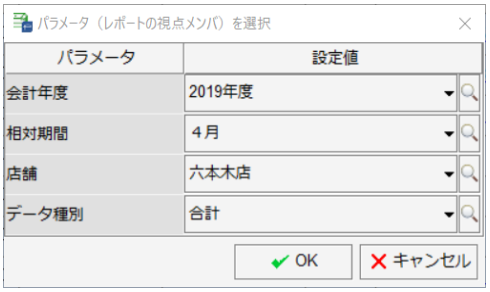
フォーム「月次予算実績対比表」は伝票明細へドリルダウンできます。

Step 1. フォームを選択する

ブラウザを起動後、フォーム選択画面が表示されたら、フォームリスト「予算管理」中の「月次予算実績対比表」を選択して OK ボタンをクリックします。

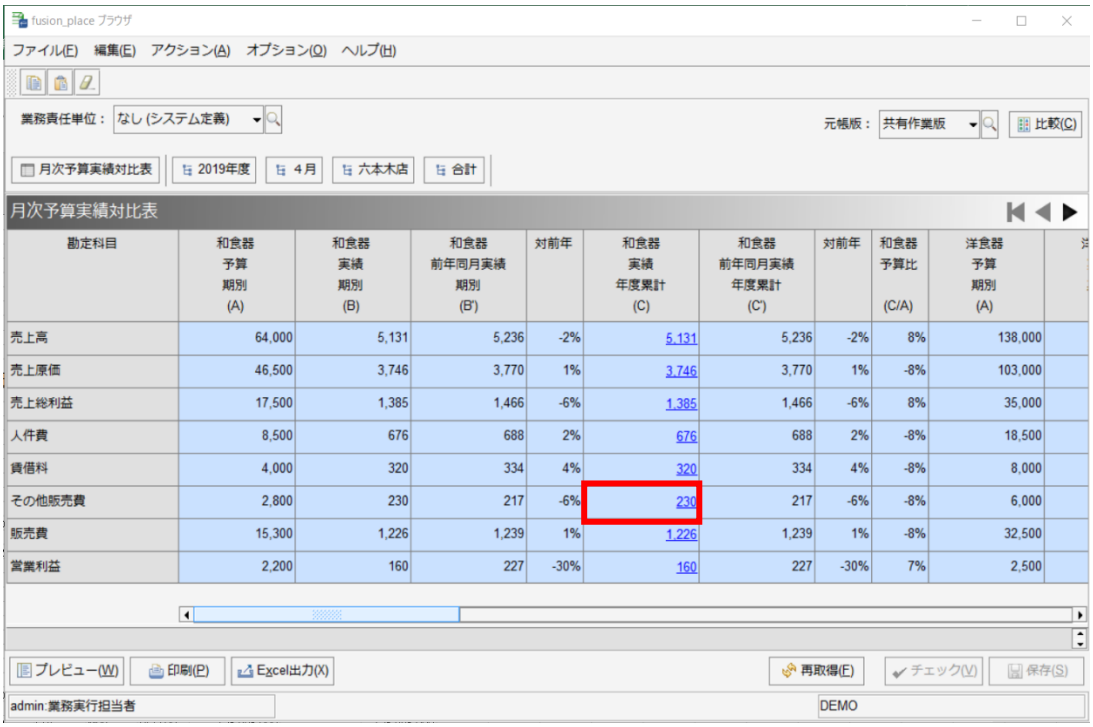


この後、「パラメータ（レポートの視点メンバ）を選択」画面が表示されます。
「2019 年度」「4 月」「六本木店」「合計」を選択し、OK ボタンをクリックして下さい。



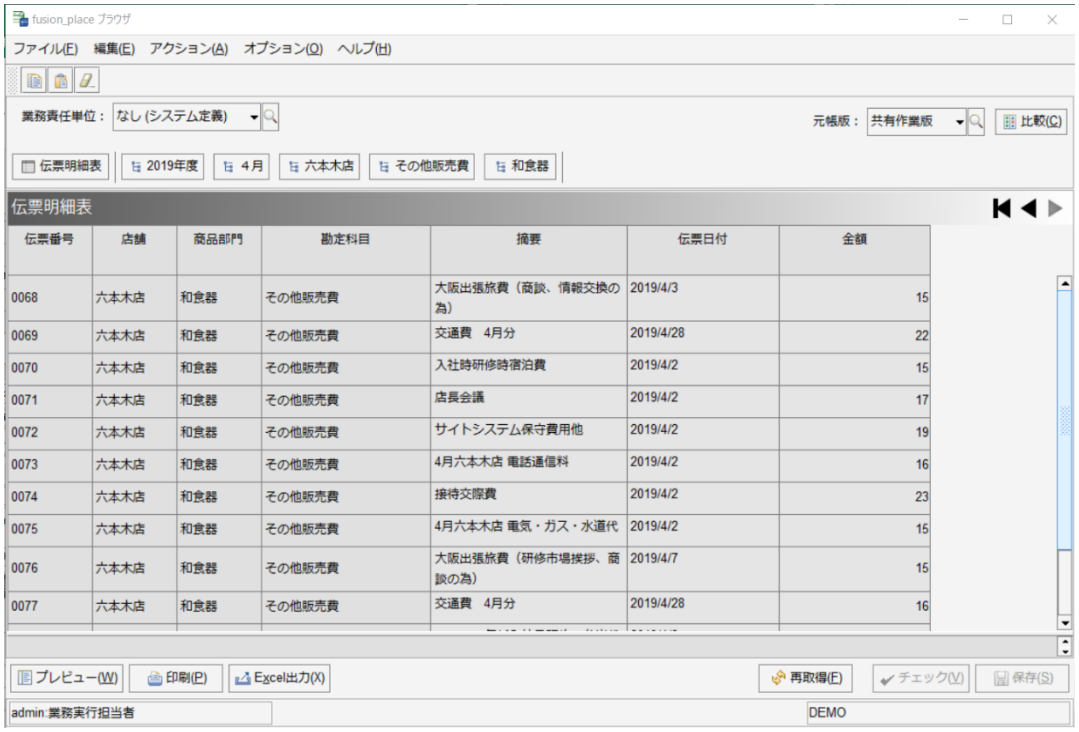
Step 2. 伝票明細にドリルダウンする

フォームが表示されます。ここで青字の下線付きの金額をクリックすると、伝票明細画面にドリルダウンします



勘定科目	和食器 予算 期別 (A)	和食器 実績 期別 (B)	和食器 前年同月実績 期別 (B')	対前年	和食器 実績 年度累計 (C)	和食器 前年同月実績 年度累計 (C')	対前年	和食器 予算比 (C/A)	洋食器 予算 期別 (A)
売上高	64,000	5,131	5,236	-2%	5,131	5,236	-2%	8%	138,000
売上原価	46,500	3,746	3,770	1%	3,746	3,770	1%	-8%	103,000
売上総利益	17,500	1,385	1,466	-6%	1,385	1,466	-6%	8%	35,000
人件費	8,500	676	688	2%	676	688	2%	-8%	18,500
賃借料	4,000	320	334	4%	320	334	4%	-8%	8,000
その他販売費	2,800	230	217	-6%	230	217	-6%	-8%	6,000
販売費	15,300	1,226	1,239	1%	1,226	1,239	1%	-8%	32,500
営業利益	2,200	160	227	-30%	160	227	-30%	7%	2,500

「和食器 実績 年度累計(C)」列、「その他販売費」行の金額（上記画面赤枠）をクリックしてください。



伝票番号	店舗	商品部門	勘定科目	摘要	伝票日付	金額
0068	六本木店	和食器	その他販売費	大阪出張旅費（商談、情報交換の為）	2019/4/3	15
0069	六本木店	和食器	その他販売費	交通費　4月分	2019/4/28	22
0070	六本木店	和食器	その他販売費	入社時研修時宿泊費	2019/4/2	15
0071	六本木店	和食器	その他販売費	店長会議	2019/4/2	17
0072	六本木店	和食器	その他販売費	サイトシステム保守費用他	2019/4/2	19
0073	六本木店	和食器	その他販売費	4月六本木店 電話通信料	2019/4/2	16
0074	六本木店	和食器	その他販売費	接待交際費	2019/4/2	23
0075	六本木店	和食器	その他販売費	4月六本木店 電気・ガス・水道代	2019/4/2	15
0076	六本木店	和食器	その他販売費	大阪出張旅費（研修市場挨拶、商談の為）	2019/4/7	15
0077	六本木店	和食器	その他販売費	交通費　4月分	2019/4/28	16

※この明細表のデータは、「11.2 ご紹介機能① 高度なインポート」でインポートした明細表のデータです。

※ 画面右上の◂をクリックすると、元のフォームに戻ることができます。

fusions

http://www.fusions.co.jp

Copyright © 2019- fusions corporation